

# 博士論文

ウェブニュース見出しの翻訳メカニズムに関する社会言語学的研究

—中日翻訳と日中翻訳を中心に—

李 正政

広島大学大学院国際協力研究科

2018 年 3 月

ウェブニュース見出しの翻訳メカニズムに関する社会言語学的研究  
—中日翻訳と日中翻訳を中心に—

D156734

李 正政

広島大学大学院国際協力研究科博士論文

2018 年 3 月

広島大学大学院国際協力研究科

論文名: ウェブニュース見出しの翻訳メカニズムに関する社会言語学的研究  
—中日翻訳と日中翻訳を中心に—

学位の名称: 博士(学術)

学生番号: D156734

氏名: 李 正政

2018 年 1 月 30 日

審査委員会

委員長・教授

佐藤 暢治



准教授

深見 兼孝



教授

堀田 泰司



広島大学大学院文学研究科・教授

高永 茂



関西学院大学大学院言語コミュニケーション文化研究科・教授

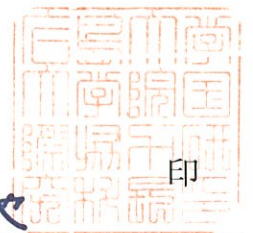
于 康



2018 年 2 月 23 日

研究科長

馬場 卓也



# 目 次

<b>第一章 序 論 .....</b>	<b>1</b>
1. 研究の背景と目的 .....	1
2. ウェブニュース見出しの関連研究 .....	5
2.1 日本語見出しの関連研究 .....	6
2.2 中国語見出しの関連研究 .....	7
2.3 翻訳の観点を取り入れた日中両言語の見出しの関連研究 .....	8
2.4 情報の捉え方に関わる見出しの研究 .....	9
3. 研究資料 .....	10
4. 研究方法 .....	11
5. 本論文の構成 .....	12
 <b>第二章 ウェブニュース見出しにおける形式と情報 .....</b>	<b>14</b>
0. はじめに .....	14
1. オリジナルの中国語ウェブニュース見出し .....	14
1.1 形式面の特徴 .....	15
1.1.1 表現形式 .....	15
1.1.2 構文形式 .....	17
1.2 情報面の特徴 .....	22
1.3 本節のまとめ .....	23
2. オリジナルの日本語ウェブニュース見出し .....	24
2.1 形式面の特徴 .....	25
2.1.1 表現形式 .....	25
2.1.2 構文形式 .....	26
2.2 情報面の特徴 .....	29
2.2.1 見出しの段間における省略 .....	29
2.2.2 見出しの文末における省略 .....	31
2.3 本節のまとめ .....	35
3. まとめ .....	36

<b>第三章 ウェブニュース見出しの中日翻訳における補足的情報</b> .....	<b>38</b>
0. はじめに .....	38
1. 翻訳された日本語ウェブニュース見出しの形式と情報.....	39
2. 単一見出し .....	41
2.1 無変化 .....	42
2.2 形式面だけの变化 .....	42
2.3 情報面の变化.....	44
2.3.1 書き換え .....	44
2.3.2 補充 .....	44
2.4 本節のまとめ.....	46
3. 複合見出し .....	46
3.1 「引題＋主題」の複合見出し .....	47
3.1.1 人物名及び機関名 .....	47
3.1.2 ニュースの背景 .....	48
3.1.3 評価的な表現 .....	50
3.1.4 否定的な表現 .....	50
3.1.5 具体的な表現 .....	51
3.1.6 曖昧な表現 .....	51
3.1.7 本節のまとめ .....	52
3.2 「主題＋副題」の複合見出し .....	53
3.2.1 ニュース事件に関する具体的な内容や説明 .....	53
3.2.2 ニュース事件に対する評価や行動 .....	56
3.2.3 ニュース事件の影響 .....	57
3.2.4 本節のまとめ .....	58
3.3 「引題＋主題＋副題」の複合見出し .....	60
4. まとめ .....	62
<b>第四章 ウェブニュース見出しの日中翻訳における文末の情報</b> .....	<b>66</b>
0. はじめに .....	66

1. 翻訳された中国語ウェブニュース見出しの形式と情報.....	68
2. 漢語サ変動詞語幹止め見出し .....	70
2.1 「助詞＋漢語サ変動詞語幹」のタイプ .....	71
2.2 「漢語名詞＋漢語サ変動詞語幹」のタイプ .....	73
2.3 本節のまとめ .....	74
3. 名詞止め見出し .....	75
3.1 人物名や地名に関する表現 .....	75
3.2 数値に関する表現 .....	76
3.3 予測や可能の意を表す表現 .....	77
3.4 本節のまとめ .....	77
4. 助詞止め見出し .....	78
4.1 「へ」 .....	79
4.2 「に」 .....	80
4.3 「を」 .....	81
4.4 「か」 .....	82
4.5 「も」 .....	83
4.6 本節のまとめ .....	83
5. 動詞止め見出し .....	85
5.1 動詞連用形 .....	85
5.2 動詞終止形 .....	86
5.3 本節のまとめ .....	91
6. まとめ .....	92
 <b>第五章 ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳における翻訳戦略.....</b>	<b>95</b>
0. はじめに .....	95
1. ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳戦略 .....	96
1.1 形式面の対照 .....	96
1.1.1 表現形式 .....	96
1.1.2 構文形式 .....	99
1.2 情報面の対照 .....	101

1.2.1 文末情報の省略 .....	102
1.2.2 全体の情報 .....	109
1.3 本節のまとめ .....	113
2. ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳戦略 .....	114
2.1 形式面の対照 .....	114
2.1.1 表現形式 .....	114
2.1.2 構文形式 .....	117
2.2 情報面の対照 .....	118
2.3 本節のまとめ .....	121
3. ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳における情報の編集 .....	122
4. まとめ .....	123
<b>第六章 結 論 .....</b>	<b>124</b>
1. ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳メカニズムと翻訳戦略 .....	124
2. ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳メカニズムと翻訳戦略 .....	127
3. 本研究の主張と再検討 .....	131
4. 今後の課題 .....	133
<b>参考文献 .....</b>	<b>135</b>
<b>用例出典 .....</b>	<b>138</b>
<b>謝 辞 .....</b>	<b>140</b>



図 2-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの文字数 .....	16
図 2-2 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける構文要素の関係 .....	20
図 2-3 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数 .....	25
図 3-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの概念説明 .....	39
図 3-2 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しの文字数 .....	40
図 3-3 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しの概念説明 .....	41
図 3-4 単一見出しの補足的情報に関する翻訳メカニズム .....	46
図 3-5 複合見出しの「引題」に関する翻訳メカニズム .....	52
図 3-6 複合見出しの「副題」に関する翻訳メカニズム .....	59
図 4-1 日本語から翻訳された中国語ウェブニュース見出しの文字数 .....	69
図 5-1 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数 .....	97
図 5-2 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しの文字数 .....	97
図 5-3 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの文字数 .....	115
図 5-4 日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出しの文字数 .....	115

## 表

表 2-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの段数 .....	17
表 2-2 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの構文形式 .....	21
表 2-3 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの段数 .....	26
表 2-4 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの構文形式 .....	27
表 2-5 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの空白によって代用された表現 .....	30
表 3-1 ウェブニュース見出しの中日翻訳における単一見出しの変化 .....	42
表 3-2 オリジナルの中国語ウェブニュース複合見出しの構成パターン .....	47
表 3-3 「主題＋副題」の複合見出しにおける翻訳方法 .....	59
表 3-4 補足的情報に関する翻訳状況 .....	63
表 4-1 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末表現 .....	66
表 4-2 ウェブニュース見出しの日中翻訳における段数の変化 .....	69
表 4-3 漢語サ変動詞語幹止め見出しの翻訳メカニズム .....	75
表 4-4 名詞止め見出しの翻訳メカニズム .....	78
表 4-5 助詞止め見出しの翻訳メカニズム .....	84
表 4-6 動詞止め見出しの翻訳メカニズム .....	92
表 4-7 文末の情報に関する翻訳状況 .....	93
表 5-1 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末表現 .....	102
表 5-2 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しにおける文末表現 .....	103
表 5-3 オリジナルの中国語見出しと翻訳された中国語見出しとの形式面における相違点 .....	117
表 6-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける形式と情報 .....	124
表 6-2 人民網が行ったウェブニュース見出しの中日翻訳 .....	125
表 6-3 ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳戦略 .....	126
表 6-4 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける形式と情報 .....	128

表 6-5 NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳.....	129
表 6-6 ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳戦略 .....	130

# 第一章 序 論

## 1. 研究の背景と目的

日本と中国両国における経済交流、あるいは文化交流が深まった今日、ウェブサイトにも中国語版を開設している日本のニュースメディアは数知れない。同様に、日本語版を開設している中国のニュースメディアも数多い。こうした日中両国のニュースメディアは情報伝達の窓口として、自国の言語で作成したウェブニュースを日本語から中国語へ、または中国語から日本語へと翻訳し、ウェブサイトを通じてそれぞれの国の主張、実情、日中関連情報をすばやく日中両国の読者に届けている。

中国メディアの人民網は世界最大の中国語及び多言語のニュースサイトであり、ウェブニュースを中国語から日本語に翻訳している。翻訳された日本語ウェブニュースの読者は主として日本語母語話者、そして日本語学習者である。一方、日本メディアのNHKは日本で最大、かつ最も影響力がある公共放送局の公式ニュースサイトであり、中国語に翻訳したウェブニュースを掲載している。翻訳された中国語ウェブニュースの読者は主として中国語母語話者、そして中国語学習者である。

読者がニュースサイトを利用する際、真っ先に目にするのはウェブニュース見出しである。ウェブニュース見出しは、ウェブニュースの中核的情報の縮約であり、読者にウェブニュースの要点を簡潔に伝え、ウェブニュースを読むように導く働きを持っている<sup>1)</sup>。ウェブニュース見出しの役割は言語の種類とは関係なく、ウェブニュースという文体の性質で決まるものである。そのため、日本語ウェブニュース見出しと中国語ウェブニュース見出しは、それぞれのウェブニュースの記事において同様の役割を果たしていると言える。

従来の見出しに関わる議論としては、新聞見出しの形態や文法を論じた水内(2002)、森山(2009)、英語・日本語・トルコ語など多言語のウェブニュース見出しに現れたテンス・アスペクトを分析した青山(2016)、女性雑誌の見出し表現を考察した渡邊(2005)などを挙げることができる。

そのなかでも新聞見出しを中心とした研究は、水内(2002)以外にも多数行われている。

---

<sup>1)</sup> 野口(2002:94)は、新聞の見出しは「最も的確・簡潔に要約された記事」そのものであり、読み手は見出しから記事の内容を推測し、読むべき記事・読みたい記事を選択すると述べている。

尹(2015)によると、新聞見出しは時間的・空間的制約の働く特殊なテキストの一種となる。ウェブニュース見出しもこの点は同様であり、ニュースのウェブサイトは時間的・空間的に制約されたものである。この制約のもとで、重要度の高い情報を精練し、適切な形式でウェブニュース見出しを表現することは容易なことではない。さらに、日本語と中国語という二つの言語体系の中で言語表現そのものの違いにより、ウェブニュース見出しが形式的にそれぞれ異なる特徴を持ち合わせていることも予想される。そのため、翻訳過程でウェブニュース見出しの訳文を作成する際には情報の伝達を実現するとともに、情報の扱いや訳文の組み立てにおいて両言語の表現特徴を配慮し、工夫する必要がある。また、ウェブニュース見出しは分量的には短いが、ウェブニュースにおける最も重要な情報を提示するため、読み手にとってはウェブニュースの情報を推測するうえで重要な手掛かりになりうる。こうした点を見ると、ウェブニュース見出しの翻訳はウェブニュース翻訳における重要な過程の一つと言ってよい。優れた翻訳を通じて、ウェブニュース見出しは日中両国の読者にウェブニュースへの興味をかき立たせ、よりの確な情報を伝えることが望まれている。

人民網に掲載された中日対訳のウェブニュース見出しと、NHKに掲載された日中対訳のウェブニュース見出しとを観察すると、見出しの訳文は原文と必ずしも一致した対応を見せるわけではない。ウェブニュース見出しの中日翻訳または日中翻訳の過程で、(1)と(2)のように<sup>2)</sup>、形式を変化させる場合が認められる。(1)は、元々一段で表した中国語ウェブニュース見出しがその日本語訳文では二段の形式で表されている。一方、(2)は、元々二段で表した日本語ウェブニュース見出しがその中国語訳文では一段の形式で表されている。

(1) 中原：日本 2014 财年实际工资创最大降幅

日訳：日本の実質賃金が過去最大の低下幅 14 年度

(人民網 2015/5/20)

(2) 日原：日米韓外務次官級協議 3 か国の協力を確認

中訳：日美韩举行副外长级协商

---

<sup>2)</sup> 例を挙げるとき、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しを「中原」、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しから翻訳された日本語ウェブニュース見出しを「日訳」、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを「日原」、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しから翻訳された中国語ウェブニュース見出しを「中訳」と記す。

(NHK 2015/4/17)

さらには原文の情報をそのまま伝えることもあれば、原文の情報をある程度変容させ伝えることもある。(3) (4) (5)では、原文から情報の選択を経て、一部の情報が省略されたり、新たに一部の情報が補充されたり、あるいは一部の情報が書き換えられたりしている。

(3) 中原：中国抗 MERS 薬物研究获重要进展——药物可直接用于紧急防护

日訳：中国人研究者、MERS 治療薬の研究に進展

(人民網 2015/6/2)

(4) 日原：スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏

中訳：鈴木大地将出任体育厅长官

(NHK 2015/9/11)

(5) 中原：湖北神农架、广西花山岩画景观将申请 2016 年世界遗产

日訳：中国、2016 年の世界遺産大会で物件 2 件登録申請へ

(人民網 2015/7/10)

(3)の下線部は、中日翻訳の過程で省略された情報である。(4)の下線部は、日中翻訳の過程で補充された情報である。そして、(5)の下線部は中日翻訳の過程で書き換えられた中国語原文の情報と、日本語訳文の情報を表している。こうした省略、補充、書き換えといった情報変容はウェブニュース見出しの中日翻訳及び日中翻訳の過程でともに観察される。

省略現象について、久野(1978:8-15)はその根本原則として、「省略されるべき要素は、言語的、あるいは非言語的文脈から、復元可能(recoverable)でなければならない」と指摘している。そして、省略の順序には「より古い(より重要度の低い)インフォメーションを表す要素からより新しい(より重要な)インフォメーションへと順に行う」という制約があり、その制約は恐らく汎言語的制約と言えるほど、多くの言語に適用されるといったことも指摘している。しかし、ウェブニュース見出しというテキストに翻訳行為を加える過程では、何が省略されているのかについて、その規則性は未だに明らかにされていない。そして、省略だけでなく、ウェブニュース見出しの翻訳過程で、補充と書き換えも頻繁に行われているが、具体的に何が補充されるのか、何が書き換えられるのかも明確に把握されていない。要するに、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳を行う際、情報がど

のように捉えられているのか、そして、翻訳の目標言語でウェブニュースの情報がどのように伝えられているのか、いわゆる、両過程でそれぞれどのような翻訳メカニズムを用いているのか疑問として存在する。

従来の研究では、日本語または中国語の単一言語のウェブニュース見出しをテキストとして、それが持つ特徴について分析されている。例えば、湯浅(2014a、2014b、2016、2017)による一連の研究や、孫(2007)などがそうである。しかし、日中両言語のウェブニュース見出しにおける相違点を論じた研究、また対訳例を用いた両言語間の対照分析はさほど注目されていない。さらに、中日翻訳及び日中翻訳過程において、ウェブニュース見出しにおける情報の捉え方に言及する談話的な研究は管見の限り、見つかっていない。

坪井(2017:44)は、メディア翻訳は言語を使った実践(言語使用、語用)であり、社会や文化と不可避的に結びついていることになる。つまり、翻訳とは、社会、文化、歴史的コンテキストとの相互作用の中で生起する社会的言語実践であると指摘している。その通り、ウェブニュース見出しの中日翻訳及び日中翻訳はメディア翻訳の一つとして、日中両国が異なる言語で情報を行き来させる際、そこには同時に社会的な影響ももたらされる。そのため、ウェブニュース見出しの中日翻訳及び日中翻訳を考察する際には、ウェブニュース見出しの翻訳メカニズムを明らかにするだけでなく、言語と社会との相関関係に注目する社会言語学の視点から次のことも明らかにしたい。それは、中日翻訳及び日中翻訳それぞれの翻訳メカニズムによって翻訳されたウェブニュース見出しが読者にどのような影響を与えるのか、そこに反映されている翻訳戦略である。

本研究の目的は、中国語と日本語のウェブニュース見出しを対象に、それらの中日翻訳または日中翻訳の過程において、見出しの情報が如何に捉えられ、伝えられているのかという翻訳メカニズムを明らかにしたうえで、社会言語学の視点から両過程に反映されている翻訳戦略を解明することにある。

中日翻訳と日中翻訳におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムと翻訳戦略を考察する際には、次の三つの課題がある。

一つ目は、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと日本語ウェブニュース見出しについて、形式面と情報面から、言語別に見出しの特徴を明らかにすることである。

二つ目は、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳について、各翻訳過程における情報の捉え方を考察し、それぞれの翻訳の仕組み、いわゆる、翻訳メカニズムを解明することである。

三つ目は、翻訳されたウェブニュース見出しについて、オリジナルのウェブニュース見出しと比較することで、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳において、それぞれどのような翻訳戦略を取っているのかを明らかにすることである。

本研究はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと日本語ウェブニュース見出しにおける形式面と情報面の特徴に基づき、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳において、情報の捉え方に関わる翻訳メカニズムを明らかにしたうえで、さらに、両過程の翻訳戦略を解明する社会言語学的研究である。これらのことは、日本語と中国語の対照研究、さらにはウェブニュースの翻訳にも貢献できる可能性があるものである。

なお、本研究ではウェブニュース見出しだけを対象にし、ウェブニュースの本文は考察対象としていない。

(6) 日原: 9 日は、大勢の観光客や修学旅行生が原爆資料館を訪れて展示スペースの前に列を作り、順番にメッセージを読んだり、折り鶴を写真に収めたりしていました。

中訳: 今天, 众多观光游客和修学旅行的学生参观了广岛和平纪念资料馆。大家阅读了奥巴马的留言, 并对奥巴马赠送的纸鹤拍照留念。

(NHK 2016/6/9)

ウェブニュースの本文にも、(6)の下線部で示したように、翻訳によって文連接上の変容や、主語と修飾語の補充は観察されるが、これはウェブニュースの本文に限定されるものではない。一般の小説などのテキストの翻訳にも認められるものである。そのため、本研究ではウェブニュースの本文は本研究の対象としていない。

## 2. ウェブニュース見出しの関連研究

ウェブニュース見出しの関連研究について、本節では、四つの方面から主要な研究をまとめておく。日本語見出しの関連研究(2.1)、中国語見出しの関連研究(2.2)、翻訳の観点を取り入れた日中両言語の見出しの関連研究(2.3)、情報の捉え方に関わる見出しの研究(2.4)という順に述べる。

## 2.1 日本語見出しの関連研究

まず、日本語見出しの関連研究について述べる。日本語の「新聞」という普通名詞はこれまで多くの場合、「新聞紙」というものとしてイメージされ理解されてきた(浜田等、2009:45)。実際、日本では、数多くの見出しに関する研究は新聞紙の新聞見出しを中心に行われ、言語学及び修辞学を主な研究方法として、言語表現の特徴を明らかにすることが重視されてきた。例えば、野口(2002)と森山(2009)がそうである。野口(2002)は、新聞見出しの構成について、基本的には、記事全体の最も重要な点をまとめた「主見出し」と、それに補足的情報を与える「そで見出し」の二本立てであると述べている。また、日本語見出しの特徴について、名詞止め、助詞止めによる述部省略の多さがあるとともに、述部が省略されることによって、テンスやムードが明示されないことを挙げている。見出しの省略方法を「表現の工夫による省略」と「記号による省略」との二種類に分け、前者には「助詞の省略、名詞止め、助詞止め、略語、略称」があると述べている。ただし、省略の原因について文法上の検討はまだ不十分に思われると、森山(2009)は指摘している。

その森山(2009)は、文法カテゴリーの視点から、新聞見出しに観察される格構造、テンス・アスペクト、モダリティについて検討している。「が」「を」の格は消去されることが多く、他方「から」「へ」の格は保存されていることを明らかにしている。そして、未来時制が空間的比喩によって「へ」で表示されること、さらには後続する他動詞を省略した「を」が要求表現を示すことを述べている。

近年は、ウェブニュース見出しに着目した研究も増えている。代表的な研究として、ウェブニュース見出しの話題について論じた黒崎(2007)が挙げられる。黒崎(2007)は、ニュース見出しの話題とは、見出しまたはニュースの中の最も重要な語句、またはニュースを理解するために必要な語句であり、ニュース全体に関わるものである。そして、見出しの話題は、社会的周知度が高く、読み手の知識が一目で活性化されると判断された語彙でなければならないと指摘している。

湯浅(2014a、2014b、2016、2017)の一連の研究も、ウェブニュース見出しを中心に行ったものである。これらのなかで Yahoo のニュースを研究対象としたものが湯浅(2014a、2014b)である。湯浅(2014a)では、見出しの予測可能性という観点から、13 字の Yahoo トピックスの見出しを用いて、見出しの内容と形式面との関連性を考察している。そして、見出しから記事全文の内容を把握する際、二字漢語に「する」の活用語尾を補うだけで理

解がたやすくできる場合と、想像力や自身が有する常識に照らし合わせて省略された述部の内容を補うことで理解できる場合とがあることを明らかにしている。また、見出しと記事本文の中心文や主題文とが対応関係にあることをも明らかにしている。湯浅(2014b)では、「Yahoo きっず「気になるニュース」」の見出しは語末・句末の述部のあり方によって、「述部あり」見出しと「述部なし」見出しとに大別され、見出しには、「過去形や「？」で、事態が起きた時点を正確に表現する」「連体修飾節の倒置構造で出来事に注目させる」「話し言葉や語りかけの口調を再現する」という特徴があることを明らかにしている。湯浅(2016、2017)は小中学生や在住外国人に向けた「NEWS WEB EASY」のニュースと、一般向けの「NHK NEWS WEB」のニュースと比較したものである。湯浅(2016)は見出しの句末・文末に着目し、形式的な特徴を論じている。一方、湯浅(2017)は見出しや記事本文に現れた複合語「臨時一語」(その場で臨時に作られる合成語)に焦点を当てている。一般向けのニュースから、小中学生や外国人向けのニュースを作成する際には、見出しを記事本文と同様に、臨時一語に省略された語句を付加して文の形に復元すること、また、漢語を和語にするという表現手法が見られることを明らかにしている。

ここで挙げた先行研究を見ると、日本語の新聞見出し、あるいはウェブニュース見出しに関わる研究では、見出しの話題について論じたものもあるにはあるが、それよりは見出しの文末に着目し、その特徴を考察する研究が多く行われている。特に文末の省略という事象は見出しの文法上大きな特徴として注目されている。しかし、見出しの文末でどのような情報が省略されているのかについては、談話的な考察が必要と思われる。

## 2.2 中国語見出しの関連研究

次に中国語見出しの関連研究について述べる。新聞見出しを対象とした研究を中心に言語学的研究がなされている。その一つとして、彭(2006)を挙げることができる。彭(2006)は中国の新聞『人民日報』の見出しを研究対象に、品詞、文構造と文型といった三つの面から新聞見出しに見られる文法上の特徴を考察している。新聞見出しは、単文の場合は主述構文が主要な構文形式であり、複文の場合は各分句<sup>3)</sup>の間に並列・因果・漸進・逆接・

<sup>3)</sup> 中国語には「分句」という概念がある。北村(1995)によると、「分句」とは日本語の文相当の独立性を持つものとなる。中国語の一文にはいくつかの分句が存在する場合があるが、分句と分句の間は「、」や「，」などで繋がっている。例えば、「我同习主席多次会面，印中双方高层保持着密切沟通。」では、「，」で繋がっている前後の二つの部分が、それぞれ「分句」と言えるものである。

条件・目的・仮説といった接続関係があることを明らかにしている。そして、時制を表す助詞「了」、疑問詞、感嘆詞などの使用が極めて少ないとも述べている。

中国語のウェブニュース見出しについては、康(2005)、孫(2007)等の研究がある。康(2005)は、ウェブニュース見出しを新聞紙・テレビ放送・ラジオ放送などの伝統なメディアにおける見出しと対照し、ウェブニュース見出しの構文、特徴、機能及び問題点など全面的に分析している。ウェブニュース見出しを構文形式、ページ上の位置付け及びジャンルといった三つの基準に基づいてそれぞれ分類し、内容上では“実題(実題)”<sup>4)</sup>であること、形式面では一段見出しが主に見られ、同時的かつスクロール的に報道できること、ハイパーリンクが付けられることなどを特徴として述べている。さらに、見出しの機能については、主にニュースの内容を提示すること、ニュースの影響を評価すること、ほかのウェブニュースをリンクかつ検索すること、ダウンロードを提示することといった四つの機能が認められると述べている。孫(2007)は、中国語ウェブニュース見出しについて、形式的な特徴を明らかにした上で、新聞見出しとの相違を論じたものである。ウェブニュース見出しは構文要素、情報量、並び方と修辞表現といった四つの面で新聞見出しとの間に相違が存在することを明らかにしている。

ここで挙げた研究のように、中国語の新聞見出しあるいはウェブニュース見出しについては、両者とも主に機能、文法上の特徴に注目している。しかし、見出しの情報上の構成特徴についてはほとんど論じられておらず、ウェブニュースの本文と関わるどのような情報が見出しで提示されているのかが問題点として残されている。

### 2.3 翻訳の観点を取り入れた日中両言語の見出しの関連研究

見出しについて、翻訳の観点を取り入れた研究も行われている。章(2012)は人民網の中日対訳ウェブニュースを研究対象とし、その見出しの翻訳について情報面では、以下の五つにあたる表現が省略される傾向にあると述べている。

- ①日本語に訳すと長たらしくなる表現
- ②一つ言葉で十分体現できる表現
- ③わかりにくいと思われる表現
- ④読者の視点・立場の変わることによって勘違いしやすくなる表現

<sup>4)</sup> 《新闻传播百科全书》(1998:195-196)によると、“実題(実題)”は見出しにおける事実を叙述する部分を指している。

## ⑤誤解を招きやすい主観的な表現

ただし、章(2012)は主に省略の現象を中心として論じており、それ以外の翻訳方法や翻訳に含まれた工夫には注目していない。

ウェブニュースの日中翻訳に関わる研究として、竹中(2006)を挙げることができる。竹中(2006)は中国メディアが元々日本語で伝えた日本事情を中国語でどのように表しているのかを分析している。そして、ウェブニュースの中国語訳における方法について、主に直訳、意識、直訳・意識混合、音訳、分割訳、増訳といった六種類の方法が使われ、単語とフレーズの翻訳には直訳と意識が多用されていることを明らかにしている。ただし、竹中(2006)が論じたのはウェブニュースの本文だけであり、見出しは検討していない。

日本語ウェブニュース見出しと中国語ウェブニュース見出しに関する言語学的研究は、その多くは日本語または中国語の単一言語に限定されている。ウェブニュース見出しの日中対照研究、また翻訳研究は極めて少ない。しかも、従来の研究では、ウェブニュース見出しの機能、文法上の特徴、形式面の特徴などにとどまり、ウェブニュース見出しの情報や、さらに中日翻訳及び日中翻訳と関わって、情報の捉え方など談話的な問題に注目した研究は管見の限り、見つかっていない。

## 2.4 情報の捉え方に関わる見出しの研究

情報の捉え方に関わる見出しの研究としては、日本語と韓国語の新聞見出しを対象とした尹(2015)が挙げられる。尹(2015)は、日韓の新聞見出しには形式的にそれぞれどのような特徴が表れているのかを明らかにすることで、両言語の省略・縮約の戦略がどのような方向性を取るのかを考察している。形式的な特徴について、両言語の見出しでは、漢語系動名詞の多用、助詞使用の減少などの共通点が見られるものの、具体的な使用パターンが異なり、形式動詞なしの動名詞や助詞の使用は日本語のほうが相対的に多いといった傾向を指摘している。このことから、日本語では助詞を残して述語を省略することは形式的縮約を実現する手段の一つになっているが、韓国語では反対の戦略が取られていることが指摘されている。さらに、日本語は事象の「参与者」に関する情報を、韓国語は「事象」の意味内容という情報を優先し、それを伝える形式を優先的に残す傾向があることが主張されている。

### 3. 研究資料

本研究ではオリジナルの中国語ウェブニュース見出し及び日本語ウェブニュース見出しの特徴、中日翻訳及び日中翻訳におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムを考察するために、中国ニュースメディア人民網の中日対訳のウェブニュース見出しと、日本ニュースメディア NHK の日中対訳のウェブニュース見出しを資料とする。

人民網は、世界十大新聞紙の一つである『人民日報』に基づき開設されたウェブニュースサイトであり、インターネットでは最大の中国語及び多言語ニュースサイトでもある。中国における最も重要なメディアとして、人民網は世界中にウェブニュースを配信し、中国を伝える責任を担っている。人民網は中国語ホームサイトのほかに、七つの少数民族語、及び英語、日本語、フランス語、スペイン語など九つの外国語版を設置している。文字や写真、動画、ブログ、携帯アプリ端末などさまざまな手段を用いて、毎日 24 時間中世界 200 余りの国家と地域へ、政治や経済、社会、文化といった各分野のあらゆる新たな情報を伝えている。

人民網はウェブニュースを中国語から日本語にも翻訳している。翻訳された日本語ウェブニュースは人民網日本語版に掲載している。人民網日本語版は日本人が中国の実情を理解するための重要な窓口として、両国人民の友好交流と協力を促進することを目指したものである。発表されたウェブニュースは信頼度が高く、客観性を持っている。

そのため、本研究でオリジナルの中国語ウェブニュース見出し及びその中日翻訳について考察を行う際には、人民網のウェブニュース見出しを研究対象にした。人民網と人民網日本語版から中日対訳のウェブニュース見出し 100 組を収集したが、これらは 2015 年 4 月 14 日から 2015 年 7 月 13 日の間に掲載されたものである。このなかに、人民網がほかのニュースメディアから転載したものもある。原作のニュースメディアについては、用例出典を参照されたい。

一方、NHK は日本放送協会 (Nippon Hoso Kyokai) の略称であり、日本で最大かつ最も影響力がある公共放送局である。その大きな特徴は、報道と運営について、NHK の自主性が極めて保障されていることである。「NHK NEWS WEB」は NHK が運営している公式ウェブサイト NHK オンラインの番組の一つであり、最新のウェブニュースを日本語で 24 時間文字や映像を通じて配信している。NHK NEWS WEB の日本語ニュースに対応する中国語ニュースは「NHK WORLD-Chinese」で掲載されている。「NHK WORLD」サービスは世界

各国との相互理解を深め、友好親善と文化交流を促進するために、世界の人々に、日本内外のニュースを正確・迅速に伝えている。

日本のニュースメディアのウェブサイトで中国語版を設置しているのはNHKのほかに、「朝日新聞」「日本経済新聞」などがあるが、それらの中国語版に掲載されたウェブニュースは日本語版と異なっており、対応するものは少ない。ウェブニュースの日本語原文と中国語訳文が完全に対応しているのはNHKのウェブニュースだけである。この点がNHKを選んだ大きな理由である。

NHKの社会への影響力と「NHK WORLD」の機能を総合的に考慮し、本研究でオリジナルの日本語ウェブニュース見出し及びその日中翻訳について考察を行う際には、NHKのウェブニュース見出しを研究対象とした。「NHK NEWS WEB」と「NHK WORLD-Chinese」から日中対訳のウェブニュース見出し 114 組を収集したが、これらはすべて 2015 年 4 月 14 日から 2015 年 9 月 23 日の間に掲載されたものである。

#### 4. 研究方法

本研究は中国語と日本語のウェブニュース見出しを対象に、中日対訳と日中対訳資料を利用し、それらの中日翻訳及び日中翻訳における翻訳メカニズムを解明しようとするものである。この目的を達成するために、次の手順に従って、研究を進めていく。

まず、人民網とNHKからそれぞれ中日対訳のウェブニュースと、日中対訳のウェブニュースを収集する。収集したウェブニュースから、見出しを整理し、次の二つの対訳資料を作成する。

##### I 人民網の中日対訳ウェブニュース見出し資料

##### II NHKの日中対訳ウェブニュース見出し資料

次に、用例分析を行う。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと日本語ウェブニュース見出しについて、それぞれが持つ形式面と情報面の特徴を考察する。

そして、中日対訳のウェブニュース見出し資料 I については、中国語ウェブニュース見出しにおける情報が中日翻訳過程でどのように捉えられているのか、その翻訳メカニズムを考察する。同様に、日中対訳のウェブニュース見出し資料 II についても、日本語ウェブニュース見出しにおける情報が日中翻訳過程でどのように捉えられているのか、その翻訳

メカニズムを考察する。中日対訳及び日中対訳のウェブニュース見出しは、翻訳されたウェブニュース見出しの情報が翻訳前のニュース見出しの原文、あるいはウェブニュースの本文を通して確認でき、変容した情報を比較的明確に判断することができる。そのため、それらはウェブニュース見出しの翻訳研究に非常に役立つと言える。

その後、対照分析を行う。翻訳された日本語ウェブニュース見出しと中国語ウェブニュース見出しを、それぞれオリジナルのウェブニュース見出しと対照する。その際、形式面と情報面の両面から対照し、翻訳されたウェブニュース見出しとオリジナルのウェブニュース見出しとの類似点と相違点をまとめる。中日翻訳と日中翻訳におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムがそれぞれどのような翻訳戦略を取っているのかを明らかにする。

最後に、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳という両過程の対照分析を行う。その際には、両者の翻訳過程に反映されている翻訳戦略について論じ、両過程の類似点と相違点を明らかにする。

上の研究手順に従うことで、次の三つの課題が解決でき、本研究の主張が導き出されことになる。

- ①オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと日本語ウェブニュース見出しがどのような特徴を持っているのか。
- ②ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳の過程において情報の捉え方がそれぞれの翻訳メカニズムにどのように関わっているのか。
- ③対照分析から、中日翻訳と日中翻訳それぞれの過程におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムにどのような戦略が取られているのか。

## 5. 本論文の構成

本論文は序論と結論を含め、六章で構成されている。各章で述べる内容は以下のとおりである。

第一章は序論である。本研究の背景と目的、ウェブニュース見出しに関する先行研究、研究資料と研究方法、本論文の構成を述べる。

第二章では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しと中国語ウェブニュース見出しを対象に、それぞれが形式面と情報面にどのような特徴を持っているのかを明らかにする。

第三章では、人民網から集めた中日対訳のウェブニュース見出しを対象に、中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報に焦点を当て、その中日翻訳を考察する。「主題」「引題」「副題」という概念を用い、中国語の単一見出しと複合見出しが日本語に翻訳される際に、補足的情報がどのように捉えられているのか、その翻訳メカニズムを明らかにする。

第四章では、NHK から集めた日中対訳のウェブニュース見出しを対象に、日本語ウェブニュース見出しの文末表現における情報の扱いに焦点を当て、その日中翻訳を考察する。名詞止め、助詞止め、動詞止めといった日本語ウェブニュース見出しが中国語に翻訳される際、省略された文末表現がどのように扱われているのか、その復元状況と翻訳メカニズムを明らかにする。

第五章では、翻訳されたウェブニュース見出しとオリジナルのウェブニュース見出しを対象に、形式面と情報面を対照させ、中日翻訳と日中翻訳におけるウェブニュース見出しの翻訳がそれぞれどのような戦略を取っているのかを明らかにする。

第六章は結論である。本研究で明らかになった中日翻訳と日中翻訳の過程におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムと翻訳戦略をまとめるとともに、今後の課題について述べる。

## 第二章 ウェブニュース見出しにおける形式と情報

### 0. はじめに

中日翻訳または日中翻訳におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムを検討しようとするれば、翻訳されたウェブニュース見出しとオリジナルのウェブニュース見出しとを対照させ、形式と情報にどのような変化が起きているのかを考察することが不可欠である。そのためには、何よりもオリジナルの中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しそれぞれが、本来、どのような形式で表されているのか、またどのような情報を提示しているのか、その特徴を明らかにする必要がある。

本章の目的は、以上のような観点から、人民網から集めたオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと、NHK から集めたオリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて、形式と情報という二つの面から、それぞれがどのような特徴を持っているかを明らかにすることにある。形式面の特徴については、表現形式(文字数、段数)と構文形式を分析対象とする。情報面の特徴については、ウェブニュース見出しにおける情報の関係や情報の省略に着目し検討していく。

第1節ではオリジナルの中国語ウェブニュース見出しを対象に考察し、第2節ではオリジナルの日本語ウェブニュース見出しを対象に考察する。そして、第3節では、本章で明らかにしたことをまとめる。

### 1. オリジナルの中国語ウェブニュース見出し

人民網を見ると、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは次のように作成されている。

#### (1) 习近平会见印度总理莫迪 (2015/7/9)

(日訳: 習近平主席がインドのモディ首相と会談)

#### (2) 中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2)

(日訳: 中国と韓国が自由貿易協定を締結、韓国の化粧品が安くなる可能性)

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは形式的に統一されておらず、(1)のように一段で表されることもあれば、(2)のように空白を挟んだ二段で表されることもある。ここで言う「段」とは、一つの単文、あるいは空白や記号によって独立している一つの部分を指している。そのため、(1)のように一つの単文で表されたものを「一段見出し」と呼び、(2)のように空白や記号(例えば「:」)によって前後の二つの部分からなっている見出しを「二段見出し」と呼ぶことにする。

情報面を見ると、(1)の見出しは一段の形式であり、ウェブニュースの話題だけを提示している。他方、(2)の見出しは前後の二段がそれぞれ分句となっており、前の段で“中韩两国签订自贸协定”という話題を提示し、後ろの段は“化妆品有望变得更加便宜”というニュースの影響を添えたものになっている。

(1)と(2)からわかるように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは異なる段数で表されることがあり、文字数に大きな差が存在する。そして、ウェブニュースの話題だけでなく、ほかの情報が提示される場合もある。

そこで、本節ではオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴について、具体的に次の二点を中心に考察する。

①見出しの構文形式がどうなっているのか。そこに文字数と段数がどのように関与しているのか。

②複数の段を持つ見出しでは、それぞれの段がどのような情報を提示しているのか。段と段の間にどのような関係があるのか。

### 1.1 形式面の特徴

この節では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しについて、表現形式と構文形式の特徴を考察する。そして、見出しの構文が表現形式とどのように関与しているのかを明らかにする。

#### 1.1.1 表現形式

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの表現形式について、文字数と段数の二点から述べる。文字数を統計しておく。統計に際しては、漢字のほかに、数字、英文字、記号もすべて1文字として数える。但し、段間の空白は字数に含めていない。文字数に従って

見出しの数を図で示すと、図 2-1 のようになる。

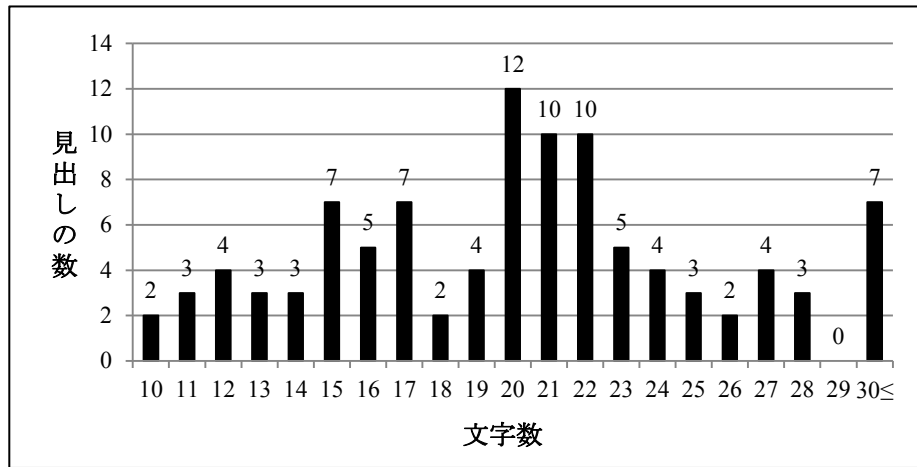


図 2-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの文字数

図 2-1 が示しているように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの文字数は 10 文字から 30 文字以上までと、その範囲は広い。そのうち、20 文字の見出しが最も多く、12 例ある。20 文字から 22 文字で構成される見出しが上位の 3 位までを占めており、その割合は全体の 3 割ほどに及んでいる。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、文字数の平均値が約 21(≈20.94)である。その一方で 30 文字を超えた見出しも 7 例あり、最も長い見出しは 56 文字を数える。その文字数は平均値の約 2.5 倍、最も短い 10 文字の見出しの 5 倍以上もある。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、このように文字数において個々にかなりの差がある。

また、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、一行で表されているものだけでなく、二行の形で表されているものもある。しかも、一行で表された見出しは一段から三段までの表現形式を取っている。それぞれの数とその割合を整理すると、表 2-1 のようになる。

表 2-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの段数

見出しの種類		数量	割合
一行の見出し	一段	44	44%
	二段	43	43%
	三段	7	7%
二行の見出し		6	6%
合計		100	100%

表 2-1 からわかるように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、そのほとんどが一行で表されており、資料とした 100 例のうち 94 例がそうである。しかも、7 例を除き、表現形式は一段、または二段の形に集中している。そのなかでも一段見出しが最も多く、44 例ある。それは一段見出しが一般的に単文で構成されるとともに、中国語の主述構文が多用されることと深く関わっている。二段見出しは数的にその次であり、割合は全体の 4 割を超えている。二段見出しと三段見出しの使用には、見出しの構文形式が大きな影響を与えているが、これについては次節の 1.1.2 節で詳しく述べる。三段見出しでは、ニュースの情報源を独立した一段として提示し、その後ろにコロン「:」を多用している。表 2-1 で挙げた例のように、冒頭の一段では情報源と見られる機関名や人物名を挙げ、その後ろにコロン「:」を付けることで、機関名や人物名を一つの段として独立させるとともに、後続の情報と区分している。

さらに、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、一行の見出しだけでなく、二行で表示されている見出しも 6 例ある。この 6 例は、表 2-1 で挙げた例のように、文字数が多く、すべて 30 文字以上で構成されたものである。一行で表すとかなり長くなり、ウェブサイトの空間上の制約により改行されたと見てよい。

### 1.1.2 構文形式

前節で見たように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しはほとんどが一行で表されているが、その一方で一段から三段までの表現形式を取っている。本節では、各表現形式の見出しについて、それぞれの構文特徴を論じていく。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには一段見出しが 44 例あるが、なかでも 42

例は単文である。しかも、1 例<sup>5)</sup>を除き、41 例は(3)のような主述構文である。彭(2006)は、新聞見出しの場合、その単文は、主述構文が主要な構文形式であると指摘している。この点は、一段で表示されたオリジナルの中国語ウェブニュース見出しも新聞見出しと同様である。

(3) 习近平会见印度总理莫迪 (2015/7/9) [(1)再掲]

(日訳: 習近平主席がインドのモディ首相と会談)

ただし、次の 2 例のように、中国語ウェブニュース見出しの一段見出しにも複文が存在することがある。

(4) 亚太裔人口在美增速最快/奥巴马为其贡献点赞 (2015/5/13)

(日訳: アジア系米国人が急増 オバマ大統領が貢献を称賛)

(5) 月入不到四万五/别说自己是中产阶级 (2015/7/11)

(日訳: 大陸部の中産階級は月収 4.5 万元以上 調査結果)

(4)は中国語の“联合复句”であり、(5)は仮定関係の“偏正复句”である。しかし、(4)と(5)は「/」で空白あるいはコンマ「,」を入れずに前後を接続している。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しで二段または三段といった表現形式の使用は、見出しの構文形式における特徴と深く関わっている。

《新闻传播百科全书》(1998:195-196)は、“汉语新闻标题，用以揭示、评价、概括、表现新闻内容的一段最简短的文字”(「中国語ニュースの見出しは、ニュースの内容を揭示・評価・総括・表現するための最も簡単で短い文字」)<sup>6)</sup>と述べている。そして、見出しの構文要素として「主題」「補題」「引題」「副題」といった概念を取り上げている。これら個々の概念について、《新闻传播百科全书》(1998:195-196)では次のように記されている。中国語原文の後ろに付く日本語訳は筆者によるものであり、以下同様である。

---

<sup>5)</sup> 非主述構文は、次の 1 例があるだけである。

例: 世界上最孤独、也是最浪漫的图书馆 (2015/5/13)

<sup>6)</sup> 筆者訳。《新闻传播百科全书》(1998)で述べた「ニュース」は、ウェブニュースだけでなく、新聞記事や、ラジオニュース、テレビニュース、広告などを含み、広い意味で報道文のことを指している。

○主題，又称主标题，用于揭示新闻中最重要、最核心的事实和思想。

（「主題」とは、主見出しとも言う。ニュースの最も重要かつ中核的な事実と思想を示す。）

○辅题，在复合型标题中，除主题以外的其他标题。即可以是引题和副题的总称，也可以单指引题或副题。在复合型标题中，处于次要地位，用于说明和补充、解释主题。

（「補題」とは、複合見出しにおいて、主題以外を指す。引題と副題の総称とも言えるし、引題あるいは副題を単独に指すこともできる。複合型の見出しにおいて、副次的な立場に立ち、主題に説明・補充・解釈を与える役割を果たす。）

○引题，在复合型标题中，位于主题之前，主要起引出主题的作用的辅题。又称上辅题、眉题、肩题。

（「引題」とは、複合見出しにおいて、主題の前に位置し、主に主題を引き出す役割を果たす。「上補題」あるいは「眉題」「肩題」とも言う。）

○副题，在复合型标题中，位于主题之后，对主题起解释、补充、印证作用的辅题。又称子题、下辅题。

（「副題」とは、複合見出しにおいて、主題の後ろに位置し、主に主題に解釈・補充・裏付けを与える役割を果たす。「子題」や「下補題」とも言う。）

これらの概念は中国語報道文の見出し研究に共通して取り上げられるものであり、康(2005)、孫(2007)の研究ではウェブニュース見出しの分析に応用されている。この事実は、中国語のウェブニュース見出しの構文要素としても、「主題」「補題」「引題」「副題」<sup>7)</sup>といった概念が活用できることを示している。上記の概念に従い、これらの構文要素の間に存在する関係を示すと、図 2-2 のようになる。

---

<sup>7)</sup> 本研究では、構文要素として「主題」「補題」「引題」「副題」といった概念を説明する場合、あるいは強調する場合には括弧をつけているが、例文分析に際しては、見出し文における各要素の情報を重視するため、括弧は付けていない。

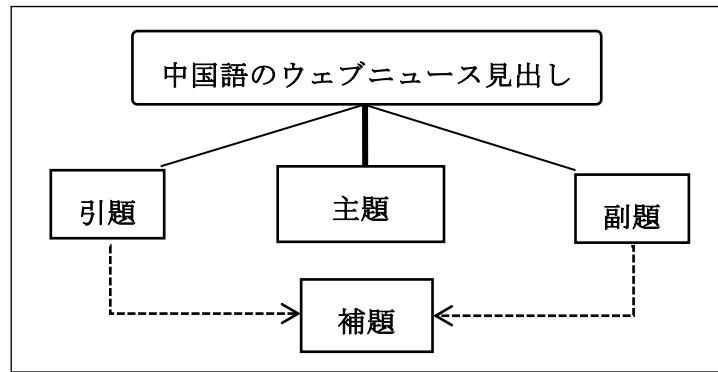


図 2-2 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける構文要素の関係

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、主題、引題、副題の出現状況によって、構文形式は単一型と複合型の二つに分類される。単一型の見出しと複合型の見出しについて、《新闻传播百科全书》(1998:196)は、次のように説明している。

○単一型标题，指仅有主题而无辅题（引题和副题）的标题。

（単一型の見出しには、主題はあるが、補題（引題と副題）はない。）

○复合型标题，指既有主题又有辅题的标题。多用于内容比较重要而复杂的新闻，是我国报纸新闻标题的主要形式。复合题根据内容的需要，既可由引、主、副题所组成，也可由引、主或主、副所组成。

（複合型の見出しには、主題も補題も現れている。内容がわりと重要的かつ複雑的なニュースに用いられ、新聞記事の見出しによく現れた主要な形式となっている。複合型の見出しは内容に基づいて、「引題＋主題＋副題」からなる場合もあれば、「引題＋主題」、または「主題＋副題」の形で表される場合もある。）

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、主題だけが表された単一型の見出し（単一見出し）と、主題のほかに補題も現れた複合型の見出し（複合見出し）の二種類が認められる。その複合見出しをさらに分類すると、引題と副題の出現状況に基づき、下位類として「引題＋主題」見出し、「主題＋副題」見出しと「引題＋主題＋副題」見出しという三つの構成パターンがある。表 2-2 のように示すことができる。下線を引いた箇所が引題または副題であり、下線のない箇所が主題である。

表 2-2 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの構文形式

類 型	段数	構成パターン
①単一見出し	一段	「主題」だけ (6) 习近平会见印度总理莫迪 (2015/7/9) (習近平主席がインドのモディ首相と会談)
②複合見出し	二段	a. 「引題＋主題」の複合見出し (7) 韩媒：住宿差或致中国游客不愿再赴韩 (2015/5/12) (韓国メディア「宿泊施設の環境悪化が中国人リピーター減の原因に」) b. 「主題＋副題」の複合見出し (8) 中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2) (中国と韓国が自由貿易協定を締結、韓国の化粧品が安くなる可能性)
	三段	c. 「引題＋主題＋副題」の複合見出し (9) 国家卫计委：2030 年流动人口将逾 3 亿 增速将放缓 (2015/7/10) (中国の流動人口、2030 年に 3 億人超 増加スピードはやや減速)

図 2-2 と表 2-2 からわかるように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しに引題と副題を付けることが見出しの段数に影響を与えている。一段見出しは単文か複文を問わず、主題だけから構成されているため、単一見出しとなる。「引題＋主題」の複合見出しと「主題＋副題」の複合見出しは共に二段見出しの形で現れ、「引題＋主題＋副題」の複合見出しは三段見出しの形で現れている。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの構文には、ウェブニュースそのものの特徴や読者の閲覧習慣に従い、新聞見出しとの間には相違点もあるはずである。そこで、中国語の新聞見出しとウェブニュース見出しに関する先駆的な対照研究である孫(2007)を見ておく。孫(2007)は、ウェブニュース見出しの各構文要素がどのように扱われているのかについて、三つのことを明らかにしている。

一つ目は、新聞見出しであれウェブニュース見出しであれ、主題が見出しの核心となっていることである。二つ目は、新聞見出しにおいてもウェブニュース見出しにおいても、引題と副題を必ずしも必要とはしていないことである。三つ目は、新聞見出しとウェブニュース見出しの最大の違いは補題の構文にあることである。

この三つ目の違いについて、孫(2007)は、ウェブニュース見出しは主題と引題と副題の内容がすべて組み合わせされたものになっていると同時に、同一の行で書かれることにあると述べている。さらに、孫(2007)は、引題はほとんどの場合ニュース事件の評論者、主役、機関名などであり、かぎ括弧あるいは色の変化によって示されている場合もあること、そして、見出しの最後に付く副題は主題への説明や注釈、補足、下地といった役割を果たしているほか、ハイパーリンク機能が付けられていることを述べている。そのほかにも、孫(2007)は、ウェブニュース見出しは文字への依存性が極めて高く、読者が読む興味を引き付ける役割を担うため、突飛な考えや面白さやユーモアの言い方などが加えられ、話しことばを用いる傾向があると指摘している。

## 1.2 情報面の特徴

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、通例、ニュース全体の話題を表す語句が主題の中に入っている。主題はウェブニュース見出しの中で、最も重要な情報を伝えるものであるため、それは主幹的情報として扱われる。そして、前節で述べたように、主題のほかにオリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、引題と副題が付けられることがしばしば認められる。(10)から(14)の下線部を見ておく。

- (10) 韩媒：住宿差或致中国游客不愿再赴韩 (2015/5/12) [(7)再掲]

(日訳：韓国メディア「宿泊施設の環境悪化が中国人リピーター減の原因に」)

- (11) 被指用 6 翅 8 腿怪鸡 肯德基起诉 10 个微信账号 (2015/6/1)

(日訳：「6 翼 8 足の奇形鶏を使った」とのデマ流布 KFC が微信アカウントを提訴)

- (12) 中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2) [(8)再掲]

(日訳：中国と韓国が自由貿易協定を締結、韓国の化粧品が安くなる可能性)

- (13) 中国抗 MERS 药物研究获重要进展——药物可直接用于紧急防护 (2015/6/2)

(日訳：中国人研究者、MERS 治療薬の研究に進展)

- (14) 2015 北京科博会开幕 无人机最抢眼 (2015/5/13)

(日訳：北京科博会、最も優れた技術を総まとめ)

(10)の“韩媒”と(11)の“被指用 6 翅 8 腿怪鸡”は引題である。(10)はニュースの情報源を示し、(11)はニュースの背景を示している。他方、(12)の“化妆品有望变得更加便宜”、

(13)の“药物可直接用于紧急防护”、(14)の“无人机最抢眼”は副題である。(12)はニュースの影響を明示し、(13)は話題を具体的に説明し、(14)はニュースの目立つ情報を提示している。このように、引題と副題は主題を補足するものとしてニュース情報の理解を深めるためのものであり、本研究では主題の主幹的情報に呼応して、補足的情報と呼んでおく。

(10)から(14)に見た複合見出しの例から下線部の引題または副題を削除したとしても、主題の部分は文法的にも情動的にも成立する。そのため、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、各段の間は文法的な結びつきが弱く、しかもそれぞれの情報が持つ独立性が高いと言える。引題と主題の間、または主題と副題の間に入れた空白あるいは記号は、段を分けるとともに、各構文要素を区分する働きを持っている。つまり、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは独立した情報をそれぞれ主題、引題、あるいは副題に位置づけ、それらを組み合わせたものがオリジナルの中国語ウェブニュース見出しということになる。

資料の中に、複合見出しは対象とした 100 例のうち 56 例ある。このことから半分以上のオリジナルの中国語ウェブニュース見出しには引題と副題が現れ、補足的情報が提示されていることになる。単一见出しに補足的情報が含まれるかどうかについては第三章 2 節で後述することとし、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、主幹的情報の主題を補足するために、引題または副題の形で補足的情報を加えることが情報面の一般的な特徴として認められることになる。

### 1.3 本節のまとめ

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける形式面の特徴として、次の三点を指摘することができる。

- ①文字数は 10 文字から 30 文字以上と範囲が広い。
- ②表現形式として通常一行で表されているが、文字数が 30 文字以上になる場合には、二行で表される。
- ③構文要素として主題や、引題と副題がある。主題だけ持つ単一见出しのほかに、主題の前で引題を付け、または後ろで副題を付けることで、複合見出しになる場合も少なくない。主題に引題または副題を付けることにより、見出しの文字数が増え、二段や三段、または二行で表示されることになり、見出しの長さや表現形式に影響が及んでいる。

こうした形式的特徴はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける情報の構成と密接な関係にある。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける情報面の特徴と言えることは、見出しで常に主幹的情報のほかに、補足的情報も提示されることである。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは時間的にも空間的にも限られたウェブ上でニュースの主幹的情報を補足するために、ニュースの背景や、説明、影響などの情報を引題または副題として付けている。そうすることで、ニュースの情報をより詳しく伝える目的を果たそうとしている。こうした情報面の特徴について、他方、ウェブニュースの読者側の視点から見れば、ウェブニュース見出しさえ閲覧すれば、本文を読まなくてもニュースの重要な情報を把握できることになる。つまり、ニュースの情報を詳しく伝えるという目的を持つオリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、読者にウェブニュース見出しからウェブニュース本文の情報への推測を容易に実現させることができるという戦略が反映されていることになる。

### 2. オリジナルの日本語ウェブニュース見出し

尹(2015)は日本語の新聞見出しを対象に、その形式的な特徴として、①分ち書きの採用、②漢語の「動詞性名詞」の多用、③助詞の使用様相といった三点を指摘している。では、NHKのオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにはどのような特徴が見られるのだろうか、(15)と(16)を通じて見てみよう。

(15) 来週 25 日に米中首脳会談 (2015/9/16)

(16) 中国国家主席 訪米で経済協力促進を (2015/9/18)

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、(15)のように一段で表されるもののほか、新聞見出しと同様に、形式的に分ち書きを採用しており、(16)のような段に分けて表されるものもある。(15)の見出しの場合、「米中首脳」と「会談」の間に助詞は現れず、尹(2015)が指摘した「NP:VN」型の複合語となっている。しかも、「会談」の後ろに「する」が省略されており、動詞性名詞として用いられている。(16)の見出しの場合、前後の二段に分けられており、空白のところに助詞「が」が省略されている。しかも、文末は助

詞「を」で止められ、その後ろの述部も省略されている。

尹(2015)が指摘した新聞見出しにおける三つの特徴は、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにも認められる。それを踏まえ、本節では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて表現形式と構文形式に焦点を当て、形式的な特徴の分析を行う。そして、文末で現れた省略をめぐって、情報面の特徴について考察を行う。

## 2.1 形式面の特徴

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて、表現形式と構文形式という二つの形式面に現れた特徴をそれぞれまとめた上で、両者の関連性を論じる。

### 2.1.1 表現形式

表現形式について、文字数と段数という二つの面を考察する。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数を整理したものが、図 2-3 である。統計に際しては、中国語見出しの場合と同様の基準を用いている。

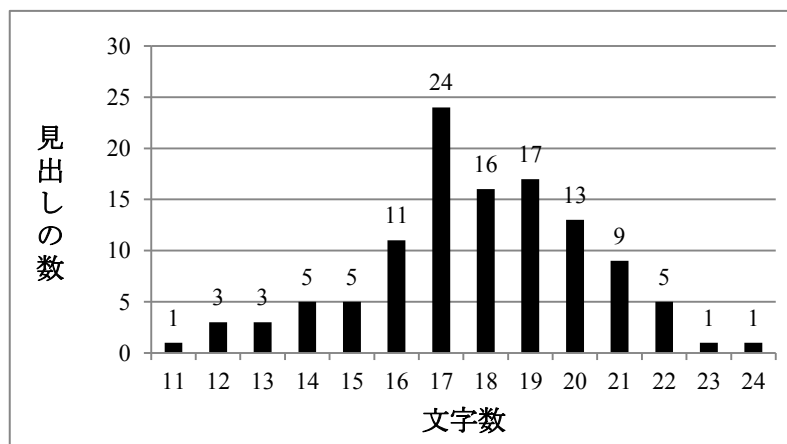


図 2-3 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数

図 2-3 を見ると、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数には 11 文字から 24 文字までのように幅が認められる。そのなかでも 17 文字の見出しが 24 例と、数的に最も多い。そして、17 文字から 19 文字の見出しが上位の 3 位までを占め、合わせて 57 例と資料の半分を占めている。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しはすべて一行で表される。ただし、この一行の中には、段を分けずに表した見出しと、段を分けて表した見出しとがある。段数を資料

に従い整理すると、表 2-3 のようになる。なお、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにはカギ括弧「」で引用の情報を表示する場合があるが、それも一つの段として数える。

表 2-3 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの段数

見出しの種類	例 文	数量	割合
一段見出し	スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏	14	12.28%
二段見出し	中国人の海外旅行先 日本が 1 位で全体の 4 割	84	73.68%
三段見出し	中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート	16	14.04%
	合計	114	100%

表 2-3 から、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しはその表現形式として、一段から三段までの形式を使用していることが分かる。このとき、空白によって段を分けて表示した二段見出しと、三段見出しの使用率はいずれも一段見出しより高い。しかも、二段見出しの使用率は 7 割を越えている。この点から、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは一段で表示するよりも、段に分けて表示するほうが好まれることが分かる。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しが空白を用い、段を分けて表示することは、日本語の一般的な文章の表記法と異なるものである。これを、尹(2015:43)は情報伝達の効率をより高めるための戦略とみている。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける段を分けての表示が、情報面にどのような影響を与えているのかについては、2.2 節で詳しく述べる。

### 2.1.2 構文形式

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しには、一段から三段まで三つの表現形式が現れている。このような表現形式は、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの構文形式が関わっているのであろうか。日本語の見出しの構文形式について、野口(2002)、金子(1976)らが日本語の新聞見出しを対象に研究を行っている。野口(2002:94-96)は、新聞見出しの構成について、その基本は、記事全体の最も重要な点をまとめた「主見出し」と、それに補足的情報を与える「そで見出し」の 2 本立てであると述べている。

本研究で扱う NHK のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにも、ニュースにおけ

る最も重要な情報、すなわち話題を提示する「主見出し」と、それを補足する「そで見出し」から成り立つ構文形式とが認められる。一段見出しの場合は、見出し全体を「主見出し」として見ることができる。二段見出しと三段見出しの場合は、「主見出し」のほかに、「そで見出し」を伴って現れることがある。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの構文形式と段数との関係は、表 2-4 のように整理できる。例文において、下線を引いた箇所が「そで見出し」である。

表 2-4 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの構文形式

<p>① 一段見出し —— <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主見出し</span></p> <p>(17) スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 (2015/9/11)</p>
<p>② 二段見出しと三段見出し</p> <p>パターン① —— <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主見出し</span>、<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">そで見出し</span></p> <p>(18) <u>茨城 常総</u> 行方不明者 15 人の発見に全力 (2015/9/14)</p> <p>(19) 安倍首相と翁長知事会談 <u>互いに主張述べ合う</u> (2015/4/17)</p> <p>(20) <u>中国</u> 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート (2015/9/23)</p> <p>パターン② —— <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">主見出し</span></p> <p>(21) 豪 難民 1 万 2000 人受け入れを発表 (2015/9/9)</p> <p>(22) 安倍首相 被災者の救命・救助に万全を (2015/9/11)</p> <p>(23) AIIB 創設メンバー 57 か国で確定 (2015/4/16)</p> <p>(24) 大雨 3 人死亡 26 人行方不明 (2015/9/11)</p>

表 2-4 で示しているように、(17)の一段見出しは、それを主見出しとして、ニュースの話題を提示している。二段見出しと三段見出しは、そで見出しの有無によって二つのパターンに分けられる。(18)から(20)の見出しにはそで見出しが付けられている。(18)は前の二段でニュースの発生地「茨城 常総」を提示し、後ろの段でニュースの話題を伝えている。(19)は前の段で「安倍首相と翁長知事会談」というニュースの話題を提示し、後ろの段で「互いに主張述べ合う」という会談の主な内容を補足している。さらに、(20)の三段見出しでは、ニュースの話題は後ろの二段の「習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート」を通じてはじめて理解できる。そのため、単独に見れば主見出しにはなれないこの二段を

合わせて主見出しとし、文頭の「中国」は「習近平国家主席」を補足する働きをしているため、そで見出しと見るのが適切である。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの 100 例のうち、そで見出しが付けられているのは 24 例である。そで見出しが提示している情報は、主にニュースに関する具体的な内容や説明、ニュースの結果や影響、ニュースの発生地、ニュースの背景、ニュースの情報源といった五種類である。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、これらの情報を独立させて表すという傾向がある。

(21)から(24)も同様に、二段または三段見出しである。しかし、これらの例はそで見出しとして認めることはできない。(21)と(22)の見出しでは、文頭の「豪」と「安倍首相」は単独の一段で表されているが、見出しの空白を埋めると、そこには助詞「は」が省略されていることが分かる。これらの表現はそれぞれの見出しにおいて、単にニュースの発生地と人物を提示しているだけでなく、見出しの主題として扱うこともできるため、そで見出しではなく、主見出しの一部として見たほうがより適切である。つまり、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文頭に単独の一段で表された人物名や地名などの表現を、すべてそで見出しと見なすことは適切ではない。このことはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおいて空白の使用が生んだ段間の省略という情報面の特徴が関わっている。すぐ後ろの 2.2.1 節で詳しく述べる。

また、(23)と(24)の見出しは(18)と(19)とは異なり、それぞれの段は単独に見てもニュースのキーワードこそ提示しているが、ニュースの話題を十分に伝えるレベルのものとしては認めがたい。ニュースの話題を理解するにはすべての段を接続して見る必要がある。そのため、このような例ではいずれの段も主見出しとは言えず、すべての段を合わせた見出し全体をもって、主見出しと見る方が適切である。

(17)から(19)のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しに現れた段は、構文上それぞれ主見出し、あるいはそで見出しとして扱うことができるものの、(20)から(24)からわかるように、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの主見出しは必ずしも一つの段で表示されとは限らない。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは二段、または三段の表現形式で表されていたとしても、見出し全体を通してニュースの話題を伝えていることもある。このとき、そで見出しは存在しないことになる。

日本語ウェブニュース見出しの構文形式を詳細に分類したもとして、金子(1976)がある。金子(1976)は、見出しには、ニュースの索引的、信号的意味があり、「肩見出し」「本見出

し」「袖見出し」「横見出し」「中間見出し」などがそれぞれの用途に応じ付けられていると述べている。そのほかにも、日本語ウェブニュース見出しを対象とした研究<sup>8)</sup>もあることにはあるが、構文面で新聞見出しと対照した研究は現在のところ見つかっていない。

## 2.2 情報面の特徴

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける情報面の特徴については、見出しの段間における助詞などの省略と、見出し文末における述部の省略という二点を取り上げたい。

### 2.2.1 見出しの段間における省略

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの段間に現れた助詞などの省略は、その形式面と関わるものである。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは、一般にニュースの話題を提示する部分が主見出しである。本章の 2.1 節で明らかにしたように、二段見出しあるいは三段見出しでは、ある一つの段が主見出しになるのではなく、見出し全体が主見出しになる場合がある。

このような二段または三段見出しに用いられた空白は、見出しを段に分けて表示するために使われており、助詞などの代わりの役割も果たしている。資料には空白が 116 ヶ所ある。この空白について、野口(2002:104)は、助詞「は・が・を・で」などや接続助詞「～(し)て」が省かれていると指摘している。

本研究では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しをウェブニュースの本文における本来の表現と対照することで、その空白が代用した表現は概ね助詞、述部(動詞、助詞+動詞)、記号という三種類に分類する。表 2-5 のように整理できる。

---

<sup>8)</sup> 言語学の分野では、黒崎(2007:72-78)が、ウェブニュース見出しの話題は、社会的周知度が高く、読み手の知識が一目で活性化されると判断された語彙でなければならないと指摘している。情報学の分野では、稲井(2012)が、ウェブニュース見出しを対象に、情報処理技術の視点から新聞社のウェブサイトで収集したウェブニュース見出し文の構造解析を行った上で、欠けている情報の追加・補完を行う技術を提案している。

表 2-5 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの空白によって代用された表現

類 型	表 現	数 量
① 助詞	は、で(では)、が、を、の、に(には) など	79
② 述部 (動詞、助詞＋動詞)	し、され を受け、に向け、となり、が発生し、を巡って など	31
③ 記号	「、」 「・」	6

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、助詞の代用で現れた空白が最も多く、79ヶ所ある。次の例をみよう。

(25) 中国人の海外旅行先 [は] 日本が 1 位で全体の 4 割 (2015/9/9)

(26) 中国 [の] 習近平国家主席 [が] アメリカ訪問をスタート (2015/9/23)

ウェブニュースの本文の表現に従って、(25)と(26)の空白は [ ]で示しているように、助詞「は」、「の」あるいは「が」が復元できる。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの段の間に挟まれた空白が最も多く代用した助詞は「は」であり、40ヶ所ある。代用された助詞を使用数の順番で示すと、「は」に次いで「で(では)」「が」「を」「の」「に(には)」となる。

助詞のほかにも、空白のところには動詞や、助詞と動詞を併せた表現、記号などが省略されている。述部が省略されているものが 31ヶ所、記号が省略されているものが 6ヶ所ある。ウェブニュースの本文の表現と対照することで、(27)から(29)の空白は次のように復元できる。

(27) 安倍首相と翁長知事会談[し] 互いに主張述べ合う (2015/4/17)

(28) チリ沖で大地震[が発生し] 沿岸で津波観測 (2015/9/17)

(29) 野党 5 党首[が会談し] 安保法案採決なら[、] あらゆる手段で対抗 (2015/9/16)

空白に復元できるものは助詞もあれば、述部もあるようにさまざまである。尹(2015:43)は、空白の使用は、複数の異なる種類の助詞をすべて同じものに置き換え、それぞれの助

詞が示している文法的な情報を省くことにより、見出しの構造を単純化する戦略と見ており、情報伝達の効率を高めるために採択されたものであると指摘している。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しが常に段を分けて表示するのは、尹(2015)が指摘した新聞見出しの戦略と同様のものと認められる。すなわち、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでも、空白を使うことで様々な助詞や述部を省略し、見出しの構造を単純化させる戦略を取っていると言える。また、(25)から(29)の見出しのように、元々の助詞や述部を復元すると、見出し全体を一つの文でまとめることができる。この点から、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける各段は形式的には独立しているが、文法的な結びつきは強く、それぞれの情報が持つ独立性は弱いと言える。

### 2.2.2 見出しの文末における省略

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末には、(30)のような情報の省略も認められる。

(30) 中国国家主席 訪米で経済協力促進を (2015/9/18)

(30)の見出しの文末は助詞「を」で止められている。日本語の文章では、「を」の後ろに述部が続くのが一般的であるが、この見出しでは述部が省略されている。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末で現れた省略は、見出しの文末表現と深く関わっている。見出しの文末表現を論じた先行研究では、この省略という言い方がしばしばなされており、文末表現がウェブニュース見出しの情報面に影響を与えていると考えられる。本研究でも見出し文末に現れた省略については、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを作成する際に用いられた手段として、特定の形で止め、その後ろの表現を省略した表現と理解しておく。

日本語の新聞見出しに関する先行研究である寺川(1991)、田中(1998)、湯浅(2014a)などを見ると、文末表現(いわゆる、止め方)は新聞見出しの大きな特徴として取り上げられている。これらの先行研究は新聞見出しの文末表現における分類方法に多少異なっている点はあるが、名詞止め、助詞止め及び動詞止めという三種類の文末表現については共通している。NHKのオリジナルの日本語ウェブニュース見出しを見ると、その文末表現には名詞や助詞、動詞が見られるほかに、漢語サ変動詞語幹も現れている。漢語サ変動詞語幹止め、

名詞止め、助詞止め、動詞止めの見出しについて、(31)から(33)にそれぞれの例を挙げる。

【漢語サ変動詞語幹止めの見出し】

(31) 地方創生の実現へ 政策コンテストを実施 (2015/9/13)

(本文：政府は、地方創生の実現に向けて、…地域を活性化する具体策などを募り、政策コンテストを実施することになりました。)

【名詞止めの見出し】

(32) スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 (2015/9/11)

(本文：来月発足するスポーツ庁の初代長官に、…鈴木大地氏を起用する人事を決めました。)

【助詞止めの見出し】

(33) 宮城県に大雨特別警報 最大級の警戒を要 (2015/9/11)

(本文：気象庁は…最大級の警戒を呼びかけています。)

【動詞止めの見出し】

(34) 川内原発2号機 燃料を入れる作業終わる (2015/9/14)

(本文：川内原子力発電所2号機で…原子炉に燃料を入れる作業は13日午後9時すぎに終わりました。)

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しをそれぞれウェブニュースの本文の表現と対照してみると、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは名詞または助詞で止める場合、その後ろに付く情報を省略する傾向が観察される。(31)の見出しの文末は「実施する」という漢語サ変動詞から「する」が省略され、語幹の「実施」で止められている。「実施する」から「実施」へ短縮することで、文字数が2文字減少しているが、意味的には大きく変わっていない。このようにオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に漢語サ変動詞の語幹だけを提示することは、意味的には動詞としての働きを維持しつつ、形式的には見出しを簡潔化することに役立っている。これは、尹(2015:44)が指摘したとおり、見出しの長さを減らす上で有利な戦略になる。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末は漢語サ変動詞語幹で止めることが頻繁に起きており、資料全体を占める割合はもっとも高く、4割近くを占める。

(32)の見出しの文末は、人物名の「鈴木大地氏」で止めており、その後ろに付く「を起

用する人事を決めました」という述部が省略されている。名詞止めの日本語ウェブニュース見出しでは、人物名のほかに、地名や、数値に関する表現などの名詞をもって見出しを止めることがある。名詞の後ろにつく述語は日本語の言語知識とその見出しの文脈によって容易に推測できる情報である。それを省略することは、日本語ウェブニュース見出しを簡潔に表すための手段である。

(33)の見出しの文末は、助詞「を」で止めており、その後ろに付く「呼びかけています」という述部が省略されている。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末では述部がしばしば省略され、助詞をもって見出しを止める助詞止めの形式が用いられている。「を」を含め、「へ」「に」「か」「も」といった助詞で止める見出しが 19 例ある。日本語の新聞見出しでも述語を削除した助詞止め形式が見られ、述部を省く<sup>9)</sup>傾向が認められる。この傾向について、尹(2015:48)は、日本語の新聞見出しでは、事象の「参与者」に関する情報を優先し、それを伝える形式を優先的に残す傾向があると指摘している。(33)で示しているように、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末でも、「事象」そのものに関わる情報より事象の「参与者」が重要視され、それを助詞でマークして優先的に伝えている。なお、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末では助詞が残され、段間では助詞が省略されるというように、助詞の出現状況が異なっている。それは見出し文末の助詞は事象の「参与者」を優先的に伝えるためだけでなく、省略された述部によって様々な意味が付加されることも助詞が残される原因の一つとなっている。(35)を見よう。

(35) 汚染水問題解決に向け 地下水浄化し放出<sup>△</sup> (2015/9/9)

(本文: …下水をくみ上げ浄化して海に放出する計画です。)

(35)の見出しの文末は助詞「へ」で終わっているが、ウェブニュースの本文における表現と対応していない。ウェブニュースの本文との対照を通じて、見出し文末の「へ」は「計画です」という表現の代わりに用いられていることが分かる。そのため、この例では、助詞「へ」に「計画」という今後の方向性を示す意味が付加されている。このような文末助詞「へ」を杉村(2004:57-58)は、未来志向的な用法と述べている。(35)のように、ウェブ

<sup>9)</sup> 述部はどのような事柄が起きるのかという事象そのものの内容に関する情報を提供することに対し、助詞はその参与者が事象の中でどのような立ち位置にあるかという関わり方の情報を示す(尹、2015:48)。

ニュースの本文における本来の述部がウェブニュース見出しの文末には現れておらず、本来の述部と意味的に対応させられる助詞がその代わりに文末で表されている。つまり、ウェブニュース見出しの文末では述部が省略される場合、その意味情報を助詞に付加することがある。述部の意味情報を助詞に付加することで、述部が省略できるという点から助詞止めの形式は、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを簡潔に表現するための有効な手段と言える。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末では、(31)から(33)のように、漢語サ変動詞語幹止めや名詞止め、助詞止めの形式が使用される場合、一般的にサ変動詞「する」の部分や述部の省略が行われている。漢語サ変動詞語幹、名詞と助詞といった三種類の表現で止める見出しが資料全体を占める割合は合わせて7割以上であり、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に表現を省略する特徴が窺える。省略された述部などの表現が示した情報は、漢語サ変動詞語幹の動作性を利用することや、助詞に意味を付加することを通して最大限に保持されている。このように文末で述部などの省略が行われることは、見出しを簡潔化にすることを実現させ、さらに見出しの長さをコントロールすることに役立っている。

また、サ変動詞「する」の部分や述部の省略に伴い、ウェブニュースの本文で述部が示したテンス・アスペクトなどの文法形式<sup>10)</sup>も省略されている。また、(34)の見出しの文末では、述部として動詞「終わる」が現れているが、ウェブニュースの本文の「終わりました」という表現を使用していることからわかるように、見出しではテンス・アスペクトなどの文法形式が変更され、本来の文法上の意味がウェブニュース見出しでは示されていない。見出しで動詞の「タ」形から動詞の「ル」形へ変えるのは、野口(2002:116-119)が述べた「劇的現在」<sup>11)</sup>の用法である。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、サ変動詞「する」を省略することや、動詞ル形へ変更することを通して、元々の表現に現れたテンス・アスペクトなどの文法形式を排除している。そのことは、野口(2002)が指摘したとおり、ニュース情報における過去の出来事という性質を弱化させ、読者の臨場感を高め

<sup>10)</sup> 尹(2015:44)は、日本語の新聞見出しで動名詞を用いることには、形式動詞をなくすことにより、それに付随するテンス・アスペクト・ヴォイス・モダリティなどの文法形式も排除できるという有効な点があると指摘している。

<sup>11)</sup> 野口(2002:116-119)は、見出しには、臨場感を高め、読者を記事の内容に引き込むために、すでに過去となった出来事を報道するのに現在形を使う場合があると指摘し、現在形で過去の出来事を表すこの手法を「劇的現在」と呼んでいる。

るという目的にある。

### 2.3 本節のまとめ

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは、文字数が 11 文字から 24 文字までの幅であり、30 文字以上で構成されたものはない。そして、一段の表現形式を用いるより、二段または三段に分けて表示することが頻繁に行われる傾向がある。また、構文要素としては、「主見出し」と「そで見出し」の二つが現れているが、それらは表現形式の段と必ずしも一対一の対応関係にあるわけではない。その原因は、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを段に分ける空白が助詞や動詞、記号などの代用で使われるためである。空白を復元すると、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは元々一つの文にまとめられる場合がある。そのため、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは段を分けて表示しているが、実際のところ、ニュースの話題などの主幹的情報だけを提示する場合がある。

情報面については、三つの傾向が指摘することができる。

①オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおいては、表現形式を問わず、話題のような主幹的情報を中心に伝え、それ以外の情報を加えない傾向がある。

②オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末では述部などが多数省略されており、見出し全体の表現ひいては情報を簡潔化する傾向がある。

③オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末では、形式動詞「する」の部分を省略することや、動詞「ル」形で表現することで、元々のテンス・アスペクトなどの文法形式を排除する傾向がある。

このようにオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは情報量を少なめに提供することで、見出しの簡潔さを実現させている。しかし、他方でここにはウェブニュース見出しからウェブニュースの本文の情報を理解するには困難ももたらす。そのため、ウェブニュース見出しを通じてニュースの情報を把握しようとするれば、必然的に読者に委ねられるところが大きくなる。読者はウェブニュース見出しによってニュースの情報をある程度まで推測できるが、ニュース情報の全体を理解するにはウェブニュースの本文を読まなければならない。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける情報面に反映された特徴は、読者のウェブニュースの本文に対する興味を引き出すための戦略にあると言える。

### 3. まとめ

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは形式的には類似しているところがあるものの、表現形式の段と構文要素との関係には異なる特徴が現れている。

文字数については、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは文字数の幅が広いが、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは 24 文字以下に集中しており、相対的に簡潔化している。他方、段数については、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しはともに一段から三段までの表現形式を取っているが、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには文字数がかなり多い場合、改行して二行で表されている。また、構文上ではオリジナルの中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは主幹的情報を示す要素のほかに、補足的情報を示す要素が用いられることで一致している。中国語見出しには引題と副題があり、日本語見出しには、そで見出しが現れる。しかし、中国語見出しでは、表現形式における一つの段は一つの構文要素と対応しているが、日本語見出しでは、段と構文要素との対応関係が必ずしも認められるわけではない。

形式的特徴から影響を受け、情報面ではオリジナルの中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは異なる戦略が反映されている。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、段と段との間は文法的に結び付きが弱く、各段の情報が独立している。そして、常に引題または副題が付けられており、限られた空間でウェブニュース見出しを通してニュースの情報を詳しく伝えようとする姿勢が認められる。つまり、読者にとって、ウェブニュース見出しからニュース記事の情報への推測が容易にできるという戦略が取られている。

一方、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、段と段の間に挟まれた空白を復元すると、元々一つの文にまとめられるため、見出し個々の段は文法的に結びつきが強く、情報の独立性は弱い。日本語見出しは段に分けて表示されても話題を中心に主幹的情報だけが伝えられ、それ以上の情報提供はなく、そで見出しを付けない場合がある。また、文末では述部などを省略することで、見出しではテンス・アスペクトなどの文法形式を排除する傾向がある。つまり、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しには、全体的に情報量が少なく、見出しの簡潔化を追求する姿勢が認められ、ウェブニュース見出しからウェ

ブニュースの本文の情報を理解するには困難が伴う。読者に委ねられているところが大いにある。読者はウェブニュース見出しを通じてニュースの情報を把握するには、ニュース全体を読む必要がある。簡潔化されたオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにはウェブニュースの本文に対する興味を引き出すための戦略が反映されている。

要するに、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは情報を詳しく伝え、読者が見出しからニュース全体の情報を容易に推測できるように工夫されているのに対し、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは情報量を少なめに提供することで、読者のニュース全体への興味を引き出す戦略が取られている。

### 第三章 ウェブニュース見出しの中日翻訳における 補足的情報<sup>12)</sup>

#### 0. はじめに

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、構文の特徴によって単一見出しと複合見出しに分けられ、構文要素として「主題」「補題」「引題」「副題」<sup>13)</sup>といった概念があることは、すでに第二章 1 節で述べたとおりである。人民網から集めたオリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、通例「主題」が現れるが、(1)と(2)のように、「引題」または「副題」が現れる場合も多数ある。

(1) 中原：被指用 6 翅 8 腿怪鸡 肯德基起诉 10 个微信账号 (2015/6/1)

日訳：「6 翼 8 足の奇形鶏を使った」とのデマ流布 KFC が微信アカウントを提訴

(2) 中原：中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2)

日訳：中国と韓国が自由貿易協定を締結、韓国の化粧品が安くなる可能性

(1)の見出しでは、“肯德基起诉 10 个微信账号”がニュースの主幹的情報であり、主題である。下線部の“被指用 6 翅 8 腿怪鸡”はニュースの背景を示しており、引題になる。(2)の見出しでは、主幹的情報は“中韩两国签订自贸协定”であるため、それが主題になる。後ろの段の“化妆品有望变得更加便宜”はニュースの影響を示しているが、これが副題である。(1)と(2)が示しているように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける主幹的情報、つまり主題は見出し文の中で、最も重要な情報を伝えるものである。同時に、ニュース情報の理解を深めるために補足された情報が存在している。引題と副題であり、本研究では補足的情報として扱っている。図 3-1 のように示すことができる。

---

<sup>12)</sup> 第三章は李(2016a、2016b)を基に書いたものである。

<sup>13)</sup> 本章では、構文要素として「主題」「補題」「引題」「副題」といった概念を説明する、あるいは強調する場合、括弧をつけている。しかし、例文を分析する場合には、見出し文における各要素の情報を重視するため、括弧は付けていない。

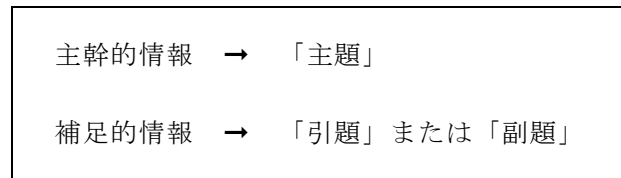


図 3-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの概念説明

ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程を詳細に検討していくと、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報は、全てそのままに直訳されるわけではない。そこには「省略」「補充」「書き換え」という三つの傾向が認められる。

本章の目的は、人民網の中日対訳のウェブニュース見出しを対象とし、ウェブニュース見出しの中日翻訳において、補足的情報に焦点を当て、実例を対照させることで、その翻訳メカニズムを論じることにある。まず、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報とはどのような情報であるのかを明らかにする。次に、補足的情報が日本語に翻訳する過程においてどのように扱われているかを考察し、その翻訳メカニズムを論じる。

人民網から集めた 100 組の中日対訳ウェブニュース見出しを対象に、第 1 節では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しについて、その形式面と情報面の特徴を考察する。第 2 節では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの単一见出しを中心に、中日翻訳を行う際、その補足的情報がどのように扱われているのかについて考察する。第 3 節では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける「引題＋主題」、「主題＋副題」、「引題＋主題＋副題」といった三種類の複合見出しを中心に、それぞれの補足的情報が中日翻訳の過程でどのように扱われているのかについて考察する。第 4 節では、本章で明らかになったことをまとめる。

## 1. 翻訳された日本語ウェブニュース見出しの形式と情報

(1) と (2) は次のように翻訳されている。

(3) 日訳：「6 翼 8 足の奇形鶏を使った」とのデマ流布 KFC が微信アカウントを提訴

(2015/6/1)

(4) 日訳：中国と韓国が自由貿易協定を締結 韓国の化粧品が安くなる可能性

(2015/6/2)

中日翻訳を経て、「人民網日本語版」に掲載された日本語ウェブニュース見出しは形式上、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しからの影響を受けて、通例、一段見出しまたは二段見出しとなり、同一の行で示されている。他方、(5)のようにオリジナルの中国語ウェブニュース見出しが二行で表される場合には、その日本語訳文も二行に分けて示される。

(5) 中原：习近平在巴基斯坦议会发表重要演讲：

构建中巴命运共同体 开辟合作共赢新征程 (2015/4/21)

日訳：習近平主席がパキスタン議会で重要演説

——運命共同体を構築、協力・ウィンウィンの道程を切り開く

また、(5)のようにオリジナルの中国語ウェブニュース見出しは文字数が多くても、直訳されることがあるため、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文字数は 13 文字から 47 文字となり、広い幅で現れている。図 3-2 のように示すことができる。

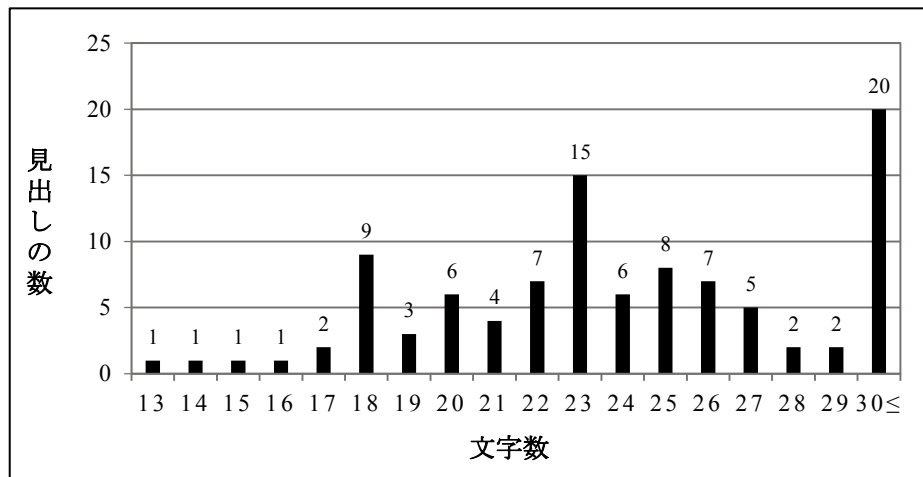


図 3-2 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しの文字数

情報面では、(3) (4) (5)のように、翻訳された日本語ウェブニュース見出しはオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと一致しており、最も重要な点をまとめた主幹的情報と、それに解釈や説明などを加えた補足的情報が入っている。しかし、オリジナルの中国語ウ

ウェブニュース見出しはすべてそのままに直訳されるのではなく、見出しに現れた補足的情報について「省略」「補充」「書き換え」が行われることがある。ここで、野口(2002)の論説に従い、図 3-3 で示したように、翻訳された日本語ウェブニュース見出しに見られる主幹的情報を「主見出し」に、補足的情報を「そで見出し」として扱う。

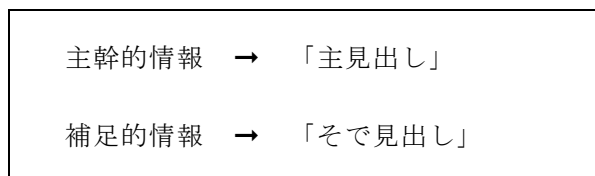


図 3-3 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しの概念説明

ウェブニュース見出しを中国語から日本語へ翻訳する過程において、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける各構文要素は翻訳された日本語ウェブニュース見出しでどのように対応しているのであろうか。特に補足的情報の「引題」と「副題」がどのように扱われるのかという点に注目し、中日対訳のウェブニュース見出しを対照分析する。その際、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しについて、構文要素の「主題」「補題」「引題」「副題」といった概念を用い、翻訳された日本語ウェブニュース見出しについては、「主見出し」と「そで見出し」という構文要素の概念を利用する。

以下、第 2 節では単一見出しについて述べ、第 3 節では複合見出しについて述べる。

## 2. 単一見出し

単一見出しは、一段見出しであり、主題だけで構成されたものである。ウェブニュース見出しはウェブ上の空間に限られ、ほとんど一行で現れているため、一段見出しが数多く認められる。

本節では、単一見出しについて、次の二点を考察する。

- ① 単一見出しには、補足的情報が認められるのかどうか。
- ② 補足的情報が認められた場合、それはどのように扱われているのか。

ここで対象となるのは 100 例のうちの 44 例である。その 44 例を翻訳過程に見られる変化に従って分類すると、表 3-1 のようになる。

表 3-1 ウェブニュース見出しの中日翻訳における単一見出しの変化

	変化パターン		見出しの数
単一見出し (一段見出し)	無変化(訳文に主見出しだけ)		16 例
	形式面だけの变化 (訳文が二段・三段見出しへ)		19 例
	情報面の変化	書き換え	2 例
		補充	6 例
	誤訳 <sup>14)</sup>		1 例

## 2.1 無変化

(6)と(7)のように、訳文において、形式面にも情報面にも変化が見られないものが 16 例ある。

(6) 中原：习近平会见日本首相安倍晋三 (2015/4/24)

日訳：習近平主席が安倍晋三首相と会談

(7) 中原：中国游客为何追捧日本“神药” (2015/7/9)

日訳：日本の「神薬」が中国人観光客に大人気の理由

これらの例では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは翻訳の過程で加工は一切施されていない。それは、主に(6)のような主述構文のときである。文字数が少なく、構文要素が簡単のため、日本語に翻訳しても一文で表現できるためと考えられる。翻訳された日本語ウェブニュース見出しは主見出しだけで構成され、直訳の見出しだと言える。そのため、補足的情報は認められない。

## 2.2 形式面だけの变化

<sup>14)</sup> 誤訳と思われる次のような例は分析の対象としていない。

例：中原：中国最大银行连续三年居《福布斯》全球企业 2000 强榜首 (2015/5/12)

日訳：工商銀 3 年連続で世界上位 2 千社入り

形式に変化が見られるものが 19 例ある。ここでは、中国語ウェブニュースの一段見出しから、翻訳を通じて、翻訳された日本語ウェブニュース見出しが二段見出しあるいは三段見出しという形式で現れている。(8)から(10)のようである。

- (8) 中原：中国土豪公司 6400 员工游法国 (2015/5/11)

日訳：中国の気前のよい会社 従業員 6400 人をフランス旅行に

- (9) 中原：日美 TPP 部長級谈判未達成一致 (2015/4/21)

日訳：日米 TPP 閣僚級協議 まだ合意に至らず

- (10) 中原：重庆高速将用无人机拍违章 (2015/5/9)

日訳：重慶の高速道路 交通違反行為取り締まりにドローン活用

(8)から(10)のオリジナルの中国語ウェブニュース見出しは主題だけで構成されたものである。しかし、日本語で一文で表すと、長くなりすぎるので、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは二段に分けて表示されている。こうした表現を用いることで、訳文の「主語」が強調されるとともに、ニュースの情報、つまり誰が、どこで、どうしたのかという文の階層がはっきりとする。他方、翻訳の過程、つまり情報面において、情報の加工は認められない。翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは、前後二つの部分の情報はいずれも見出しにおいて重要な存在であり、主幹的信息として見るのが適切である。

ただし、(11)の「北京」と(12)の「14 年度」は、それぞれの見出し文において、省略されても、見出しの完全性に大きな影響を及ぼすことはない。そのため、それぞれはそで見出しとして扱って差支えない。

- (11) 中原：北京新增商用新能源车福田占九成 (2015/5/7)

日訳：新エネルギー商用車の新規増加、福田汽車が 9 割 北京

- (12) 中原：日本 2014 财年实际工资创最大降幅 (2015/5/20)

日訳：日本の実質賃金が過去最大の低下幅 14 年度

(11)の「北京」と(12)の「14 年度」は補足的情報に位置づけられるものであるが、実際は、このような地名や時間を表す言葉は一番後ろに移動させて残している。訳文が長くない限り、できるだけ見出し情報の完全性と豊富性を維持させるためであろう。

## 2.3 情報面の変化

### 2.3.1 書き換え

情報面に変化が見られた見出しが 8 例ある。そのうちの 2 例は(13)と(14)のように主題に書き換えが認められるものである。

(13) 中原：济南 90 后创客将“美丽济南”邮天下 (2015/7/8)

日訳：21 歳大学生、「美しい济南」郵便事業所を開業 済南市

(14) 中原：湖北神农架、广西花山岩画景观将申请 2016 年世界遗产 (2015/7/10)

日訳：中国、2016 年の世界遺産大会で物件 2 件登録申請へ

(13)は、日本語に翻訳する際、一段見出しを三段見出しに変えると同時に、中国語ウェブニュース見出しにある“创客”と“邮天下”という文学的な言葉を、ニュースの事実に基づいて、「郵便事業所を開業」という理解しやすい言葉に転換させている。そして、翻訳された日本語ウェブニュース見出し文の最後にある「済南市」も原文と対照されうるものだと考えられるが、すぐ前の主見出しには「美しい济南」という言葉があり、このニュースの発生地がどこであるのかが容易にわかる。そのため、ここの「済南市」はそで見出しであると同時に、補足的情報と見なすことができる。

(14)では、中国語ウェブニュース見出しにある“湖北神农架”と“广西花山岩画景观”という具体的な名所を、翻訳された日本語ウェブニュース見出しとしては違和感がある表現ではあるが、「物件 2 件」という総括的な言い方に変えている。理由として二つのことが考えられる。一つは日本の読者は、中国の名物に詳しくはないはずなので、周知でないことを述べるよりは、ウェブニュース見出しの情報をまとめた言い方で述べるほうがより明確になるという理由である。もう一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しはこのような場合、総括的な言い方を好み、物事をいちいち並べたりはしない傾向があるので、日本語ウェブニュース見出しの表現形式に相応したやり方に従っているという理由である。具体的な名称であれ、総括的な言い方であれ、ウェブニュース見出しの全体から見ると、ニュースの話題であり、補足的情報とは言えない。

### 2.3.2 補充

さらに、中国語ウェブニュース見出しを日本語に翻訳する過程において、情報の補充によって、情報面の変化が生じたものが 6 例ある。そのうち 2 例は(15)と(16)である。

(15) 中原：民政局挂歧视女性海报引争议 (2015/4/22)

日訳：北京の婚姻登録所に「妻は夫と勢力争いするな」のポスター 論議呼ぶ

(16) 中原：日本“解酒神饮”登陆中国 (2015/5/13)

日訳：2 日酔いに効果のある日本の「神」健康飲料が中国に上陸

(15)と(16)は、日本語の主見出しにそれぞれポスターの内容と飲料の説明を補充している。これらの具体的な内容は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しへの理解が不十分になることを避けるために、必要な情報が補足的情報として補充されたのだと思われる。

そのほか、翻訳された日本語ウェブニュース見出しに直接そで見出しを補充したものも 4 例ある。(17)から(20)である。

(17) 中原：日本百名大学生今天来华交流 (2015/5/14)

日訳：日本の大学生約 100 人が訪中 南京城壁修復 20 周年記念式典

(18) 中原：月入不到四万五别说自己是中产阶级 (2015/7/11)

日訳：大陸部の中産階級は月収 4.5 万元以上 調査結果

(19) 中原：首都机场三座航站楼内原有吸烟室 6 月起全部关闭 (2015/5/27)

日訳：北京首都国際空港の喫煙室が 6 月より閉鎖 喫煙抑制条例の施行に伴い

(20) 中原：英媒支招酒店业者如何招待中国游客 (2015/7/9)

日訳：中国人の海外旅行ブーム、ますます盛んに

英国メディアが発表した「中国人向けおもてなしの心得」

(17)は日本の大学生が訪中した際の具体的な内容を、(18)はニュースの情報源を、(19)と(20)はニュースの背景を補充させたものである。そして、それらがそれぞれの翻訳された日本語ウェブニュース見出しにそで見出しとして存在し、見出し全体及びニュース情報への理解を深めることに役立っていると考えられる。つまり、補足的情報を補充する典型的な例文と見なすことができる。

## 2.4 本節のまとめ

以上の分析から、単一见出しに補足的情報が含まれることがあることが明らかになった。単一见出しにおける補足的情報について、中日翻訳を行う際における翻訳メカニズムとして、主に二つのパターンが認められる。

パターン①：中国語の単一见出しにある地名や時間を表す言葉は、日本語に翻訳する際、常に見出し文の一番後に移動し、そで見出しとして付けられる。そのほかにも、日本語の見出し文の最後に直接に具体的なニュース情報やニュース背景を補充することがある。

パターン②：単一见出しを中国語から日本語に翻訳する際に、日本語の主見出しの中に、ニュース本文の情報に基づいて、具体的な説明を補充することがある。

これらの補充した情報は、ニュース見出しへの理解に役立っているため、補足的情報と見なされる。単一见出しにおける補足的情報について、その翻訳メカニズムを図にまとめると、図 3-4 のようになる。

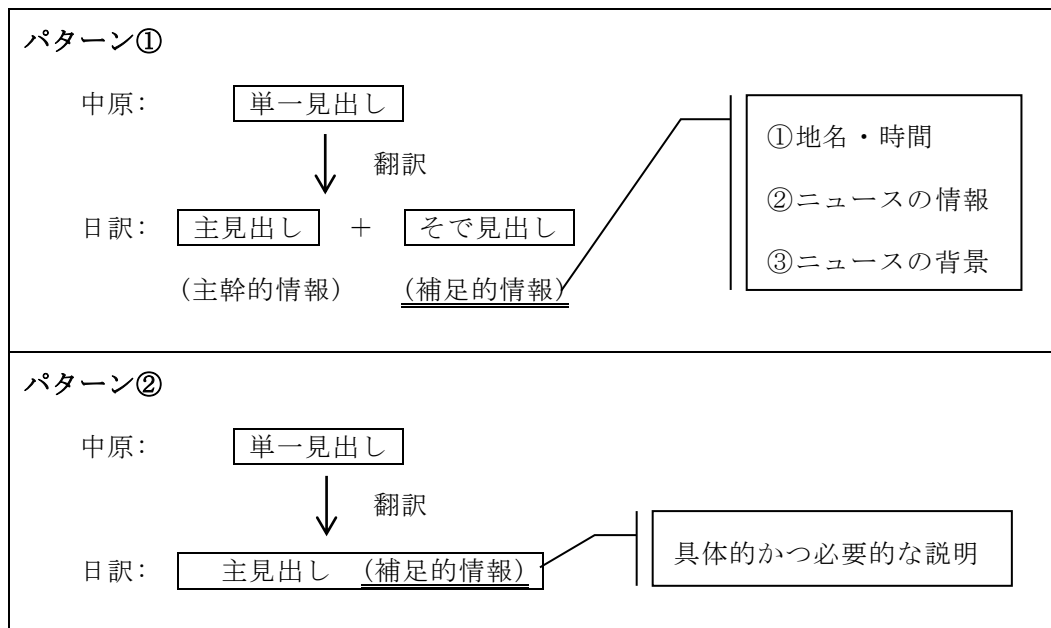


図 3-4 単一见出しの補足的情報に関する翻訳メカニズム

## 3. 複合見出し

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける複合見出しは、一般的に「引題＋主

題」や「主題＋副題」、または「引題＋主題＋副題」というパターンで現れている。資料の中に複合見出しは56例<sup>15)</sup>あるが、中日翻訳の過程で情報が完全に变化したものが7例ある。それを除くと、分析の対象になるのは49例であるが、割合はほぼ単一見出しと同じである。構成パターンに従って複合見出しの数を示すと、表3-2のようになる。

表3-2 オリジナルの中国語ウェブニュース複合見出しの構成パターン

	構成パターン	見出しの数
複合見出し	「引題＋主題」の複合見出し	15例 <sup>16)</sup>
	「主題＋副題」の複合見出し	31例
	「引題＋主題＋副題」の複合見出し	3例
合計		49例

本節は、上の三つの構成パターンに分けて、次の二点を明らかにする。

- ①引題、または副題で表現される補足的情報とはどのような情報であるのか。
- ②日本語に翻訳する際に、補足的情報として見なされる引題または副題はどのように扱われているのか。

### 3.1 「引題＋主題」の複合見出し

ここでは誤訳の1例を除き、14例が対象となるが、「人物名及び機関名」と「ニュースの背景」が主な引題の情報として捉えられる。そのほかに、「評価的な表現」、「否定的な表現」、「具体的な表現」及び「曖昧な表現」などの表現パターンも見られる。

#### 3.1.1 人物名及び機関名

中国語ウェブニュース見出しの文頭には、ニュースの主題、いわばどこからのニュース、

<sup>15)</sup> 中日翻訳の過程で情報が完全に变化した複合見出しは7例ある。しかし、こうした例について、本研究では分析の対象としない。例えば、次のような例である。

例：中原：扩张策略生变 永旺转攻购物中心 （2015/7/13）

日訳：イオン 商業用不動産開発と郊外への進出を模索中

<sup>16)</sup> この中には誤訳の見出し1例が含まれている。次の例であるが、これは分析対象としない。

例：中原：外国在京青年：喜欢“骨子里”的中国首都 （2015/5/14）

日訳：北京在住外国人成年 「骨の髄から大好きな中国文化」

あるいは誰からの観点といったことが明示される傾向がある。これはほとんど人物名や機関名であるが、ニュースの情報源となる。ウェブニュース見出しの主題を補足していると考えられるため、引題と言えるものである。人物名及び機関名を引題に取る見出しが 5 例ある。(21)から(23)のようである。

- (21) 中原: 外交部: 不要把复杂敏感因素引入 NPT 审议大会 (2015/5/19)

日訳: 外交部、日本が複雑、敏感な要素を NPT 再検討会議に持ち込むことに反対

- (22) 中原: 军事专家: 日本战机无理紧急升空或增大擦枪走火可能 (2015/4/15)

日訳: 専門家「日本機のスランブル、偶発的衝突の可能性増幅」

- (23) 中原: 海关总署: 4 月出口同比下降 6.2% 进口下降 16.1% (2015/5/8)

日訳: 4 月は輸出 6%減・輸入 16%減 税関総署

人物名や機関名は、直接翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文頭に付けられることもあれば、(22)のように“军事专家”が「専門家」に意識されたり、(23)のように“海关总署”が日本語見出しの最後に移動したりすることもある。このような引題はニュースの主語いわば情報源と見られ、基本的に翻訳された日本語ウェブニュース見出し文に持ち込まれている。

### 3.1.2 ニュースの背景

ニュースの背景となる引題は 5 例である。(24)と(25)のようである。

- (24) 中原: 被指用 6 翅 8 腿怪鸡 肯德基起诉 10 个微信账号 (2015/6/1)

日訳: 「6 翼 8 足の奇形鶏を使った」とのデマ流布 KFC が微信アカウントを提訴

- (25) 中原: 故宫斥“人体艺术照”: 违反社会公德和秩序 (2015/6/2)

日訳: 故宫でのヌード写真撮影が議論の的に 故宫側「社会の公共秩序に反する」

このような引題は、ウェブニュース見出しにおける全体の情報を理解する前提と見なされているものであり、日本語ウェブニュース見出しに翻訳する際には、基本的に直訳され、そで見出しとして付けられている。これは、日本の読者がウェブニュース見出しの主題を理解するうえで大きな障害にならないようにするためと思われる。

ただし、引題はニュースの背景を述べて、とても長いものになる場合、(26)のように省略されることもある。

(26) 中原: 鎌田正志执掌中国区六年后跳槽国产品牌丸美 (2015/7/9)

没了“中国通” 资生堂在华能否玩得转

日訳: 「中国通」を欠く資生堂 中国で業績伸ばせるか?

(26)では、引題が長すぎるだけでなく、ウェブニュースの本文から、ニュースの注目点は主題の資生堂が中国で将来発展するかどうかであることが分かる。そのため、翻訳された日本語ウェブニュース見出しを簡潔にするとともに、最も伝えたい情報を強調するために、引題の情報は省略されたと思われる。

さらに、ニュースの受け手が変わることにより、中国のことを明示する必要がある場合は、(27)と(28)のようにニュースの背景を書き換えることもある。

(27) 中原: 国家卫计委发布报告: 剩男多在农村 剩女多在城镇 (2015/5/14)

日訳: 中国、独身男性は農村に、独身女性は都市部に集中

(28) 中原: 第十二次全国阅读调查: 人均每天读微信超 40 分钟 (2015/4/21)

日訳: 中国、成人の 6 割が 1 日 40 分以上「微信」を閲覧

(27)と(28)のように、中国語ウェブニュース見出しでは、引題としてニュース背景を紹介し、情報源となる機関名を提示しているが、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは、この部分が「中国」に書き換えられ、そで見出しとなっている。これらのニュースを書いたのは中国のメディアであり、中国のことを報道しているわけであるから、そうした点が中国語ウェブニュース見出しの中に明示されなくても、読者は中国のことだと意識することができる。しかし、ニュースの受け手が中国人読者から日本人読者になると、そうはいかない。日本人読者はこれらのニュースが中国のことであると最初から頭の中に入れておくのは難しい。そのため、ウェブニュース見出しに背景や情報源を記すことで、中国のことであることを明示する必要があるのだと考えられる。

人物名及び機関名、ニュース背景が引題となるほかに、個別に特殊な表現もある。「評価的な表現」、「否定的な表現」、「具体的な表現」及び「曖昧的な表現」である。

### 3.1.3 評価的な表現

(29)では“一季度国民经济开局平稳”が引題であり、中国の経済を総括的に評価している。その証拠として後ろに“GDP 同比增长 7%”という具体的かつ確実な情報が補充されている。

(29) 中原：一季度国民经济开局平稳 GDP 同比增长 7% (2015/4/15)

日訳：1～3 月 GDP は 7%増加 総合的に安定

この見出しを日本語に翻訳する際、確実な情報を重視するニュースでは、“GDP 同比增长 7%”が主題として捉えられ、主見出しとして文頭に置かれている。これに対し、引題の情報は後ろに移動し、主見出しへの解説、あるいは評価として、補足的情報となっている。つまり、引題の情報は直訳されたが、翻訳された日本語ウェブニュース見出しではそで見出しとなり、主見出しと順序が逆になっている。

### 3.1.4 否定的な表現

(30)の中国語ウェブニュース見出しでは、幸福航空の着陸失敗の原因について述べている。引題の“非飞机故障”は否定的な表現であり、その後ろにある“可能人为导致”は肯定的な表現である。幸福航空の着陸失敗について、中国のメディアは注目度が高い重大な事件として断続的に報じており、中国語の見出しでは事件の背景を紹介しなくても、読者は容易に幸福航空の事件のあらましを思い浮かべることができる。

(30) 中原：非飞机故障 可能人为导致 (2015/5/12)

日訳：幸福航空の着陸失敗、人的ミスの可能性

しかし、日本のメディアは中国のメディアほど幸福航空の事件を連続的に報道する理由がないため、ニュースの背景がなければ、日本人読者は見出しで伝えたい情報を理解できない可能性が極めて高い。そこで、ニュース背景の提示が必要であるため、翻訳の際に「幸福航空の着陸失敗」という背景を補充している。そして、翻訳された日本語ウェブニュース見出しを簡潔にするために、否定表現の引題が省略されている。

### 3.1.5 具体的な表現

(31)の中国語ウェブニュース見出しでは、前半と後半両方とも確実な情報として、前半では肥満児童のことが語られ、後半では世界的規模から見た中国全体の肥満状況のことが語られている。つまり、視点がより大きな後半は、見出しの主題と見なされる。

(31) 中原：肥胖儿童近三成血压高 中国肥胖人口全球第二 (2015/6/2)

日訳：中国、世界第2位の肥満国に 肥満児童の約3割が高血圧

日本語に翻訳する際、主題の“中国肥胖人口全球第二”は直訳され、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文頭に置かれている。そして、具体的に注目すべきこととして、“肥胖儿童近三成血压高”という引題の情報、すなわち肥満児童のことが挙げられ、それが主見出しを補足していると解釈できるであろう。つまり、この例では、視点の大きさによって主題が扱われ、日本語に翻訳する際には、主題の情報を優先し、引題の情報との順序を逆にしている。

### 3.1.6 曖昧な表現

曖昧な表現を持つ引題として(32)が挙げられる。

(32) 中原：国人赴韩男女比例相差悬殊 女性更爱韩国游 (2015/5/7)

日訳：韓国を旅行する中国人の65%が女性 化粧品や韓流が後押し

中国語ウェブニュース見出しでは、前半の“国人赴韩男女比例相差悬殊”は「韓国を旅行する中国人には男女割合の差が大きい」ことを意味するが、男女どちらの割合が多いのかについては明言がなく、曖昧な表現となっている。一方、後半の“女性更爱韩国游”は前半の“比例相差”に対して、女性のほうが多いことを明確に説明している。つまり、後半が見出しの全体でより重要な位置を占め、主題として捉えられ、前半が引題となる。主題で明確にされていれば、その分だけ、引題の必要性は弱くなり、できる限り簡潔にしたウェブニュース見出しにとって、曖昧な表現は取り除かれることになる。そのため、日本語に翻訳する際には、引題における曖昧な表現は除かれ、ウェブニュースの本文により、

主題の情報と組み合わせることで、日本語の主見出しをより明確な言い方に書き換えている。さらに、ウェブニュースの本文から、具体的な統計データ「65%」を見出しに添加することで、中国人の女性のほうが男性より韓国への旅行を夢中になっていることを表している。

### 3.1.7 本節のまとめ

「引題＋主題」複合見出しの中日翻訳についてまとめると、補足的情報の翻訳メカニズムは四つのパターンに大別できる。図 3-5 のように示される。

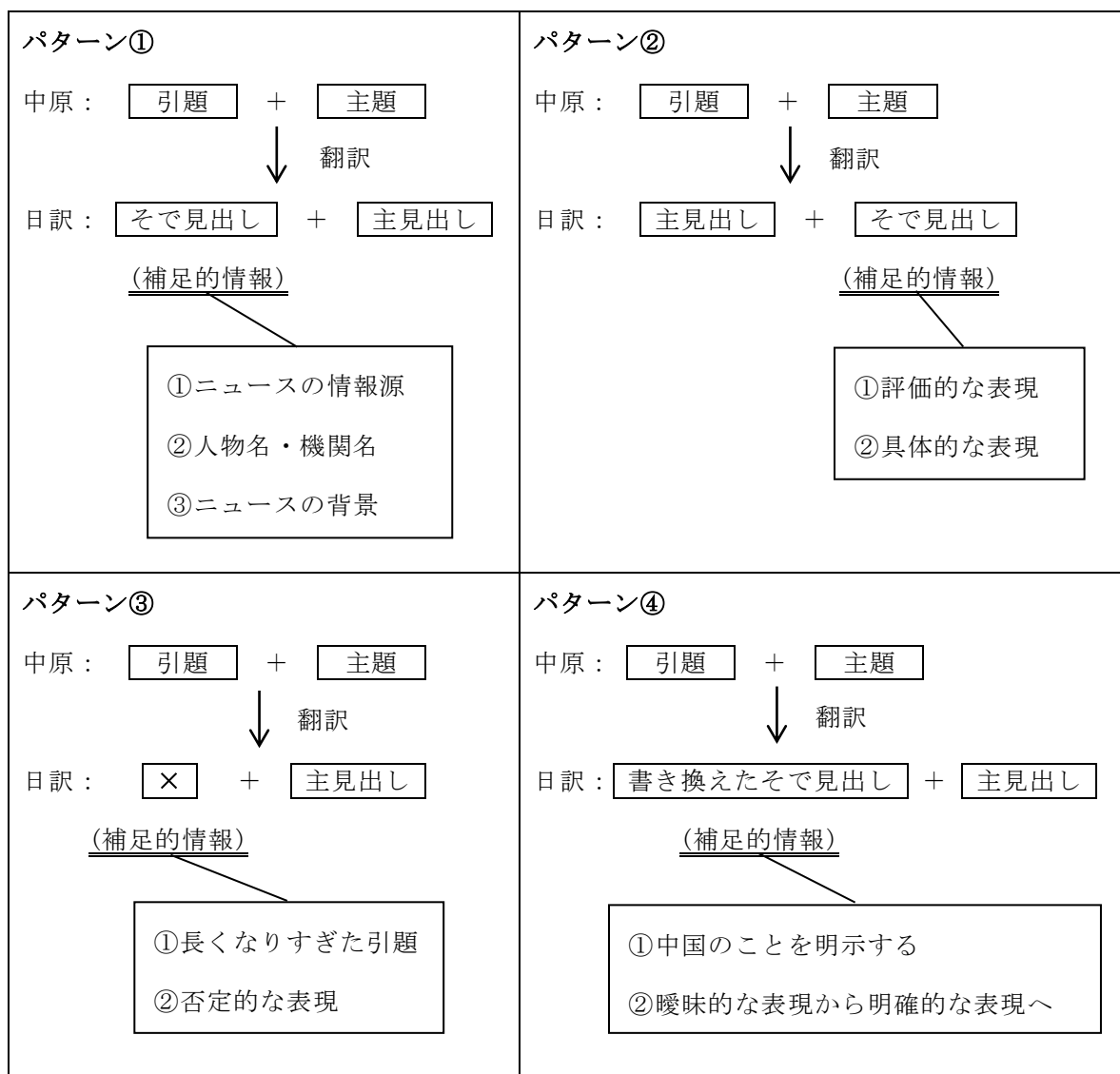


図 3-5 複合見出しの「引題」に関する翻訳メカニズム

パターン①は、引題がニュースの情報源となる人物名や機関名、ニュースの背景である場合である。それらの引題は日本語に翻訳されても基本的に直訳され、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文頭にそで見出しとして付けられている。このような引題は最も多く見られ、8例もあり、日本語への翻訳過程において、優先権を持っていると思われる。

パターン②は、引題が評価的な表現や具体的な表現である場合である。それらの引題は翻訳された日本語ウェブニュース見出しが長くなならないことを前提として直訳され、日本語の主見出しを強調するために、主見出しと逆にされ、順序に変化が認められる。

パターン③は、長くなりすぎた引題や否定表現の引題が省略されたものである。

パターン④は、日本語ウェブニュース見出しに翻訳する際に引題の情報が書き換えられているものである。これは、ニュース受け手の変化に従って、中国のことを明示する必要とする場合、あるいは曖昧な表現を明確な言い方にする場合に見られる。

### 3.2 「主題＋副題」の複合見出し

「主題＋副題」というパターンのオリジナルの中国語ウェブニュース見出しは 31 例ある。副題の情報については、主にニュース事件に関する具体的な内容や説明、ニュース事件に対する評価や行動、ニュース事件の影響といった三種類に大別できる。

#### 3.2.1 ニュース事件に関する具体的な内容や説明

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの副題の情報として、最も多く上げられるのはニュース事件に関する具体的な内容や説明であり、19例ある。しかし、これらの副題のうち、日本語に翻訳する際に直訳されたものが6例、省略されたものが5例、書き換えられたものが4例、主題と組み立て直されたものが4例と、翻訳の傾向はつかみにくい。

(33)と(34)は副題が直訳された例である。

(33) 中原：习近平在巴基斯坦议会发表重要演讲：

构建中巴命运共同体 开辟合作共赢新征程 (2015/4/21)

日訳：習近平主席がパキスタン議会で重要演説

——運命共同体を構築、協力・ウィンウィンの道程を切り開く

(34) 中原：2015 年二季度全国游客满意度报告出炉 广安升至第一 (2015/7/9)

日訳：「4-6 月全国観光客満足度報告」発表 広安がトップに躍進

(33)の副題「构建中巴命运共同体 开辟合作共赢新征程」は、中国指導者による演説のテーマであり、演説の重要かつ具体的な情報を提示するものである。この副題は直訳されているが、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは長くなるため、二行の形式で表されている。翻訳された日本語ウェブニュース見出しが形式を配慮せずに副題を直訳するのは、主に政治分野のウェブニュース見出しに見られる。(34)では、副題は報告発表の内容について、その代表例を挙げているが、翻訳された日本語ウェブニュース見出しにも用いられている。これは常に社会調査の結果発表に関わるウェブニュース見出しに見られる。

また、(35)のように、科学技術に関わるウェブニュース見出しにも副題が直訳されている。このような副題は新たに創造した物について、その機能や役割、重要性などを具体的に説明するものである。

(35) 中原：中国开发首个全自由度太空机器人：模拟轨道加油 (2015/5/12)

日訳：中国が初の宇宙ロボを開発、軌道上での燃料注入を想定

一方、(36)のように省略される場合もある。

(36) 中原：中国抗 MERS 药物研究获重要进展：可用于紧急防护 (2015/6/2)

日訳：中国人研究者、MERS 治療薬の研究に進展

省略された副題の情報は、次の(37)と(38)が示している二つのパターンがある。

(37) 中原：5月10日起我国提高卷烟消费税

批发环节从价税税率由 5%提高至 11%，并按 0.005 元/支加征从量税 (2015/5/9)

日訳：10日からタバコの消費税を値上げ 中国

(38) 中原：女大学生 4 年穷游 227 个城市 平均 6 天游一城 (2015/5/6)

日訳：中国、女子大生が4年間で227都市を貧乏旅行

省略された副題は、(37)ではタバコ消費税の実施方法という具体的な説明である。これはあまりにも詳しく、日本語に翻訳すると、長くなりすぎるのが省略の原因として

考えられる。また、(38)のように、主題から推測できること、いわば全体から見るとあまり重要でないことは、重複を避けるために省略されたと思われる。

省略のほかに、書き換えが見られた見出しが 4 例ある。(39)から(42)である。

(39) 中原：2015 上海车展热门豪车抢先看 “速 7” 6000 万超跑亮相 (2015/4/22)

日訳：上海モーターショー 高級車やスポーツカーが勢ぞろい

(40) 中原：2015 北京科博会开幕 无人机最抢眼 (2015/5/13)

日訳：北京科博会 最も優れた技術を総まとめ

(41) 中原：两市重挫单日蒸发 4 万亿市值 股民人均亏损超 2 万 (2015/5/29)

日訳：中国株式市場 一日で 4 兆元蒸発 一月の努力が無に

(42) 中原：日本海域发生里氏 8.5 级地震

为本月第 7 次 5 级以上地震此次由于震源较深没有发生海啸的危险 (2015/5/30)

日訳：日本沿岸で M8.5 の巨大地震発生

今年に入り地震頻発、火山活動活発化

(39)と(40)では、副題は上海モーターショーまたは北京科博会について、それぞれ具体的な代表例を挙げているが、翻訳する際には総括的な言い方に変えられ、ニュースの主旨を強調している。(41)では、具体的な数字だと損益の程度が把握しにくいため、「一ヶ月の努力が無に」といったようにニュースの結果をより明確なものに書き換えている。さらに、(42)では日本の地震について、今回の具体的な状況から、今年全体の状況を述べるものになっている。つまり、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける具体的な内容を含めた副題は、ウェブニュースの本文の情報に基づいて、総括的かつ全体的な言い方、あるいは理解しやすい言い方に書き換えられ、翻訳された日本語ウェブニュース見出しのそで見出しとして付けられている。

さらに、特別な例として(43)から(46)を挙げたい。

(43) 中原：五城市有意申办 2024 年奥运会 包括波士顿汉堡等 (2015/5/7)

日訳：2024 年五輪招致、ボストンやハンブルクなど 5 都市が名乗り

(44) 中原：中国买家砸 1 亿澳元购悉尼购物中心 位于黄金地段 (2015/5/7)

日訳：中国の開発企業、シドニー等地の商業施設を買収

- (45) 中原：韓国首爾市宣布将建慰安妇像 纪念二战 70 周年 (2015/5/7)

日訳：ソウル市、植民地解放 70 年を記念し慰安婦像建立へ

- (46) 中原：北京地铁拟禁“快闪”行为 奇装异服恐怖妆禁乘 (2015/5/13)

日訳：北京、地下鉄でのフラッシュモブやゾンビメイク禁止

これらの例文では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは「主題＋副題」というパターンで成り立っており、副題が補足的情報として具体的な説明を提示している。しかし、日本語ウェブニュース見出しに翻訳する際には、副題の情報が直訳されただけでなく、主題の情報と組み立て直され、主見出しの一部分として翻訳された日本語ウェブニュース見出しに現れている。これによって、もともと補足的情報であった副題の情報は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは、主幹的信息として扱われている。

このような見出しの構文特徴については、ニュースの話題を強調するために、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しから話題を取り出し、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの最初のところにつけて、そのほかの情報を改めて組み立て後ろにつけるか、話題を表す語句との間に読点「、」で分けている。まとめて言えば、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しを日本語に翻訳する過程には、場合によって、ウェブニュース見出しの主幹的信息及び補足的情報を把握した上で、日本語の表現形式に応じて、適切に言葉を組み立て直すことがある。

### 3.2.2 ニュース事件に対する評価や行動

この種の副題は 8 例あり、具体的には主題に述べたニュース事件について、ニュース関係者からの態度や予測を含めた評価性情報、あるいは対策や発言など行動上の反応を伝えている。(47)と(48)がそうである。

- (47) 中原：亚太裔人口在美增速最快 奥巴马为其贡献点赞 (2015/5/13)

日訳：アジア系米国人が急増 オバマ大統領が貢献を称賛

- (48) 中原：复旦宣传片被指抄袭东京大学 校方连夜发布新片 (2015/5/29)

日訳：復旦大学の PR ビデオは「東大のパクリ」 指摘された日の夜に差し替え

このような情報は日本語に翻訳する際には、訳文が長くないことを前提として直訳

されている。4 例ある。翻訳された日本語ウェブニュース見出しにはそで見出しとして付けられ、見出し情報の豊富さを維持する傾向がある。

ただし、ニュース関係者からの発言を直接引用した副題は 3 例あるが、(49)と(50)のように翻訳の際にすべて省略されている。

(49) 中原：苹果手表成本仅 83 美元？ 库克不服：还有研发费 (2015/5/6)

日訳：Apple Watch、製造コストはわずか 83 ドル？

(50) 中原：日本在亚洲与中国抢高铁大单 日官员：纯粹为搅局 (2015/5/28)

日訳：日本、アジアで中国と高速鉄道受注競争

その省略は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの長さを配慮しているためである。そして、主観的な情報を避けるためである。関係者の発言はあくまでも個人の意見を含む主観性を持つものである。また、政治的な面で配慮しているためでもある。例えば、(50)の“日官员：纯粹为搅局”という副題の情報は中日関係に不利な情報である。日本向けの日本語ウェブニュース見出しに翻訳するとき、両国の関係並びに日本人読者に配慮し、そのような情報を省略されることになるのだと思われる。

さらに、副題の情報が翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは書き換えられた場合もある。次の 1 例である。

(51) 中原：中国留学生家长在耶鲁大学种菜 获校方支持 (2015/7/9)

日訳：中国人留学生の親がエール大で野菜作り 米国のネットユーザーから大好評

(51)では、中国人留学生の家族が野菜作りのことについて、学校側の支持から米国全国的好评に書き換えられている。つまり、副題に現れるもともとの視点より、もっと大きな視点からニュース事件に関わる評価を述べている。評価の視点が変わるのはウェブニュース本文の情報に基づいているが、それによって、ニュース評価の積極性をより一層深めるというプラス効果が現れている。

### 3.2.3 ニュース事件の影響

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、主題に述べた主幹的情報に基づいて生

じた結果や影響を副題に表すことがある。このような副題は4例ある。そのうち、日本語に翻訳する際に、直訳されたものが3例あり、(52)と(53)のようである。

(52) 中原：中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2)

日訳：中国と韓国が自由貿易協定を締結 韓国の化粧品が安くなる可能性

(53) 中原：中国成最大石油进口国之忧 外汇财富或转移给产油国 (2015/5/14)

日訳：中国は世界最大の石油輸入国に 外貨資産が産油国に流入か

(52)と(53)の下線部はニュース事件に基づき、これから事態がどうなるかという予測性を含めた影響を述べている副題である。これらの副題を通じて、ニュース事件が人々の生活、あるいは国の経済発展に重大な影響を及ぼすことを伝え、ニュース事件の重要性も現れている。そのため、翻訳の際に、基本的に直訳されていると考えられる。

一方、副題が省略されたものも1例ある。(54)である。

(54) 中原：綦江发现世界最大白垩纪水鸟足迹 改写中国考古历史 (2015/6/2)

日訳：白垩紀の水鳥、世界最大の足跡が発見 重慶

(54)は、世界最大の発見なので、もちろん、「中国考古学の歴史を新たに更新した」という状況につながる。つまり、前の主題に述べた情報に従い、人々が常識上の判断によって、そのニュース事件の影響への繋がりが明らかに現れ、すなわち副題の情報を容易に思い浮かべることができる。そのため、このような副題は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは省略されている。それは日本語の見出しは長さを配慮し、必要でないものをできるだけ避けて、見出しの簡潔さを求めているからである。

#### 3.2.4 本節のまとめ

以上の分析を通じて、「主題＋副題」の複合見出しについて、その翻訳の過程に用いた翻訳方法を整理すると、表3-3のようになる。

表 3-3 「主題＋副題」の複合見出しにおける翻訳方法

	翻訳の方法	見出しの数
「主題＋副題」の複合見出し	直訳	13 例
	省略	9 例
	書き換え	5 例
	主題との組み立て直し	4 例
合計		31 例

そして、副題に対する具体的な扱いは図 3-6 のようになる。

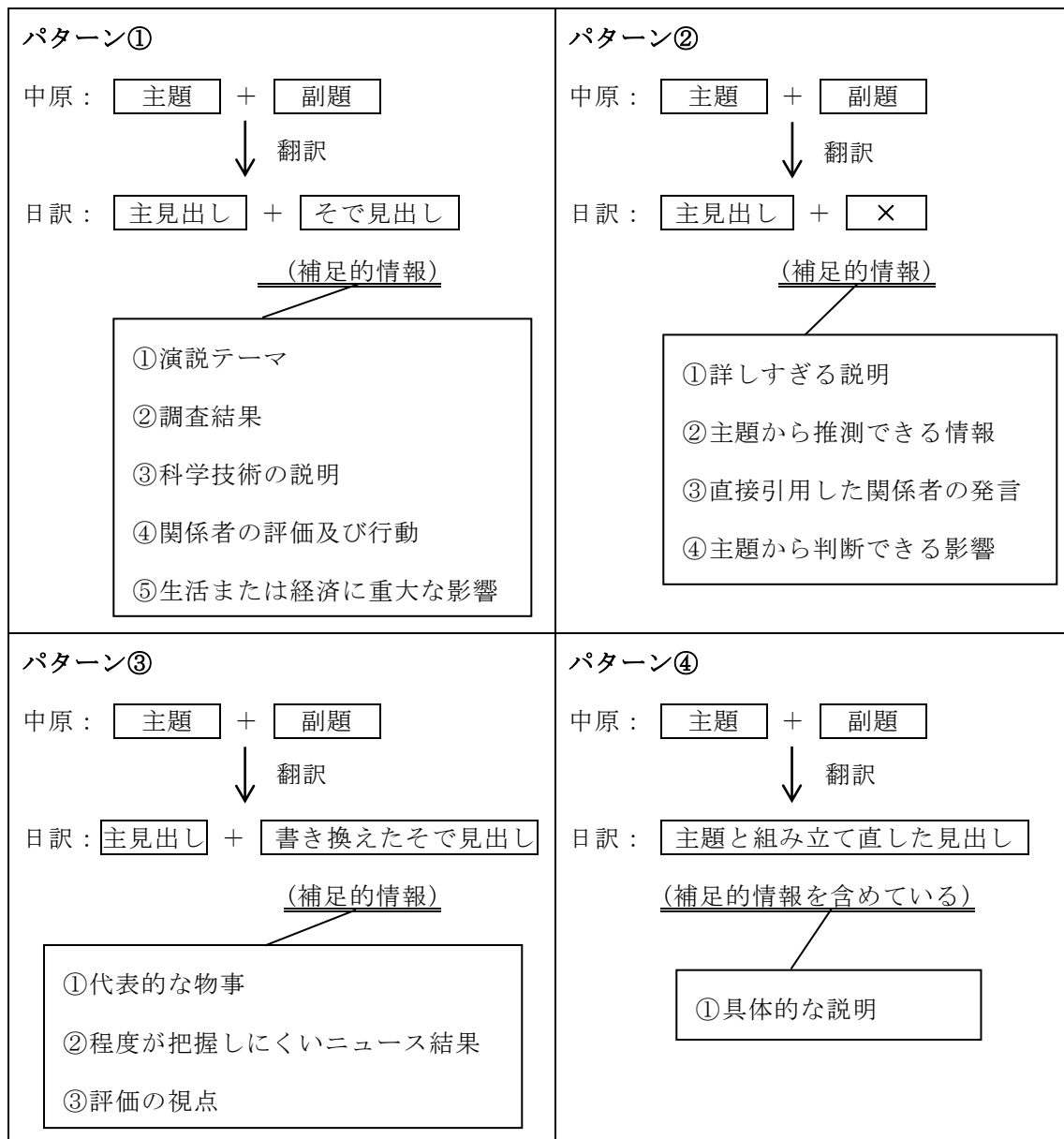


図 3-6 複合見出しの「副題」に関する翻訳メカニズム

表 3-3 と図 3-6 から三つのことが言える。一つ目は、一番多く用いられた翻訳方法と言えるのはパターン①であり、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの副題が直訳され、それがそで見出しとして付けられていることである。このような見出しは 13 例ある。翻訳された日本語ウェブニュース見出しが長くならないことを前提とし、副題の情報を直訳することによって、ウェブニュース見出しの情報面では完全性と豊富性が維持されている。

二つ目は、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、具体化の傾向が見られることである。パターン②とパターン③のように、副題では、常にニュース事件に関して、内容や説明、結果、代表の例などその詳細が述べられている。一方、翻訳の過程においては、副題を省略または書き換えの加工を通じて、翻訳された日本語ウェブニュース見出しがより簡潔かつ総括的な言葉で表されている傾向がある。また、副題の情報を書き換えることで、ニュースの主旨を強調し、ニュースの結果を明確にし、ニュース評価の積極性を深めるといったプラス効果が現れることがある。

三つ目は、パターン④のように、特別な翻訳方法として、副題の情報と主題とが組み立て直されることもあることである。ニュース事件の具体的な説明である副題の情報が日本語の表現形式に応じて、主題の情報と一つになっていることは、日本語見出しの言語表現に工夫した特徴の一つと見なせる。ただし、すべての副題が主題と組み立て直されているわけではない。

### 3.3 「引題+主題+副題」の複合見出し

主題のほかに、引題と副題を両方備えている複合見出しも、資料の中に 3 例あり、基本的には三段見出しの形式で現れている。

日本語に翻訳する際には、引題と副題を翻訳された日本語ウェブニュース見出しにも用いている見出しがある。(55) のようである。

(55) 中原：国家卫计委：2030 年流动人口将逾 3 亿 增速将放缓 (2015/7/10)

日訳：中国の流動人口、2030 年に 3 億人超 増加スピードはやや減速

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの引題は情報源となる機関名を提示しているが、日本語への翻訳では「中国の流動人口」へと書き換えられている。これは 3.1.2 節

で論じたように、ニュースの受け手が中国人読者から日本人読者になることで、ニュースの発生地、つまり中国のことを明示する必要があるためである。その一方で、副題は直訳されている。3.2.3 節で述べたように、事件に対して予測性を含めた影響を述べているため、翻訳された日本語ウェブニュース見出しにもそのまま用いられている。この例では、引題も副題も主題の情報を補充することで、読者のウェブニュース見出しについての理解を深めている。

引題が直訳されているが、副題が省略された見出しもある。(56)のようである。

(56) 中原：日立中国总代表：在华销售额占全球 11% 成最大海外市场 (2015/5/12)

日訳：日立中国総代表 「中国での売上が世界の 11%」

この例では、引題の“日立中国总代表”はニュースの主語いわば情報源となっているので、翻訳の際に直訳されている。売上が世界の 11%なので、世界全体から見れば割合が非常に高く、「最大の海外市場へ」になるのだと思われる。つまり、副題の“成最大海外市场”は主題に基づき一般知識から容易に判断できることであり、あまり必要のない情報として判断され省略されたものだと思われる。

また、引題も副題も省略された見出しがある。(57)のようである。

(57) 中原：港媒：中日跨国婚姻 4 成离婚 东北县城靠嫁女致富 (2015/5/28)

日訳：中国人と日本人の国際結婚 4 割が離婚

(57)の“港媒”はニュースの出典を示し、補足的情報として見なされるものである。読者が中国人の場合、香港のメディアはほかの地方のメディアと同様に扱われており、特別なイメージはない。しかし、読者が外国人の場合、香港のことが特別に取り上げられると、中国とは異なる別の存在のものとして勘違いされ、逆にクローズアップされやすくなると思われる(章、2012:24)。そのため、このような視点や立場の変化によって誤解を招きやすい表現は日本語ウェブニュース見出しに翻訳する際には省略されている。副題の情報は裏にあるニュース背景の紹介であるが、直訳されると日本語の見出しが長くなりすぎる恐れがあり、省略されたと思われる。

ただし、(58)と(59)のように、形式上は三段見出しであるが、異なる扱いをする方がよ

いものがある。最初の引題の部分はニュースの情報源を明示しているが、その後ろの下線部は対比的な情報を表したものである。そのため、下線部は丸ごと主題として捉えるほうがより適切である。本章ではこのような複合見出しは、「引題＋主題＋副題」の複合見出しとは見なさず、「引題＋主題」の複合見出しとして扱っている。

(58) 中原：海关总署：4月出口同比下降6.2% 进口下降16.1% (2015/5/8)

日訳：4月は輸出6%減・輸入16%減 税関総署

(59) 中原：国家卫计委发布报告：剩男多在农村 剩女多在城镇 (2015/5/14)

日訳：中国、独身男性は農村に、独身女性は都市部に集中

以上の分析から、「引題＋主題＋副題」の複合見出しを日本語に翻訳する際、その引題と副題に対する扱いは3.1節の引題と3.2節の副題の状況と一致していると言える。ただし、視点や立場の変化によって誤解を招きやすい引題は、日本語に翻訳する際に省略されることを特に指摘しておきたい。

#### 4. まとめ

誤訳の見出しや全体の情報が変化した見出しを除き、考察対象となる91例のオリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、補足的情報が62ヶ所現れている。全体的な傾向としては、補足的情報を常に加えることで、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには情報面を具体化させている傾向が見られる。本章では、オリジナルの中国語ウェブニュースの単一见出しと複合見出しを対象に、それらが持つ補足的情報が日本語に翻訳される際、どのように扱われるのかを考察した。

単一见出しには捕捉的信息が含まれている。そのため、日本語に翻訳する際、地名や時間を表す言葉などの補足的情報は直訳され、そのほかにもニュース事件に関する具体的な内容や説明、ニュース背景といった補足的情報が補充されることが明らかになった。

「引題＋主題」の複合見出しについては、日本語に翻訳する際、ニュースの情報源となる人物名や機関名、ニュースの背景となる引題は直訳されており、それが日本語への翻訳過程における優先権になっている。そして、評価的な表現や具体的な表現である引題は日

本語の主見出しを強調するために、主見出しと順序を逆にするという変化が見られることもある。また、長くなりすぎた引題や否定表現の引題は省略され、曖昧な表現は明確な言い方に書き換えられることもある。

「主題＋副題」の複合見出しについては、日本語に翻訳する際、内容や説明、結果、代表例といった副題の情報に対して一番多く用いられている翻訳方法は直訳である。翻訳された日本語ウェブニュース見出しの情報面には完全性と豊富性が維持されている。そして、副題の情報を書き換えることにより、ニュースの主旨を強調し、ニュースの結果を明確にし、ニュース評価の積極性を深めるといったプラス効果が現れている。また、ニュース事件に対する具体的な説明という副題の情報が主題の情報と組み立て直されることがある。これは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの言語表現に相応した特別な翻訳方法と見なすことができる。

「引題＋主題＋副題」の複合見出しについては、日本語に翻訳する際、その引題と副題への扱いはそれぞれを単独に扱う状況と一致している。視点や立場の変化によって誤解を招きやすい引題は日本語に翻訳する際に省略されることを特別な点として指摘できる。

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報の翻訳状況は表 3-4 のようにまとめることができる。

表 3-4 からは、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの補足的情報が中日翻訳の過程で直訳されたものが 29 例あり、およそ全体の半分を占めている。そこには、ウェブニュース見出しの中日翻訳では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しが長くないことを前提とし、見出しの情報の完全性と豊富性を維持させるという翻訳特徴が認められる。

表 3-4 補足的情報に関する翻訳状況

見出しの類型	補足的 情報の数	直訳	省略	補充	書き 換え	組み立 て直し
単一见出し	11	4	0	6	1	0
「引題＋主題」複合見出し	14	9	3	0	2	0
「主題＋副題」複合見出し	31	13	9	0	5	4
「引題＋主題＋副題」 複合見出し	6	3	3	0	0	0
合計	62	29	15	6	8	4

このように補足的情報の半分は直訳されているが、残りの半分はウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳する際、省略される場合もあれば、補充または書き換えなどの加工がなされる場合もある。それらの補足的情報が翻訳された日本語ウェブニュース見出しで表されない理由として、次の五つを挙げることができる。

一つ目は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの長さを配慮するためである。翻訳によって長くなりすぎる情報や、主幹的信息から推測できる情報を省略したり、総括的な表現にまとめたりすることで、翻訳された日本語ウェブニュース見出しをより簡潔かつ総括的な言葉で表している。

二つ目は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでニュースの情報を明確に伝えようとしているためである。否定的な情報を省略したり、曖昧な情報を書き換えたりする翻訳が行われている。

三つ目は、翻訳された日本語ウェブニュース見出しで主観性のある情報を避けるためである。翻訳の過程で個人的な意見などを述べるニュース関係者からの発言は省略され、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは表されていない。

四つ目は、新情報と旧情報の扱い方により、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは常にニュースの背景や発生地を明確にする必要があるためである。見出しの原文、すなわち、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しではニュースの背景が以前のウェブニュースで提示された場合、旧情報と見なされ、その以降の見出しでは省略されている。そして、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは主に中国国内の読者に向けたものなので、中国に関わるウェブニュースの場合、見出しに「中国」が明示されなくても、読者は中国のことだと意識することができる。しかし、中国語のウェブニュースはすべて日本語に翻訳するわけではなく、しかも、ニュースの受け手が中国人読者から日本人読者になる。そのため、ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程でニュースの背景やニュースの発生地「中国」を新情報と見なして補充することで、それらの情報を明確にすることが常に見られる。

五つ目は、政治的な影響と読者を配慮しているためである。政治分野の情報を伝えるウェブニュース見出しでは、中国指導者の演説に関わる具体的な情報が重視されているため、ウェブニュース見出しの中日翻訳で直訳され、伝達されている。一方、3.2.3 節で挙げた例のように、ニュースの関係者の発言は日中関係に不利な影響を及ぼす恐れがある場合、ウ

ウェブニュース見出しの中日翻訳でその情報が省略されることになる。両国の関係に不利な影響を及ぼす恐れがある情報を伝達しないことは、情報伝達と同時に、相互理解と友好交流の促進というウェブニュースの中日翻訳の役割に応じたものであり、日本人読者を配慮するための翻訳でもあると考えられる。

上で述べた五つの理由のように、ウェブニュース見出しの中日翻訳では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報に様々な翻訳の工夫が加えられている。そうすることで、翻訳された日本語ウェブニュース見出しはより簡潔的、明確的かつ総括的に表す翻訳特徴を持つに至ったのである。

また、同類の補足的情報についての扱い方に違いがあることもある。具体的なニュース情報を提示する副題は直訳され、そで見出しとして翻訳された日本語ウェブニュース見出しでも表される場合もあれば、省略されて表されない場合もある。そこには政治的な情報が重要視され、その分野のウェブニュース見出しなら情報をすべて直訳する傾向があるという個別の事情もあるのであろうが、翻訳者の個人的な好みによることも原因の一つかもしれない。

## 第四章 ウェブニュース見出しの日中翻訳における 文末の情報<sup>17)</sup>

### 0. はじめに

第二章 2 節で明らかにしたように、NHK のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは情報において段間の省略と文末の省略という二つの特徴を持っている。段間の省略とは、オリジナルの日本語ウェブニュースにおいて段と段の間に空白を置いて、助詞や述部などを省略することを言う。見出しを段に分けて表示するための有効な手段として、見出しの表現形式と大きく関わっている。一方、文末の省略とは、オリジナルの日本語ウェブニュースの文末において形式動詞「する」や、述部などが省略されることを言う。見出しの文末では省略が多く行われており、それが見出しにおける情報量のコントロール、読者からニュース全体への興味を引き出すという効果を担っている。

本章では、ウェブニュース見出しの日中翻訳を検討する際、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの情報面に影響を与え、意図的に行われた文末の省略に注目する。NHK のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しに現れた文末表現は漢語サ変動詞語幹、名詞、助詞、動詞、引用といった五種類に分類できる。文末表現の種類ごとに見出しの数を示すと、表 4-1 のようになる。

表 4-1 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末表現

類 型	見出し数	割 合
① 漢語サ変動詞語幹	43	37.72%
② 名詞	20	17.54%
③ 助詞	19	16.67%
④ 動詞	25	21.93%
⑤ 引用	7	6.14%
合計	114	100.00%

---

<sup>17)</sup> 第四章は李 (2017) を基に書いたものである。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにはニュース情報に関わる人物や機関の発言で止める場合がある。これらの場合、通常、発言の内容はカギ括弧「」で囲む形で表されている。中国語に翻訳する際、カギ括弧内の内容は文末の情報だけでなく、その全体が扱われている。つまり、ほかの文末類型の見出しと異なる対応が認められるため、本章では、これを「引用」と呼び、分析対象とはしていない。

漢語サ変動詞語幹止め、名詞止め、助詞止め、動詞止めといった四種類の見出しについて、それぞれ例を挙げると、(1)から(6)になる。そのうち、(1)が漢語サ変動詞語幹止め見出しの例であり、(2)が名詞止め見出しの例であり、(3)と(4)が助詞止め見出しの例であり、(5)と(6)が動詞止め見出しの例である。

【漢語サ変動詞語幹止め見出し】

- (1) 日原：地方創生の実現へ 政策コンテストを実施 (2015/9/13)

(本文：政府は、地方創生の実現に向けて、…地域を活性化する具体策などを募り、政策コンテストを実施することになりました。)

【名詞止め見出し】

- (2) 日原：中国人の海外旅行先 日本が1位で全体の4割 (2015/9/9)

(本文：海外旅行経験がある中国人に1年以内に訪れた国を尋ねたところ、日本と答えた人がトップとなり、全体の4割に上ったという調査結果がまとまりました。)

【助詞止め見出し】

- (3) 日原：宮城県に大雨特別警報 最大級の警戒を (2015/9/11)

(本文：気象庁は…最大級の警戒を呼びかけています。)

- (4) 日原：プーチン大統領の側近 近く日本訪問へ (2015/9/17)

(本文：ロシアのパトルシェフ安全保障会議書記は…早ければ来週にも日本を訪問する考えを明らかにしました。)

【動詞止め見出し】

- (5) 日原：川内原発2号機 燃料を入れる作業終わる (2015/9/14)

(本文：川内原子力発電所2号機で…原子炉に燃料を入れる作業は13日午後9時すぎに終わりました。)

- (6) 日原：国会前 夜も法案反対の訴え続く (2015/9/18)

(本文：国会周辺では、…17 日の委員会での採決に抗議する訴えが続いています。)

(1)から(6)の下線部はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しには現れていない部分、つまりは、見出しを作成する際にその部分の情報が省略された部分である。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際、こうした省略された情報はどのように扱われているのであろうか。また、省略された情報は翻訳された中国語ウェブニュース見出しで復元されているのであろうか。こういった問題を、以下で論じる。

本章では、NHK から収集した 114 組の日中対訳のウェブニュース見出しを対象に、オリジナルの日本語のウェブニュース見出しの文末表現に焦点を当てる。省略された情報が日中翻訳の過程でどのように扱われているのか、その翻訳メカニズムについて、翻訳された中国語のニュース見出しと対照しながら明らかにしていく。

第 1 節では、翻訳された中国語ウェブニュース見出しについて、その形式面と情報面の特徴を考察する。第 2 節から第 5 節までは、それぞれオリジナルの日本語ウェブニュース見出しに現れた漢語サ変動詞語幹止め見出し、名詞止め見出し、助詞止め見出し、動詞止め見出しを中心に、見出しの文末表現、ひいてはそこに省略された情報が日中翻訳の過程でどのように扱われているのかを考察する。第 6 節では、考察の結果をまとめる。

## 1. 翻訳された中国語ウェブニュース見出しの形式と情報

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを翻訳し、中国語ウェブニュース見出しを作成しようとするれば、その表現形式は中国語の規則に従うだけでなく、メディア側による翻訳の原則と制限も関わってくる。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末表現について、その日中翻訳を考察するには、あらかじめ翻訳された中国語ウェブニュース見出しの全体を取り上げ、その形式面と情報面がどのようなになっているのかを明らかにしておく必要がある。

まず、文字数を見ておく。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数は 11 文字から 24 文字までと幅がある。中国語に翻訳すると、文字数に変化が見られ、図 4-1 のようになる。翻訳された中国語ウェブニュース見出しは、そのほとんどが 11 文字から 14 文字

で構成され、109 例を占める。そのうち、もっとも多いのは 13 文字の見出しであり、資料の半分を占める 57 例ある。11 文字から 14 文字の見出し以外は 5 例にすぎない。

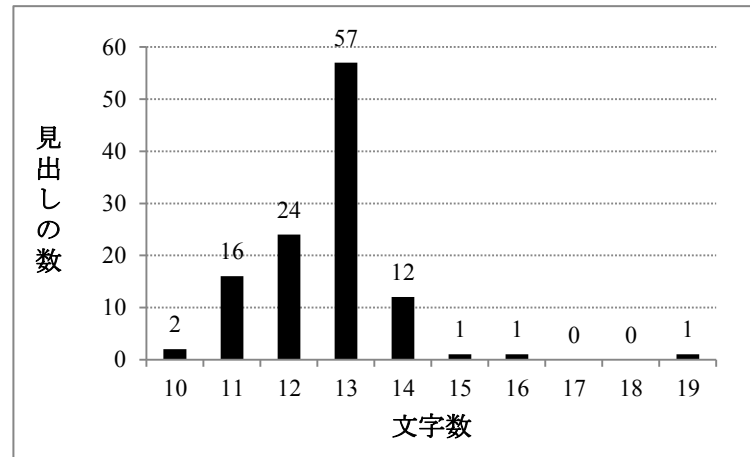


図 4-1 日本語から翻訳された中国語ウェブニュース見出しの文字数

次に、段数を見ておく。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは第二章の 2.1.1 節で明らかにしたとおり、一段見出しから三段見出しまで三つの見出し形式を使用している。このうち、二段見出しの使用率が一番高く、7 割を越えている。中国語に翻訳すると、翻訳された中国語ウェブニュース見出しはすべて一段見出しで表されている。見出しの段数に見られる変化を表で示すと、表 4-2 のようになる。

表 4-2 ウェブニュース見出しの日中翻訳における段数の変化

見出しの種類	例 文	段数の変化
①一段見出し	日原：スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 中訳：铃木大地将出任体育厅长官 (2015/9/11)	一段 ⇒ 一段
②二段見出し	日原：中国人の海外旅行先 日本が 1 位で全体の 4 割 中訳：日本居中国人旅游目的地首位 (2015/9/9)	二段 ⇒ 一段
③三段見出し	日原：中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート 中訳：习近平抵西雅图揭访美序幕 (2015/9/23)	三段 ⇒ 一段

ウェブニュース見出しを日本語から中国語に翻訳する際、翻訳された中国語ウェブニュ

ース見出しの文字数が制限されるとともに、表現形式の段数も削減されるという特徴が認められる。このような見出しの制限について、「NHK WORLD-Chinese」の担当者に問い合わせたところ、次のような回答があった。

“首先，关于字数限制的问题，由于翻译好的新闻要登到网上，我们会注意控制标题的字数，让它不会中途换行，破坏页面美观。另外，翻译标题时，我们会注意提炼出新闻最核心的部分，以最少的字数进行翻译。”

「翻訳された中国語ニュース見出しをウェブサイトで掲載するため、ウェブページの見た目を常にきれいに整えることに注意を払っている。途中改行をせずにすべて一行で表せるように、見出しの文字数をきちんとコントロールすることを工夫している。そして、見出しを翻訳する際には、ニュースの中で最も核心となる部分を抽出して、できる限り少ない文字数で表出するように心がけている。」

この回答に従うと、段数の削減または文字数の制限を実現するため、ウェブニュース見出しの日中翻訳には情報の濃縮、省略、組み立て直しなど加工が施されていることになる。そうした加工が文末情報の翻訳にも影響を与えていることは容易に推測される。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末の情報が日中翻訳の過程において、見出し段数と文字数の制限を受けながらどのように扱われているのか、次節以下で考察していく。

## 2. 漢語サ変動詞語幹止め見出し

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しには漢語サ変動詞語幹止め見出しが 43 例あり、資料全体を占める割合は一番高い。(7)が漢語サ変動詞語幹止め見出しの例である。

(7) 日原：アジアナ機事故 韓国が調査官を派遣 (2015/4/15)

(7)では、文末が「派遣」という 2 文字の漢語で止められているが、「する」を加えると、サ変動詞の「派遣する」になる。このような止め方を、寺川(1991:113)はタイプ「Ⅲ 文から活用語尾を取ったもの」に属させ、名詞と見ている。田中(1998:68)はタイプ「⑤-c 動

詞の連用形」に属させ、動詞連用形として扱っている。また、湯浅(2014a:17)はタイプ「I b 見出し末に述部あり:漢語のみ」に入れている。さらに、野口(2002:100)は名詞止めによる省略の一種と見て、「動詞「する」の省略」と名付けている。つまり、先行研究では、このような止め方を名詞または動詞連用形と見る場合もあれば、漢語と見る場合もある。

本研究では、(7)のような文末表現を漢語サ変動詞語幹と見なす。このような漢語サ変動詞語幹は動詞の働きを持っていると言えるであろう。漢語サ変動詞語幹で止める見出しは主に「助詞+漢語サ変動詞語幹」と「漢語名詞+漢語サ変動詞語幹」という二つのタイプに分類できる。

## 2.1 「助詞+漢語サ変動詞語幹」のタイプ

このタイプのオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは 26 例ある。二字漢語漢語サ変動詞語幹の前に用いられている助詞には「を」が最も多く、そのほかに「で」と「に」の使用も見られる。中国語への翻訳に際しては、日本語の漢語サ変動詞語幹の意味を翻訳された中国語ウェブニュース見出しにおいて 2 文字か 1 文字の動詞表現を用い訳したものが 14 例ある。(8)は「助詞+漢語サ変動詞語幹」で止めた見出しの例である。

(8) 日原：外相 在外公館に IS テロ対策強化を指示 (2015/9/11)

中訳：日本指示海外使领馆严防恐袭

(8)を見ると、文末に現れた漢語サ変動詞語幹「指示」は、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは“指示”に直訳されている。漢語サ変動詞語幹には、意味と形態の両面で中国語の動詞表現と類似したものが少なくなく、その場合には中国語の 2 文字の動詞表現に対応させることができる。

しかし、実際の翻訳では、それにも関わらず、1 文字の動詞表現や“就～V”構文<sup>18)</sup>の使用が認められる。1 文字の動詞表現が用いられているのが(9)である。

(9) 日原：英 BBC 北朝鮮向けのラジオ放送を計画 (2015/9/8)

中訳：BBC 拟面向北朝鲜播出广播

<sup>18)</sup> 中国語の“就”はここでは介詞として動作の対象や範囲を示す。「～について」、「～に基づいて」の用法に相当する。

(9)では、「計画」を「～するつもりである、～しようとする」という意を示す“拟”で翻訳している。そのほかに、「実施」を“办”<sup>19)</sup>に、「派遣」を“派”<sup>20)</sup>に、「表明」を“称”<sup>21)</sup>といった1文字で表している例が認められる。これは、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの簡潔性を配慮しているがためと考えられる。

(10)は“就～V”構文が用いられた例である。

(10) 日原：日中韓 鳥インフルエンザ対策強化で連携 (2015/9/14)

中訳：日中韩就防范禽流感等达协议

(10)では、「連携」は互いに連絡を取り協力して物事を行うことを意味し、中国語に翻訳すると、“协作；合作”になるはずである。しかし、この(10)では、文脈を考慮するために介詞の“就”を添加し、“就～达协议”という構文を用い、「～について、～という合意に達した」という意味になっている。中国語の“协议”という表現は、日本語の「連携」と意味的には一番近いが、ここに動詞の働きはない。つまり、オリジナルの日本語ウェブニュース見出し文末の漢語サ変動詞語幹は動詞の働きをしていますが、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは必ずしも動詞表現で対応しているとは限らないのである。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出し文末の漢語サ変動詞語幹が翻訳された中国語ウェブニュース見出しで訳出されていないことも少なくなく、そうした例も12例ある。訳出されていない理由は三つある。その一つ目の理由としては、漢語サ変動詞語幹が「合意」「確定」「承認」のような物事の結果が定まっていることを表す場合、その翻訳で重要なのは、物事の結果を直ちに伝えるという理由が挙げられる。(11)では、翻訳された中国語ウェブニュース見出しには「合意」に対応する表現はないが、「来月行うこと」を伝えるとともに、合意に至ったことを“将”<sup>22)</sup>で表している。この“将”は、これから物事が確実に行われる予定であることを示す。

<sup>19)</sup> 中国語の“办”は「する、やる；処理する；取り扱う；さばく」の意味を示す。

<sup>20)</sup> 中国語の“派”は「派遣する；任命する；割り当てる」の意味を示す。

<sup>21)</sup> 中国語の“称”は「言う、述べる」の意味を示す。

<sup>22)</sup> 中国語の“将”は動作や状況が間もなく起ころうとしていることを表す。

(11) 日原：南北離散家族の再会 来月行うことで合意 (2015/9/8)

中訳：朝鮮半岛离散家属下月将重逢

二つ目の理由としては、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳するとき、見出しの前部の一段だけを翻訳し、後部の一段をすべて省略したという理由が挙げられる。(12)を見ると、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの後部の情報が中国語ウェブニュース見出しでは翻訳されていない。

(12) 日原：日米韓外務次官級協議 3か国の協力を確認 (2015/4/17)

中訳：日美韩举行副外长级协商

三つ目の理由は、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳するとき、情報を完全に書き換えたというものである。(13)では、翻訳された中国語ウェブニュース見出し情報はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとまったく対応していない。このような例では、第四章の1節で紹介したNHKのニュース翻訳者が言うように、中国語ウェブニュース見出しはニュースの中で最も核心となる部分から抽出したものを改めて付けたと思われる。

(13) 日原：アフガニスタンで爆発 30人以上死亡 (2015/4/20)

中訳：ISIL 表示对银行前爆炸负责

## 2.2 「漢語名詞+漢語サ変動詞語幹」のタイプ

(14)から(17)は「漢語名詞+漢語サ変動詞語幹」で止めた見出しの例である。

(14) 日原：4～6月のGDP マイナス1.2% 上方修正 (2015/9/8)

中訳：日本上调4至6月GDP统计值

(15) 日原：中国への直接投資 12%減も減少幅縮小 (2015/4/17)

中訳：日企3月对华投资减幅缩小

(16) 日原：翁長知事 李首相に経済交流促進要望 (2015/4/15)

中訳：冲绳知事望促进对华经济交流

(17) 日原：チリ沖で大地震 沿岸で津波観測 (2015/9/17)

中訳：智利大地震 海啸恐袭各地

このタイプは、助詞を省略して、(14)の「上方修正」、(15)の「減少幅縮小」、(16)の「経済交流促進要望」のように、4文字から8文字の漢語だけを並べた表現形式を用いる。17例あるが、(14)から(16)の翻訳された中国語ウェブニュース見出しに引いた下線のように、12例が翻訳されている。「助詞＋漢語サ変動詞語幹」で止める見出しよりも、翻訳される割合が高い。翻訳されていないのは、(17)のようにオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの後部の情報を省略したものである。つまり、漢語の連用は文字数が多くなるにつれて、ニュース情報との関連性が緊密になり、中国語に訳出される可能性も高くなると思われる。

### 2.3 本節のまとめ

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける漢語サ変動詞語幹止め見出しについて、その日中翻訳は以下のようにまとめることができる。

まず、漢語サ変動詞語幹で止める日本語ウェブニュース見出しにおいては、漢語サ変動詞語幹からサ変動詞の意味を取り上げ、中国語の2文字か1文字の動詞表現に対応させて訳出している。その一方で、“就～V”構文を使用することで、中国語の名詞表現に対応させることもある。そして、物事の結果を直ちに伝えることを重視する傾向があるため、「合意」「確定」などの漢語サ変動詞語幹は訳出されず、中国語の“将”という表現が用いられることもある。そのほかに、日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際に、後部一段の情報が省略されること、見出し全体の情報が書き換えられることも、文末の漢語サ変動詞語幹が訳出されない原因となっている。また、「漢語名詞＋漢語サ変動詞語幹」というタイプで止める見出しは、「助詞＋漢語サ変動詞語幹」で止める見出しより翻訳の確率が高い。この点は、文末表現は漢語の連用であり、文字数が多くなるにつれて、ニュース情報との関連性も緊密になることが原因として考えられる。

漢語サ変動詞語幹止め見出しの翻訳メカニズムを整理して示すと、表 4-3 のようになる。

表 4-3 漢語サ変動詞語幹止め見出しの翻訳メカニズム

見出しの種類	翻訳メカニズム
漢語サ変動詞語幹 止め見出し	① 意味が類似する 1 文字か 2 文字の動詞を用いて翻訳される。
	② “将” という表現が多用される。
	③ “就～V” 構文の使用が認められる。
	④ 「漢語名詞＋漢語サ変動詞語幹」の場合は翻訳される可能性が高い。(要因:文字数が多くなるにつれて、ニュース情報との関連性も緊密になる。)

### 3. 名詞止め見出し

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れている主な名詞として、人物名や地名に関する表現、数値に関する表現、予測や可能の意を表す表現といった三種類がある。20 例あるが、漢語の名詞が多い。

#### 3.1 人物名や地名に関する表現

(18)と(19)は人物名または地名で止める見出しの例である。

(18) 日原：スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 (2015/9/11)

(本文：鈴木大地氏を起用する人事を決めました。)

中訳：鈴木大地将出任体育厅长官

(19) 日原：災害臨時 FM ラジオ開局へ 茨城・常総 (2015/9/14)

中訳：常总市开设 FM 广播服务灾民

(18)では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは人物名の「鈴木大地氏」で終わっているが、それに対応するウェブニュースの本文は、「鈴木大地氏を起用する人事を決めました」という表現である。野口(2002:100)が述べているように、名詞の後ろに省略されるのは「助動詞か(助詞)＋動詞」である。しかし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、後ろに述語が現れなくても、文脈と言語知識によって、読者は見出しが伝える

情報を容易に理解することができる。しかし、中国語への翻訳に際しては、動詞表現、いわゆる述語を表出しないと、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの文脈は成り立たない。そのため、動詞表現の“将出任”を補充している。(19)のように、ニュースの発生地を明示する地名などの表現を見出しの文末に付けることがオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにはよく見られる。中国語に翻訳する際、地名、すなわちニュースの発生地を示す表現を文頭に持っていく、中国語の表現に相応しい表し方へと変えている。

### 3.2 数値に関する表現

(20)と(21)は数値で止める見出しの例である。

(20) 日原：NHK 世論調査 憲法改正「必要ある」33% (2015/4/14)

(本文：「改正する必要がある」が33%でした。)

中訳：輿論調査：有必要修宪占33%

(21) 日原：中国人の海外旅行先 日本が1位で全体の4割 (2015/9/9)

(本文：日本と答えた人が…全体の4割に上った。)

中訳：日本居中国人旅游目的地首位

(20)では、それに対応するウェブニュースの本文を見ると、数値の後が「でした」で終わり、丁寧の意をこめ、指定の意を表している。翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは「33%」という数値は訳出しているが、「でした」という丁寧の意に対応する表現はない。そして、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しには名詞表現だけを並べており、助詞の使用が見られないことが多いが、中国語に翻訳する際には文脈を合わせるために、適切な表現を入れて、それらの名詞表現をつなげている。(20)では、日本語の「占める」の意味を表す詞“占”<sup>23)</sup>を補充している。

(21)に対応するウェブニュースの本文では、「全体の4割」の後ろに「に上った」という結果を示す表現がある。しかし、翻訳では「全体の4割」という表現は訳出されていない。それは、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにある「日本が1位で」という情報だけで、日本が中国人の海外旅行先において重要な地位に占めていることを十分に伝え

---

<sup>23)</sup> 中国語の“占”は「占める、ある状況にある」の意味を表す。中国語の表現において、一定の割合を示す際によく使われる表現である。

ことができ、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの長さにも配慮したことが省略の要因として考えられる。

### 3.3 予測や可能の意を表す表現

(22)と(23)は予測や可能の意を表す表現で止める見出しの例である。

(22) 日原：政府と沖縄県 協議継続も対立深まる見通し (2015/9/8)

中訳：沖縄基地搬迁问题分歧难消

(23) 日原：バンコク爆弾テロで逮捕状 首謀者の可能性 (2015/9/13)

中訳：泰国发逮捕令追捕爆炸案主谋

(22)のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは「見通し」で終わっており、予測の意を表す表現と見なしてもよいが、田中(1998:69)が指摘しているように、名詞止めの見出しの後ろにモダリティの形式は現れにくい。しかし、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは、予測の意は表さずに「断定」の言い方をしている。(23)では、文末の名詞は「可能性」という不確定な表現となっているが、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは、(22)と同じように不確定な表現はなく、「断定」の言い方である。森山(2009:17)は、新聞見出しのモダリティについて論じる際、「可能性」「見込み」といった表現によって客観的事実としての予測が表されている。(22)と(23)のように、オリジナルの日本語ウェブニュース見出し文末にも「見通し」「可能性」などで予測や可能の意を表す場合がある。しかし、中国語への翻訳ではそれらの意味は省略されており、「断定」の言い方になる傾向がある。

もちろん、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた名詞は、ここで述べたもの以外にも様々な表現があり、規則性をまとめることはできない。そのため、これ以上は述べないことにする。

### 3.4 本節のまとめ

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける名詞止め見出しについて、中国語に翻訳する際、文脈を合わせるために、人物名の後に省略された述語を補充したり、地名を文頭に持っていったり、適切な表現を入れて名詞表現をつなげたりしている。そして、文

末の数値に関わる表現は基本的に翻訳された中国語ウェブニュース見出しでも現れているが、長さが考慮され、日本語ウェブニュース見出しの後部の一段全体が消されたり、訳出されなかったりする場合もある。また、日本語ウェブニュース見出し文末において「見通し」や「可能性」など予測や可能、あるいは不確定な意味を表す場合、中国語の翻訳ではそれらは省略され、「断定」の言い方に変えられる傾向がある。そのほかにも、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの情報に対し、省略または書き換えにより、翻訳された中国語ウェブニュース見出しには文末の名詞が訳出されないことがある。

名詞止め見出しの翻訳メカニズムを整理して示すと、表 4-4 のようになる。

表 4-4 名詞止め見出しの翻訳メカニズム

見出しの類型	翻訳メカニズム
名詞止め見出し	①人物名の後に付く述語を補充することや、地名を文頭に持つてくることなど、文脈に工夫が認められる。
	②「見通し」や「可能性」など予測や可能の意を表す名詞表現が翻訳された中国語ウェブニュース見出しに現れることはなく、断定の言い方になる傾向がある。

#### 4. 助詞止め見出し

助詞止め見出しについて、森山(2009:16-19)は、未来時制が空間的比喻によって「へ」で表示されること、また他動詞表現の動詞省略で「を」により要求表現を表すなどといった形が見られることを述べている。

その特徴を詳述したのが、野田(2006:434-442)である。見出し末の「が」は、実のところ見出し末には現れにくく、その後ろに存在や出現を表す述語を省略したものが多い。見出し末の「を」は、話し手・書き手の判断が現れうる箇所によく見られる。そして、省略されている述語部分は行為実現の要求を表す例がとても多い。見出し末の「に」は、変化の結果を表すものが多く、そのほかに物理的移動の到達点や動きの相手、起因、時などを表すものもある。見出し末の「へ」の前に来る言葉で最も多いのは、「する」が付加されると、サ変動詞として働く動名詞である。「動名詞＋へ」によって、事態が実現に向かって動

き始めたことが示される。そして、見出し末の「へ」は事態の実現が未来であることを表すという点ではテンスを補っており、事態が実現に向かって動き始め、進行していることを表すという点では、アスペクトの意味も補う働きがあると言える。見出し末の「も」は、比較的に多いのは意見の存在を表すものである。そして、動名詞に「も」がつくと、望ましくない事態が起きる可能性があることが示される。

資料には、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末が助詞で止めるものが 19 例ある。文末に現れた助詞は、「へ」、「に」、「を」、「か」及び「も」である。そのうち「へ」が 10 例ともっとも多い。その他の助詞は、「に」と「を」が 3 例、「か」が 2 例、そして「も」が 1 例である。

#### 4.1 「へ」

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しが助詞「へ」で止める場合、それに対応するウェブニュースの本文に「へ」の使用はほとんど認められない。その代わりに、「方針」・「計画」・「見通し」・「～ことになりました」といった表現が用いられている。そのため、オリジナルの日本語ウェブニュース見出し文末に現れた助詞「へ」は、杉村(2004:57-58)が述べているように、未来志向的な用法と言える。(24)は文末の「へ」が翻訳されている見出しの例である。

(24) 日原：汚染水問題解決に向け 地下水浄化し放出へ (2015/9/9)

(本文：…下水をくみ上げ浄化して海に放出する計画です。)

中訳：福島将排放经净化核污水

(本文：东京电力公司制定计划…抽取地下水，进行净化处理后排放大海。)

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた助詞「へ」は、多くの場合、(24)のように翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは“将”で訳出される。中国語の“将”は動作や状況が間もなく起ころうとしていることを表す。その他、“拟”、“计划”に翻訳する場合もある。これらの翻訳は、「へ」の未来志向性を表していると言える。

しかし、文末「へ」の意味は翻訳された中国語ウェブニュース見出しにおいて必ずしも訳出されるわけではない。(25)と(26)は訳出されていない例である。

(25) 日原：台湾 日本食品の輸入規制強化へ (2015/4/14)

中訳：台湾加强日本食品进口限制

(25)を見ると、中国語の動詞は“加强”だけであるが、この例の場合“将”などの表現があってもなくても、見出し全体の意味に影響はない。そのため、“将”がない。

(26) 日原：G7 外相会合開幕 テロ対策強化など協議へ (2015/4/15)

中訳：G7 外长会议在德国开幕

また、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際にも、(26)のように後ろの一段全体が省略される場合、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは「へ」の意味が訳出されないことがある。

#### 4.2 「に」

格助詞の「に」は動作・作用の場所、帰着点、方向、結果、目的、対象、原因及び資格など、多様な用法で用いられる。しかし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた「に」がそのままウェブニュース本文の表現として用いられるわけではない。中国語に翻訳する際には、「に」が示した意味をウェブニュース本文の表現に基づいて補充している。(27)と(28)がそのような例である。

(27) 日原：台湾総統選 野党は蔡英文主席を候補に (2015/4/16)

(本文：民進党はトップの蔡英文主席を…公認候補として選出しました。)

中訳：台民进党提名蔡英文参选总统

(本文：民进党正式提名党主席蔡英文参加明年1月举行的总统选举。)

(27)では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた「に」は資格を表しているが、ウェブニュースの本文では連語の「として」に入れ替えられるとともに、ウェブニュースの本文の後ろにある「選出しました」という動詞を省略している。しかし、中国語に翻訳する際には、動詞の意味を補充し、“提名”と翻訳している。

(28) 日原: 安保法案 与野党の攻防 今週最大のヤマ場に (2015/9/14)

(本文: …与野党の攻防は今週、最大の山場を迎えます。)

中訳: 安保审议本周迎来最终较量

(本文: 本周, 朝野之间将围绕安保相关法案展开最激烈的较量。)

そのほかにも、日本語ウェブニュース見出しの文末の「に」に対応するウェブニュースの本文の表現には「～を迎えます」のような(28)がある。ここの「に」は「動作・作用の到達点」を表しているが、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは、“迎来”になっている。

#### 4.3 「を」

「を」は格助詞として対象を示したり、そこから離れる所・人を示したり、動作の移動する場所・持続する時間を示したりする。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた「を」は対象を示しており、その後ろに動詞等は現れない。(29)は翻訳の過程で「を」の後ろに付く日本語の動詞を補充した例である。

(29) 日原: 安倍首相 被災者の救命・救助に万全を (2015/9/11)

(本文: …被災者の救命・救助などに万全を期すよう指示しました。)

中訳: 安倍要求政府全力投入救灾

(本文: 安倍要求政府继续团结一心, 竭尽全力拯救灾民…)

(29)では、ウェブニュースの本文では「を」の後ろに「期す」と「指示する」と二つの動詞が付いているが、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでもその二つの動詞は現れている。それは、中国語ウェブニュース見出しの文脈に合わせるために、中国語に翻訳する際、「を」の後ろに付く日本語の動詞を補充しているためである。

そのほかにも、助詞の後ろの動詞を省略した例として、(30)がある。

(30) 日原: 宮城県に大雨特別警報 最大級の警戒を (2015/9/11)

(本文: 気象庁は…最大級の警戒を呼びかけています。)

中訳: 气象厅: 继续对灾害保持警惕

(本文： 気象庁…呼吁采取最高级别的警戒措施。)

(30)では、「呼びかける」という表現に対応する中国語の“呼吁”は中国語ウェブニュース見出しには翻訳されず、記号「:」が用いられている。この記号「:」は、その後ろが呼びかける内容となっているので、“呼吁”と同じ意味に理解することができる。

ただし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際、情報面を完全に変化させるときには、「を」の後ろに付く動詞を表さないこともある。(31)がそうである。

(31) 日原：中国国家主席 訪米で経済協力促進を (2015/9/18)

中訳：习近平会见美国工商领袖

#### 4.4 「か」

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおいて、「か」で止める見出しは2例である。(32)と(33)を見ておく。

(32) 日原：アジアナ機 ありえない低い高度で施設に接触か (2015/4/15)

中訳：韩亚客机与机场设施相碰受损

(33) 日原：中国の外貨準備高大幅減 当局介入の結果か (2015/9/8)

(本文：…金融当局が介入に動いた結果ではないかと指摘されています。)

中訳：中国外汇储备减额创单月新高

(32)はウェブニュースの本文では「か」は使われていないが、本文から、この「か」が副助詞として、不確かな断定を表していることが分かる。この「か」は、ウェブニュースの作成者がウェブニュース見出しを付ける際、ニュースの情報に基づいて付けたものであろう。そのため、翻訳に際しては、オリジナルの日本語ウェブニュースの情報に準じて、中国語ウェブニュース見出しには訳出されていない。

(33)では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた「か」は、本文の「～ではないか」に対応するものであり、終助詞として反語の意を表している。しかし、中国語に翻訳する際、日本語ウェブニュース見出しの後ろの一段全体を省略したため、「か」

の意味は翻訳された中国語ウェブニュース見出しには表されていない。

#### 4.5 「も」

「も」で止めるオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは、(34)だけである。

(34) 日原：チリ 巨大地震で 11 人死亡 津波被害も (2015/9/18)

中訳：智利地震已造成 11 人遇难

(34)の「も」は、日本語ウェブニュースの本文に対応するものがない。日本語ウェブニュース全体の文脈に基づいて、日本語ウェブニュース見出しの文末は「津波被害もある」という情報を伝えている。この例では「巨大地震で 11 人死亡」が地震によって人身被害が出ているという情報を提示している。その上で文末助詞の「も」は津波の被害を累加して取り上げ、もう一つの側面から地震に大きな被害が与えられたという実情を証明している。しかし、日中翻訳に際しては、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける情報すべてを限られた文字数と段数で中国語ウェブニュース見出しに翻訳することはできない。そのため、「11 人死亡」という人身被害に関わる情報が優先的に伝えられ、翻訳された中国語ウェブニュース見出しで直訳されてはいるが、「津波被害も」という累加の情報は省略され、翻訳された中国語ウェブニュース見出しで表されていない。それは、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの形式が制限されており、ウェブニュース見出しの日中翻訳の過程で、それが最も重要な翻訳規則とされているためである。その影響で、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける情報について再選択が行われている。「11 人死亡」はすでに地震の被害を説明しているため直訳されているが、それに比べ、「も」が提示した累加の情報は必要性が低いため、省略されることになったと考えられる。

また、森山(2009:17)には、見出しが「も」で止めることで可能性を表す例がある。文末の「も」は「～もあり得る」といった可能性の表示と考えられ、客観的事実としての予測を表す表現と言えると指摘している。しかし、本研究の資料ではその用法は見いだせていない。

#### 4.6 本節のまとめ

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは助詞で止める場合、それに対応するウェブニュースの本文とは異なる助詞で表されることがある。助詞止め見出しの翻訳メカニズムは、表 4-5 のようにまとめることができる。

表 4-5 助詞止め見出しの翻訳メカニズム

文末の助詞	本文との 対応状況	翻訳メカニズム
を	対応	「を」の後ろに付く動詞は、通例、日本語ウェブニュース見出しの文末には現れないが、中国語訳では文脈に適切な動詞が補充される。
へ、に	不对応	ウェブニュースの本文の表現に基づいて、助詞の意味を判断し、翻訳された中国語ウェブニュース見出しに訳出される。
か、も	不对応	翻訳された中国語ウェブニュース見出しに助詞の意味は表されていない。(要因:助詞の意味が明確されていないため。)

表 4-5 で示しているように、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた助詞がウェブニュースの本文における助詞の使用と対応しているのは、「を」で止める見出しだけである。これは、助詞「を」の働きと関わっているためと考えられる。「を」の後ろに付く動詞は、通例、見出しの文末には現れないが、中国語訳では文脈に適切な動詞が補充される。

文末助詞「へ」「に」「か」「も」は、それぞれのウェブニュース本文の表現とほとんど対応していない。これらの助詞は、助詞個々の機能にウェブニュースの本文に使われた連語や表現の意味が付加され、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に用いられたものである。これらの助詞で止めた日本語ウェブニュース見出しを翻訳する際の特徴としては、ウェブニュースの本文における表現に基づき、個々の助詞の意味を判断し、翻訳された中国語ウェブニュース見出しに訳出されているという点を指摘することができる。例えば「へ」の場合は未来志向的用法であり、多くの場合“将”、“拟”及び“计划”で翻訳されている。

ただし、助詞止め見出しを中国語に翻訳する際、ウェブニュースの本文に助詞の使用が無いだけでなく、意味の面でもはっきりと対応していない場合がある。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しが「か」と「も」で止める場合、翻訳された中国語ウェブニュース見出しにそれらの助詞が持つ意味は表されていない。それは、日本語ウェブニュースの本文において、それらの助詞の意味が明確に表されていないからである。

その一方で、翻訳の際に情報面の省略が行われたため、助詞が持つ意味及び助詞の後ろに付く表現の意味が翻訳された中国語ウェブニュース見出しで表されないことも多々ある。

## 5. 動詞止め見出し

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末を動詞で止めるものは 25 例ある。そして、動詞の形式として、動詞連用形と動詞終止形という二種類が現れている。

### 5.1 動詞連用形

(35)は動詞連用形で止める見出しの例である。

(35) 日原：阿蘇山で噴火発生 警戒レベル 3 に引き上げ (2015/9/14)

中訳：日本熊本县阿苏山喷发

岡村(1995:73)は、動詞の連用形が単独で体言として自立するという現象を挙げている。例えば、「彼が走る」→「彼の走り」といった類のものである。(35)の文末に表れている「引き上げ」のように、動詞「引き上げる」の連用形を用いた文末表現を「動詞連用形止め」と呼び、オリジナルの日本語ウェブニュースの動詞止め見出しにおける一種として取り扱う。

資料には、動詞連用形で止めるオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは僅か 5 例しかない。それは、動詞連用形の用法に制限があるほか、動詞的な意味を持つ漢語サ変動詞語幹が多用されていることとも関わっていると考えられる。

(35)の「引き上げ」は「引き上げる」から転成したものであり、値段・比率・水準などを高くするという意味である。しかし、翻訳の際には、後ろの一段、「警戒レベル 3 に引き上

げ」という情報はすべて消され、「引き上げ」の意味も省略されている。

(36)と(37)は動詞連用形「見送り」で止める見出しの例である。

(36) 日原：米 FRB 利上げを見送り (2015/9/18)

中訳：美联储会议決定暫不加息

(37) 日原：難民受け入れ義務化合意見送り (2015/9/15)

中訳：欧盟召开紧急会议应对难民潮

(36)には、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末は「見送り」という動詞の連用形で止められている。翻訳された中国語ウェブニュース見出しは、実行を差し控えて様子を見るという意味を表す“決定暫不”と翻訳している。しかし、(36)とは異なり、(37)では見出しの情報全体が変化し、「見送り」の意味は中国語ウェブニュース見出しには表れていない。

さらに、特別な例として、(38)のような外来語の連用形で止める見出しがある。

(38) 日原：中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート (2015/9/23)

中訳：习近平抵西雅图揭访美序幕

(38)のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しは「スタート」という形で終わっているが、動詞「スタートする」から転成したものと思われ、「始める」の意味を表し、動詞の働きをしている。翻訳された中国語ウェブニュース見出しを見ると、「始める」の意味は中国語の“开始”に直訳されておらず、“揭～序幕”というレトリックが用いられている。

## 5.2 動詞終止形

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しには動詞終止形で止める見出しが 20 例ある。そのほとんどは動詞のル形で止めるものであり、19 例ある。そのほか、否定を表す動詞のズ形で止めるものが 1 例ある。田中(1998)は動詞ル形で止める見出しについて、テンスやアスペクトは明示されないのが普通であり、過去も現在も未来も、すべて動詞のル形の表記となっている。そして、動詞の否定の場合は「ズ」が用いられると述べている。さらに、見出し文末で動詞のル形が多用されることについて、野口(2002:116-119)は、見出しには、

臨場感を高め、読者を記事の内容に引き込むために、すでに過去となった出来事を報道するのに現在形を使う場合があると指摘し、過去を表す動詞の現在形を「劇的現在」と呼んでいる。

(39) 日原: ミャンマー少数民族問題担当 日本の支援求める (2015/4/16)

(本文: …難民の帰還などに向けた日本の継続的な支援を求めました。)

(40) 日原: TPP 日米閣僚級協議 東京で始まる (2015/4/20)

(本文: …日米の閣僚級協議が東京で行われています/行っています。)

動詞止め見出しの特徴としては、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しに現れた動詞のル形と、ウェブニュースの本文に現れた動詞の形式とが対応していないことが挙げられる。例えば、(39)では、動詞の「求める」で止めているが、ウェブニュースの本文を見るとそれに対応する文は「理解を求めました」「支援を求めました」などであり、タ形の使用が見られる。また、(40)では、「始まる」に対応するウェブニュースの本文の表現は「始まっています」や「行われています」「行っています」などであり、動詞のテイル形の使用が見られる。これは寺川(1991:126)が述べているように、見出しの文法は短さを求め、同じ意味を表せるなら、タ形及びテイル形より短いル形を使うためである。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しがテンスとアスペクトを明示していないと言われている理由は、まさにこの点である。

動詞のル形で止める日本語ウェブニュース見出しを見ると、その文末には「求める」「始まる」「続く」「終わる」「示す」「強まる」「目指す」「述べ合う」などの動詞が現れている。それらを中国語に翻訳する際、その扱い方は主として三種類に分けられる。

- ①日本語の動詞の意味をそのまま対応させ、翻訳された中国語ウェブニュース見出しに表出させる。
- ②日本語の動詞の意味を翻訳された中国語ウェブニュース見出しに訳出させてはいるが、意味に「ずれ」が見られる。
- ③日本語の動詞の意味との対応がなく、翻訳された中国語ウェブニュース見出しに訳出されていない。

まず、①日本語の動詞の意味が訳出される見出しであるが、通例、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しに現れた動詞は、翻訳された中国語ウェブニュース見出しにおいて

は1文字か2文字で訳出されている。(41)から(43)のようである。

(41) 日原: IAEA で日本原発再稼働に理解求める (2015/9/15)

中訳: 日本望各方理解重启核电方针

(42) 日原: 日朝首脳会談から13年 確実な帰国を求める (2015/9/17)

中訳: 朝承认绑架已13年家属盼亲归

(43) 日原: 米長官 中国のサイバー攻撃に懸念示す (2015/9/11)

中訳: 美高官指中国仍实施网络攻击

(41)と(42)のように、日本語の「求める」を中国語に翻訳する際、翻訳された中国語ウェブニュースの本文では“希望”、“要求”、“敦请”となっているが、ウェブニュース見出しでは、“望”、“盼”といった1文字で表されている。また、(43)のように、「示す」を中国語ウェブニュース見出しでは“指”に翻訳している。しかし、このように1文字で表しているのは、動詞に対する制限があるためと考えられる。2文字の動詞で翻訳されている見出しが(44)から(46)である。

(44) 日原: 川内原発2号機 燃料を入れる作業終わる (2015/9/14)

中訳: 川内核电2号机燃料放置完毕

(45) 日原: 尖閣沖の排他的経済水域 中国調査船の活動続く (2015/9/23)

中訳: 中国调查船持续在尖阁活动

(46) 日原: 国会前 夜も法案反対の訴え続く (2015/9/17)

中訳: 反安保民众继续举行抗议集会

(44)では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた動詞の「終わる」が中国語ウェブニュース見出しで“完毕”に翻訳されている。(45)の「続く」は、ウェブニュースの本文では常に「訴えや活動や事態などが続いている」といったことを示唆しているが、それに対応する翻訳された中国語ウェブニュースの見出し及び本文では、“持续”が使われている。

その一方で、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの「求める」には、翻訳された中国語ウェブニュース見出しを見ると、(41)と(42)のように、例により“望”、“盼”と異

なる中国語訳も認められる。「続く」に対応する中国語訳を見ても、(45)の“持续”のほか、(46)の“继续”も見いだせる。要するに、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しに用いた動詞とは異なり、翻訳された中国語ウェブニュース見出しにはそれに対応した様々な訳語が使われているのである。

次に、②日本語の動詞の意味を翻訳された中国語ウェブニュース見出しに表出しつつも、少し意味に「ずれ」が見られる見出しを見る。これは、動詞「始まる」や「開かれる」で止める日本語ウェブニュース見出しの翻訳に認められるものである。「始まる」はウェブニュースの本文では「作業や集会などが始まりました」という意味を表しており、中国語の“开始～”に対応するが、実際には、“开始”のほかにも(47)のように“拉开帷幕”などの表現が使われている。

(47) 日原：「東京ゲームショウ」始まる (2015/9/17)

中訳： 2015 年东京电玩展拉开帷幕

そして、「始まる」は単なる本文の「始まりました」から抽出される何らかの物事が開始することを意味することに加え、「行う」という意味も含んでいる。(48)がそうである。このような場合、「開始する」(开始)より「行う」(举行)というニュアンスのほうが強い。

(48) 日原：安保法案 国会前で反対集会始まる (2015/9/16)

(本文：…午後 6 時半から集会が始まっています / 集会も始まりました。)

中訳：日民众在国会前举行抗议集会

(本文：…从今晚(16 日)6 时半开始举行抗议集会 / 开始拉开了帷幕。)

(48)のように、翻訳された中国語ウェブニュースの本文では、“开始举行”という表現を使っている。しかし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際には、「午後 6 時半から」という具体的な開始時間を省略したこともあり、“开始”を入れず、“举行”という表現で翻訳されている。

③日本語の動詞の意味を翻訳された中国語ウェブニュース見出しに表出していないものについては、その表出されない理由として主に四つのことが考えられる。

一つ目の理由としては、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの簡潔性を保つことが

挙げられる。(49)のように、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける情報を一部分省略することで、文末の動詞は表出されていない。

(49) 日原：茨城 常総 不明 15 人の搜索と救助続く (2015/9/12)

中訳：日本常总市仍有 15 人下落不明

二つ目の理由としては、ウェブニュース見出しの表す意味が推測できることが挙げられる。(50)では、ウェブニュースの本文では「作業が始まりました」を“开始…装填…”に翻訳し、動詞を二つ並べている。しかし、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは動詞“装填”と全体の文脈によって「始まる」の意を推測できるため、「始まる」に対応する表現はない。

(50) 日原：川内原発 2 号機 燃料入れる作業始まる (2015/9/11)

(本文：…11 日午後から、原子炉に燃料を入れる作業が始まりました。)

中訳：川内核电站 2 号机组装填燃料

(本文：…川内核电站的 2 号机组从今天下午起开始向反应堆装填核燃料。)

三つ目の理由としては、ウェブニュースの読者が変わることで、ウェブニュースの核心的情報を抽出し、必要でない見出しの情報を省略したことが挙げられる。(51)では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにある「日本の支援求める」という情報が翻訳された中国語ウェブニュース見出しには無い。オリジナルの日本語ウェブニュースは日本人の読者を中心としたものであり、その見出しは日本との関連性を強調している。しかし、読者が中国人に変わることで、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは、ウェブニュースの情報に基づき、中国人読者にとって重要的かつ核心的なものへと変容している。

(51) 日原：ミャンマー少数民族問題担当 日本の支援求める (2015/4/16)

中訳：缅政府将继续与少数民族对话

四つ目の理由としては、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際、情報を完全に变化させたことが挙げられる。例えば、(52)がそうである。

(52) 日原：南アフリカ 移民の店への襲撃相次ぐ (2015/4/20)

中訳：南非排外骚乱令国际担忧

最後に、否定を表す動詞の「ズ」形で止めるオリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて述べる。(53)では、日本語ウェブニュース見出しの文末では「行われず」を用い、ウェブニュースの本文では「行われませんでした」という表現となっている。翻訳された中国語ウェブニュース本文では、“计划落空”である。中国語ウェブニュース見出しには情報の変化が生じている。

(53) 日原：安保法案 参院特別委 総括質疑行われず (2015/9/17)

(本文：総括質疑の開催を目指しましたが、…反対で行われませんでした。)

中訳：朝野继续就安保法案展开攻防

(本文：举行总结性质询答辩，但由于…强烈抵制，执政党的计划落空。)

### 5.3 本節のまとめ

動詞連用形で止める日本語ウェブニュース見出しについては、動詞連用形の用法制限と必要度などの影響から数が少なく、僅か5例だけである。たとえば、「見送り」は実行を差し控えて様子を見ることという意味として“決定暂不”に翻訳され、動詞「スタートする」から転成した「スタート」は“揭～序幕”というレトリックを用い翻訳されている。中国語に翻訳する際に見出しの情報の省略または書き換えにより、意味が訳出されていない動詞連用形も少なくない。

動詞終止形で止める日本語ウェブニュース見出しについては、それを中国語に翻訳する際、文末の動詞が同じ意味を表す場合でも、意味が少しずれる場合でも、または完全に異なる場合でも、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは文脈を成り立たせるため、基本的に動詞の表現を入れることが窺える。そして、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に現れた動詞を通例1文字か2文字の中国語の動詞で訳出している。しかも、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しに用いた動詞の表現に比べ、翻訳された中国語ウェブニュース見出しにはそれに対応した様々な訳語が用いられている。

一方、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末に用いた動詞は、動詞連用形で

あれ動詞終止形であれ、その意味が翻訳された中国語ウェブニュース見出しで訳出されていないものもある。その理由としては、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する過程において、中国語の動詞の代替性や見出し情報の変化や、または、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの簡潔さを維持するために情報を一部分省略させたことなどが考えられる。

日中翻訳の過程に見られる動詞止め見出しの翻訳メカニズムを簡略にまとめると、表 4-6 のようになる。

表 4-6 動詞止め見出しの翻訳メカニズム

動詞の種類	翻訳メカニズム
動詞連用形	①訳出度が低い。 (要因:用法上の制限と必要度に関わる。)
動詞終止形	②翻訳された中国語ウェブニュース見出しは文脈を成り立たせるため、基本的に動詞の表現を入れる。 ③通例 1 文字か 2 文字の中国語の動詞で訳出している。 ④日本語の動詞表現に比べ、翻訳された中国語ウェブニュース見出しにはそれに対応した意味で様々な訳語を用いる。 ⑤日本語の動詞の意味が翻訳された中国語ウェブニュース見出しで表出されていないものもある。

## 6. まとめ

以上の考察から、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける漢語サ変動詞語幹止め、名詞止め、助詞止め、動詞止めといった文末表現が示した情報は中国語に翻訳する際にどのように扱われているのか、それぞれの翻訳メカニズムが明らかになった。そして、文末の情報が翻訳された中国語ウェブニュース見出しで訳出されているか否かについては、表 4-7 のように整理することができる。

表 4-7 文末の情報に関する翻訳状況

文末表現	総数	類型	各類型の数	訳出の数	未訳出の数
漢語サ変動詞語幹止め	43		43	26	17
名詞止め	20		20	6	14
助詞止め	19	へ	10	6	4
		に	3	2	1
		を	3	2	1
		か	2	0	2
		も	1	0	1
動詞止め	25	連用形	5	2	3
		終止形	20	11	9
合計			107	55	52
割合			100.00%	51.40%	48.60%

表 4-7 に従うと、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際には、その文末の情報が翻訳または復元されているものは考察資料全体の 5 割程度しかないことになる。そのほかは、表現の書き換え、見出しの一部省略、あるいは見出しの書き直しが行われ、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは復元されていないことになる。

これは一つの要因として、ウェブニュースの翻訳者が読者に強い印象を与えることを目的に、段数及び文字数の制約など見出しの作成規則、そして中国語の表現方式を配慮し、そこに編集が加えられたことが考えられる。もう一つ要因を挙げるとすれば、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末情報そのものの翻訳に加え、見出しの全体の翻訳が関わっていることが考えられる。見出しの全体への翻訳では、表現の補い、書き換えなど情報面の編集が認められている。

情報面で編集が行われていることについては、類型、言語外そして情報といった三つの点が影響を与えていると考えられる。まず、類型については、中国語の構文には動詞が欠かせないことが挙げられる。次に、政治に関わるウェブニュースでは読者の容認度を配慮し、緩和的な表現へと変えるという言語外の問題が示唆される。また、情報については、日本語のウェブニュースの更新は断続的に行われているが、そのすべてが中国語に翻訳さ

れているわけではないことが挙げられる。そのため、同じ話題に関わる情報をオリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは一度掲載した場合、その後は旧情報と見なし省略している。しかし、翻訳された中国語ウェブニュース見出しではニュースの背景を説明するため、新情報として新たに補う必要がある。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末表現がそれほど中国語に翻訳されていない理由としては、まさにこうした要因が関わっていると思われる。

## 第五章 ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳 における翻訳戦略

### 0. はじめに

オリジナルの中国語または日本語のウェブニュース見出しについて、それぞれの形式面と情報面における特徴及び作成の戦略を第二章で述べた。一方、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しから翻訳した日本語ウェブニュース見出しと、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しから翻訳した中国語ウェブニュース見出しにはそれぞれどのような翻訳特徴が現れているのであろうか。そして、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳という両過程において、それぞれどのような翻訳戦略が反映されているのであろうか。ここで述べる翻訳戦略は、いわゆる、翻訳者がどのような意図を持ってウェブニュース見出しの翻訳を行っているのかということである。本章では、翻訳された中国語または日本語のウェブニュース見出しをそれぞれオリジナルのウェブニュース見出しと対照するという考察の手法を用い、翻訳されたウェブニュース見出しとオリジナルのウェブニュース見出しとの類似点と相違点をまとめ、上の問題を明らかにする。

ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳について、それぞれ第三章と第四章で考察している。第三章では、人民網から収集した中日対訳のウェブニュース見出しを資料に、ウェブニュース見出しの中日翻訳過程における補足的情報の翻訳メカニズムについて、「主題」「引題」「副題」という概念を用い、中国語の単一见出しと複合見出しをそれぞれ対象に考察を行った。中国語ウェブニュース見出しに含まれている補足的情報の半分はそのまま直訳され、情報の完全性と豊富性を維持しているほか、省略や書き換えによって、中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しがより簡潔的かつ総括的な言葉で表されているという翻訳特徴を明らかにした。

第四章では、NHK からから収集した日中対訳のウェブニュース見出しを資料に、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける漢語サ変動詞語幹止め、名詞止め、助詞止め、動詞止めといった四種類の見出しが中国語に翻訳される過程において、その文末の情報に関する翻訳メカニズムを考察した。そして、日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出しの段数または文字数を統一するため、情報の省略、見出しの書き直しなどの加工

が施されており、その文末の情報が訳出されているものは考察資料全体の 5 割程度しかないという翻訳の実情を明らかにした。

本章は第三章と第四章で明らかになった結果を踏まえ、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳の過程にどのような翻訳戦略が反映されているのかを考察する。第 1 節では中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて、形式面と情報面を対照し、ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳戦略を明らかにする。第 2 節では、日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出しとオリジナルの中国語ウェブニュース見出しについて、形式面と情報面を対照し、ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳戦略を明らかにする。第 3 節では、情報の編集について、ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳における類似点を論じる。第 4 節では、考察の結果をまとめる。

### 1. ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳戦略

人民網はウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳しているが、本節では、その中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しを「翻訳された日本語ウェブニュース見出し」と呼ぶことにする。それを NHK のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと対照させる。

#### 1.1 形式面の対照

翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの形式面に認められる類似点と相違点について、表現形式と構文形式と二つの面からまとめていく。

##### 1.1.1 表現形式

翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの表現形式について、まず、文字数からみる。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数は図 5-1(第二章の図 2-3 を再掲)のように整理できる。

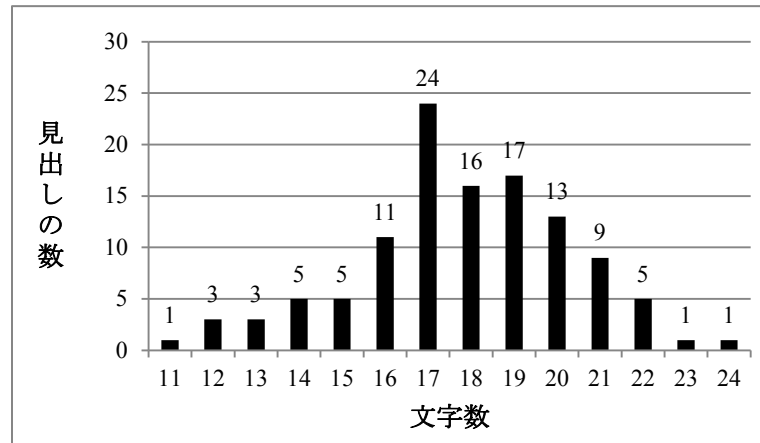


図 5-1 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数には 11 から 24 文字までのように幅が認められる。そのなかでも 17 文字の見出しが 24 例と、数的に最も多い。そして、17 文字から 19 文字の見出しが上位の 3 位までを占め、合わせて 57 例と資料の半分を占めている。

一方、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文字数を図 5-2 (第三章の図 3-2 を再掲) のように示すことができる。

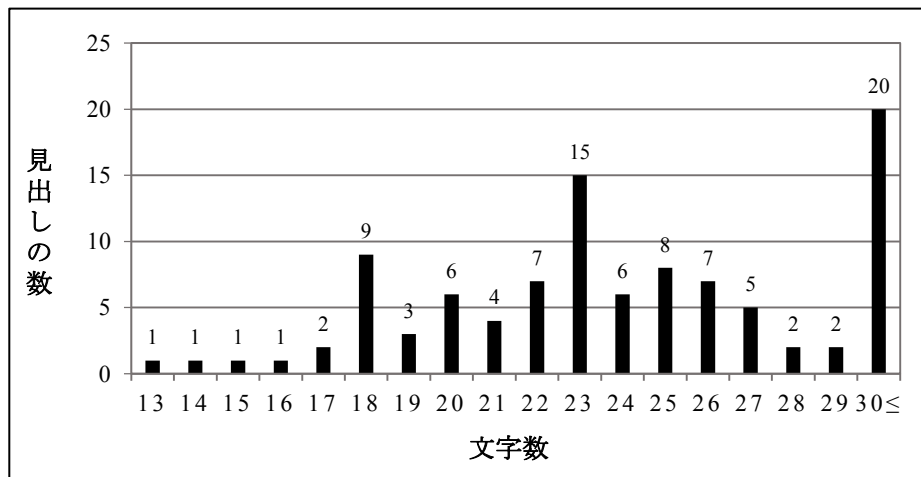


図 5-2 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しの文字数

翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文字数は 13 から 47 の幅となる。中でも 23 文字の見出しが一番多く現れている。しかし、24 文字以上から構成された見出しの数は 44 例であり、しかも 30 文字以上から構成された見出しの数は 20 例であり、相当の数がある。

このことから、翻訳された日本語ウェブニュース見出しはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと比べれば、はるかに多い文字数で作られている特徴が見いだせる。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文字数は 17 文字から 19 文字に集中しているが、翻訳された日本語ウェブニュース見出しには 23 文字、18 文字、25 文字の見出しが多く、文字数には分散した傾向が認められる。

次に、段数を見ておく。類似点としては、翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しはともに一段、二段及び三段見出しの形式を使用していることが挙げられる。翻訳された日本語ウェブニュース見出しの原文、すなわち、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには、単一見出しのほか、引題と副題を付けることで、二段または三段からなる複合見出しもある。翻訳された日本語ウェブニュース見出しの表現形式の多くは、そのオリジナルの中国語ウェブニュース見出しから影響を受けていると考えるが、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの表現形式に従って作られることもある。例えば、ニュースに関わる人物、地名、時間などを見出しの日本語訳文の一番前あるいは一番後ろで単独な一段にして表すことである。それに伴い、元々助詞を入れる所は空白や読点「、」に代用されている。

(1) 中原: 北京将推手机 APP 快速处理交通事故 (2015/9/11)

日訳: 北京 交通事故处理用携帯アプリをリリース

(1)では、「北京」の後ろに空白を入れて、助詞を使用していない。助詞を入れないことについては、野口(2002)、黒崎(2007)が述べるように、字数制限の影響、あるいは無助詞によって話題が提示でき、見出しの構成要素である語句の意味・位置などから省略された助詞を知ることが容易にできる場合、「が」「は」「を」などは省略されるとともに、読点または空白が用いられる。そのため、無助詞の表現を通じて、日本語訳文では見出しの話題を提示するとともに、中国語ウェブニュース見出しの情報を二段や三段の形式で表すことができていると考えられる。

一方、表現形式の相違点としては、翻訳された日本語ウェブニュース見出しには、(2)のように四段になっているものや、(3)のように二行で表されているものがあることが指摘できる。四段で表されている見出しは 1 例、二行で表されている見出しは 6 例ある。これらは、中国語ウェブニュース見出しの情報量が多く、翻訳者が意図的にその情報をできる

だけ保つようにしているためと考えられる。

【四段見出し】

(2) 日訳：長江客船転覆、必死の救助活動続く 14 人救助、7 人の死亡確認 (2015/6/3)

【二行になった見出し】

(3) 日訳：中国初の顔認識システム ATM 機がお目見え (2015/5/30)

「顔を使った現金引き出し」が実現

しかし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは改行して表示することがなく、すべて一行で表している。そして、一行の中で見出しを最大、三段にまで分けて表している。そのため、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しを探しても、上のような表現形式は見いだせていない。

### 1.1.2 構文形式

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの構文形式には、話題を提示する「主見出し」と、それを補足する「そで見出し」という二つの要素がある。この「主見出し」が必ずしも一つの段で表示されるとは限らない。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しが二段、または三段の表現形式で表されていたとしても、見出し全体を通してニュースの話題を伝えていることもある。このとき、「そで見出し」は存在しないことになる。

一方、翻訳された日本語ウェブニュース見出しにも、「主見出し」と「そで見出し」が存在している。翻訳された日本語ウェブニュース見出しが一段見出しである場合は、見出し全体を「主見出し」として見ることができる。(4) のようである。

(4) 中原：京薊城际快速列车开通 (2015/7/11)

日訳：北京一薊県間快速列車が開通

翻訳された日本語ウェブニュース見出しが二段や三段、または二行になった見出しの場合、「主見出し」と「そで見出し」の両方が現れることがある。(5) から (7) のようにである。下線を引いた部分が「そで見出し」と認める。

- (5) 中原：日本 2014 财年实际工资创最大降幅 (2015/5/20)

日訳：日本の実質賃金が過去最大の低下幅 14 年度

- (6) 中原：济南 90 后创客将“美丽济南”邮天下 (2015/7/8)

日訳：21 歳大学生、「美しい济南」郵便事業所を開業 済南市

- (7) 中原：中国首台可人脸识别 ATM 机发布：刷脸取钱成真 (2015/5/30)

日訳：中国初の顔認識システム ATM 機がお目見え

「顔を使った現金引き出し」が実現

(5)では、日本語ウェブニュース見出しは二段見出しであり、前の一段はニュースの話題を述べ、主見出しである。下線部の「14 年度」はこのニュースが指した期間を提示しており、後ろで単独な一段として表され、そで見出しである。(6)では、日本語ウェブニュース見出しは三段見出しである。下線部の「済南市」はそで見出しであり、ニュースの発生地を提示している。(5)と(6)が示しているように、翻訳された日本語ウェブニュース見出しではオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと同様に、時間や場所を表す表現が見出しの後ろに持って行って、単独な一段として表す傾向がある。(7)では、中国語原文は「主題＋副題」の複合見出しであり、日本語に直訳されており、日本語ウェブニュース見出しは改行して二行で表されている。そして、下線部の「『顔を使った現金引き出し』が実現」は中国語原文の副題の情報と対応しており、日本語ウェブニュース見出しではそで見出しになる。

しかし、(6)のように、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは「主見出し」は一段で表されることなく、「21 歳大学生」と「『美しい济南』郵便事業所を開業」という二段を合わせたものを「主見出し」として見るほうが妥当である。というのは、「21 歳大学生」と「『美しい济南』郵便事業所を開業」がニュースの話題だからである。

さらに、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは段に分ける表現形式を用いているとしても、「そで見出し」の存在が認められない場合がある。例えば、(8)と(9)のようである。

- (8) 中原：日美出口中国光纤预制棒存在倾销 (2015/5/19)

日訳：日米の光ファイバー母材、中国でダンピング認定

- (9) 中原：测颜龄网站一夜爆红：人脸识别技术测算年龄 (2015/5/6)

日訳：顔年齢診断サイト、一夜にして有名に

(8)では、中国語ウェブニュース見出しを日本語に翻訳すると、その訳文が二段見出しの形式で表されている。しかし、前後いずれの段も単独に見ると、ニュースの話題を把握することができない。二つの段を合わせて見る必要がある。(9)の中国語ウェブニュース見出しは「主題＋副題」の複合見出しである。ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では、その副題“人脸识别技术测算年龄”は省略されており、主題“测颜龄网站一夜爆红”は二段に分けて翻訳されている。そのため、これらのような翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは、すべての段を合わせたもの、すなわち見出し全体を主見出しとして見る必要がある。そで見出しは持っていない。つまり、構文形式の面では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと同様な特徴が認められる。

形式面で翻訳された日本語ウェブニュース見出しをオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとの対照を通して、二つのことが言える。

一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは段数の面では特別な翻訳例もあるが、表現形式及び構文形式では全体的にオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの特徴と類似している。この点からは、翻訳者がオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの特徴を把握しており、その上で翻訳された日本語ウェブニュース見出しの形式に工夫がなされていると言えるであろう。

もう一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは中国語原文の情報をできるだけ翻訳し伝えている。文字数の面では翻訳された日本語ウェブニュース見出しは中国語原文からの影響を受け、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しより多くの文字から作られている傾向がある。しかも、翻訳された日本語ウェブニュース見出しが長くなるときは二行で表されることもある。つまり、ウェブニュース見出しの中日翻訳過程では、翻訳者はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの形式的特徴に従って、日本語ウェブニュース見出しを作成しているとともに、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しが伝えた情報をできるだけその翻訳された日本語ウェブニュース見出しに入れようとする戦略を取っていることも強く反映されている。

## 1.2 情報面の対照

本節は翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見

出しの情報面について対照する。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは情報面において、段間の省略と文末の省略という二つの特徴を持っている。中でも、文末の省略は、オリジナルの日本語ウェブニュースの文末において形式動詞「する」や、述部などが省略されることを指し、見出しにおける情報量のコントロール、読者のニュース全体への興味を引き出すという役割を果たしている。文末の省略はこのように意図的に行われており、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの情報面に大きく影響を及ぼしていることが認められる。

ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では主に文末情報の省略と、見出し全体の編集という二つの面が翻訳された日本語ウェブニュース見出しの情報面に影響を与えている。

### 1.2.1 文末情報の省略

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しに現れた文末表現は表 5-1(第四章の表 4-1 を再掲)で示しているように、引用した表現を除き、漢語サ変動詞語幹、名詞、助詞、動詞といった四種類に大別できる。この中で意味的には動詞としての働きを維持しつつ、形式的には見出しを簡潔化することに役立つ有効な手段として、漢語サ変動詞語幹が一番多く用いられている。

表 5-1 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末表現

文末表現の類型	見出し数	割合
①漢語サ変動詞語幹	43	37.72%
②名詞	20	17.54%
③助詞	19	16.67%
④動詞	25	21.93%
⑤引用	7	6.14%
合計	114	100.00%

一方、翻訳された日本語ウェブニュース見出しに現れた文末表現について、その類型に基づいて整理すると、表 5-2 になる。表 5-2 の通り、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末では、漢語サ変動詞語幹や、名詞、助詞、動詞、引用した表現が現れているだ

けでなく、助動詞と記号を用い、見出しを止める場合も存在する。

表 5-2 中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しにおける文末表現

文末表現の類型	見出しの数	割合
① 漢語サ変動詞語幹	42	44.68%
② 名詞	20	21.28%
③ 助詞	8	8.51%
④ 動詞	13	13.83%
⑤ 助動詞	1	1.06%
⑥ 記号	4	4.26%
⑦ 引用	6	6.38%
合計	94 <sup>24)</sup>	100.00%

文末表現という点では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとの類似点として、三つを指摘することができる。

一つ目は、両方とも様々な文末表現を使用しており、なかでも漢語サ変動詞語幹止めが一番多く使われていることである。見出し文末では漢語サ変動詞語幹止め、名詞止め、助詞止め、動詞止めといった表現が使われているとともに、カギ括弧「」を使って引用の内容で止める場合もある。そして、どちらも漢語サ変動詞語幹で止められる見出しが一番多い。

二つ目は見出しの文末に漢語サ変動詞語幹が多用されており、(10)の「助詞＋漢語サ変動詞語幹」、または(11)の「漢語の連用」という用法が認められることである。

(10) 中原：上海质子重离子医院开业 (2015/5/9)

日訳：上海市陽子線・重粒子線病院が開業

(日原：外相 在外公館に IS テロ対策強化を指示 2015/9/11)

(11) 中原：女大学生 4 年穷游 227 个城市 平均 6 天游一城 (2015/5/6)

<sup>24)</sup> 翻訳された日本語ウェブニュース見出しは 100 例であるが、中日翻訳によって二段の形式で表されることになった 6 例は表 5-2 に入れていない。

日訳：中国、女子大生が4年間で227都市を貧乏旅行

(日原：チリ沖で大地震 沿岸で津波観測 2015/9/17)

翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末は漢語サ変動詞語幹を使用することで、形式動詞「する」が省略されている。ただし、漢語サ変動詞語幹の使用頻度ではオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとの間に相違点も認められる。漢語サ変動詞語幹で止める見出しは、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しには43例あり、資料全体を占める割合は37.72%となっている。一方、翻訳された日本語ウェブニュース見出しに現れた数はほぼ同じ42例であるが、割合は44.68%であり、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しより高い。「会談」「指示」「促進」などの漢語サ変動詞語幹がウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳する過程で数多く現れている。それは、中国語が漢字表記であるため、その影響を受け、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにある動詞を翻訳する際に、日中同形の二字漢語動詞がある場合、それをそのまま使う傾向にあるためと考えられる。

三つ目は、文末に現れた名詞、動詞及び助詞「へ」「に」「か」が共に認められることである。名詞の用法では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと同じように、(12)の「可能性」といった推測の意を表す表現が用いられている。また、両者の文末で現れた名詞には地名もあり、ニュースの発生地を単独に明示する傾向がある。

(12) 中原：中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2)

日訳：中国と韓国が自由貿易協定を締結、韓国の化粧品が安くなる可能性

(日原：バンコク爆弾テロで逮捕状 首謀者の可能性 2015/9/13)

動詞の用法では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末に動詞連用形と動詞終止形という二つが現れている。動詞連用形で止める場合には「引き上げ」「名乗り」「勢ぞろい」といった和語もあれば、「リリース」のようなカタカナの言葉もある。(13)では中国語の“推”は「発表して拡大する」という意味を表し、外来語の「リリース」とびったり対応するため、「リリース」に翻訳されている。オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは、文末に「スタート」という外来語が現れている例がある。

(13) 中原: 北京将推手机 APP 快速处理交通事故 (2015/9/11)

日訳: 北京、交通事故処理用携帯アプリをリリース

(日原: 中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート 2015/9/23)

また、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは動詞終止形で止められている。(14)は「呼ぶ」という動詞ル形で止める見出しであるが、ウェブニュースの本文では「様々な議論が巻き起こっている」という語句に対応している。それはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと同じく、見出しを止める動詞のル形を「劇的現在」の用法と見なすことができる。

(14) 中原: 民政局挂歧视女性海报引争议 (2015/4/22)

日訳: 北京の婚姻登録所に「妻は夫と勢力争いするな」のポスター 論議呼ぶ

(日原: IAEA で日本原発再稼働に理解求める 2015/9/15)

しかし、(14)のように動詞終止形で止める翻訳された日本語ウェブニュース見出しは 3 例しかなく、全体的に少ない。これは、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける動詞は意味的でも形式的でも日本語の漢語サ変動詞と類似しているものが多く、中日翻訳の際に和語動詞より漢語サ変動詞になりがちであるためと考えられる。

助詞の用法では、文末助詞「へ」「に」「か」の使用が翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと類似している。それぞれ例を挙げると、(15)から(17)になる。

(15) 中原: 韩国首尔市宣布将建慰安妇像 纪念二战 70 周年 (2015/5/7)

日訳: ソウル市、植民地解放 70 年を記念し慰安婦像建立へ

(日原: 汚染水問題解決に向け 地下水浄化し放出へ 2015/9/9)

(16) 中原: 中国土豪公司 6400 员工游法国 (2015/5/11)

日訳: 中国の気前のよい会社 従業員 6400 人をフランス旅行に

(日原: 台湾総統選 野党は蔡英文主席を候補に 2015/4/16)

(17) 中原: 中国成最大石油进口国之忧 外汇财富或转移给产油国 (2015/5/14)

日訳：中国は世界最大の石油輸入国に 外貨資産が産油国に流入か

(日原：中国の外貨準備高大幅減 当局介入の結果か 2015/9/8)

(15)では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの「へ」は中国語の“将”に対応しており、まもなく動作や状況が起ころうとしていることを意味し、「未来的志向」の用法である。(16)では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの「に」は中国語の見出しに対応する言葉はないが、目的格の「に」として理解することができる。これらの「へ」「に」の用法はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける使用用法と一致している。そして、文末を助詞「へ」「に」で止めることで、その後続の述語は省略されている。

(17)では、助詞「か」は中国語の“或”に対応しており、推測の意味を表している。翻訳された日本語ウェブニュース見出しで助詞止めは僅か8例しかなく、出現率がオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと比べてかなり少ない。このことから、ウェブニュース見出しの中日翻訳では助詞止めの用法が見出しの文末であまり活用されていないと言えるであろう。

一方、漢語サ変動詞語幹止め、助詞止め、助動詞止め、記号止めといった文末表現の使用上で、翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとの相違点が現れている。

まず、漢語サ変動詞語幹止めの使用について、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末では「外来語＋漢語サ変動詞語幹」の形になっている見出しが見られる。(18)のようである。

(18) 中原：重庆高速将用无人机拍违章 (2015/5/9)

日訳：重慶の高速道路 交通違反行為取り締まりにドローン活用

(18)の翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは、外来語「ドローン」と漢語サ変動詞語幹「活用」の間に格助詞「を」を省略しており、意味理解に差し支えない限り見出しを簡潔にしている。しかし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しではそのような表現は見いだせていない。

次に、助詞止めの使用について、相違点が二つ挙げられる。一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しには格助詞「を」または「も」で止める見出しがないことである。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの資料では、(19)のように助詞「を」で止める見出しがあり、対象を示している。日本語では「を」の後ろに付く動詞の意味は文脈によって推測することができるので、見出しの簡潔性に配慮するため、その後ろの動詞などの述部を落としている。また、(20)のように助詞「も」で止める見出しがあり、累加の意を示している。しかし、これらの用法は翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは見いだせていない。

(19) 日原：安倍首相 被災者の救命・救助に万全を (2015/9/11)

(20) 日原：チリ 巨大地震で 11 人死亡 津波被害も (2015/9/18)

もう一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しには複合助詞で止める場合があることである。(21)の文末に現れた複合助詞「にも」は、助詞「に」と助詞「も」を組み合わせた用法である。しかし、この用法はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは見いだせていない。

(21) 中原：微信、支付宝“烧钱”抢夺超市支付 (2015/5/14)

日訳：微信・支付宝 モバイル決済の戦いがスーパーにも

また、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末で助動詞「すべき」の使用を指摘することができる。(22)のようである。

(22) 中原：外交部：菲方“中国对南海主权声索引各国恐惧”指责毫无道理 (2015/4/15)

日訳：外交部、フィリピンは中国の領土主権を尊重すべき

(22)では、翻訳の過程で見出しの情報が完全に変化した但、日本語ウェブニュース見出しの文末にサ変動詞活用形「尊重す」と助動詞「べき」を組み合わせた表現で止めている。それはウェブニュース見出しで伝えたい主張と立場を強調することを目的としているからと考えられる。しかし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末で助動詞が使用された例は見いだせていない。

さらに、記号止めの用法について、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末はク

エスチョンマーク「？」で止められることがある。(23)と(24)が挙げられる。

(23) 中原：日本流行的“女子会”咱济南也有 (2015/5/7)

日訳：日本で流行の女子会 山東省済南市でも存在する？

(24) 中原：鎌田正志执掌中国区六年后跳槽国产品牌丸美

没了“中国通” 资生堂在华能否玩得转 (2015/7/9)

日訳：「中国通」を欠く資生堂 中国で業績伸ばせるか？

(23)では、「でも～？」という組み合わせで、疑問の形にしているが、強い断定の意味を表している。(24)では、「か+？」の形で中国語の“能否”に対応し、疑問を示している。しかし、中国語ウェブニュース見出しが疑問文であっても、その日本語訳文も疑問文になるわけではない。(25)のように、中国語の“为何”という疑問詞に対し、日本語では「理由」に翻訳することで、日本語訳文は平叙文に変わっている。

(25) 中原：中国游客为何追捧日本“神药” (2015/7/9)

日訳：日本の「神薬」が中国人観光客に大人気の理由

類似点として、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末では、漢語サ変動詞語幹や助詞で見出しを止める方法を使用することで、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末と同様に、形式動詞「する」や述部などが省略されていることが指摘できる。

一方、相違点も二つ指摘できる。一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの文末ではオリジナルの日本語ウェブニュース見出しより、漢語サ変動詞語幹が多く使われていることである。それは、中国語ウェブニュース見出しを日本語に翻訳するとき、動詞の意味が漢語サ変動詞語幹で言い表されるのが好まれるからである。楊(2010)や杉村(1994:14-18)、劉(2010)などの研究が指摘している通り、中国語は動詞的表現を多用するのに対し、日本語は名詞的表現を多用する。翻訳された日本語ウェブニュース見出しで漢語サ変動詞語幹が多用されるのは、中日翻訳を行う際に、中国語ウェブニュース見出しでは述語動詞が不可欠なこと(動詞的表現の多用)と、日本語ウェブニュース見出しでは名詞的表現が多用されるという二つの特徴が関与した結果と見ることもできるかもしれない。ここには日中同形の言葉に対して翻訳の工夫が表されているとともに、日中両言語のウェ

ブニュース見出しにおける言語的な違いが示されている。

もう一つは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでも、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでも、独自の文末表現が現れていることである。翻訳された日本語ウェブニュース見出しの資料ではクエスチョンマーク「？」の使用や、「外来語＋漢語サ変動詞語幹」というパターン、複合助詞「にも」、助動詞「すべき」などの使用も見られるが、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの資料にはそういった特徴は見いだせていない。また、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの資料には文末が助詞「を」「も」で止められる場合もあるが、これらの文末助詞が翻訳された日本語ウェブニュース見出しの事例は手元にはない。ウェブニュース見出しの中日翻訳で助詞「を」「も」が文末に活用されることがないのか、あるいは資料の制約によるものなのか、そのいずれかであろう。

### 1.2.2 全体の情報

見出しの全体に、場合によって、ニュースの話題を補足するそで見出しが付けられることは、翻訳された日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとの類似点として取り上げられる。

オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの資料では、そで見出しを付けている見出しは24例あり、割合では資料全体の約2割(24/114≈0.21)を占めている。そで見出しとして提示された情報は主にニュースに関する具体的な内容や説明、ニュースの結果や影響、ニュースの発生地、ニュースの背景、ニュースの情報源といった五種類がある。(26)から(31)のオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの下線部を見よう。

- (26) 日原: G7 外相会合開幕 テロ対策強化など協議へ (2015/4/15)
- (27) 日原: 阿蘇山で噴火発生 警戒レベル3に引き上げ (2015/9/14)
- (28) 日原: 災害臨時 FM ラジオ開局へ 茨城・常総 (2015/9/14)
- (29) 日原: 株価 1300 円超急騰 21 年ぶりの上げ幅 (2015/9/9)
- (30) 日原: 汚染水問題解決に向け 地下水浄化し放出へ (2015/9/9)
- (31) 日原: NHK 世論調査 憲法改正「必要ある」33% (2015/4/14)

(26)では、「テロ対策強化など協議へ」は開幕された G7 外相会合というニュースについて、具体的な会議内容を挙げている。(27)では、「阿蘇山で噴火発生」によって、「警戒レ

ベル3に引き上げ」という結果になったことを伝えている。(28)では、ニュースの発生地「茨城・常総」を提示している。(29)では、「株価 1300 円超急騰」という情報について、それが「21 年ぶりの上げ幅」と説明している。(30)では「地下水浄化し放出へ」の背景として「汚染水問題解決に向け」を提示している。(31)では「憲法改正『必要ある』33%」の情報源として「NHK 世論調査」を提示している。ただし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しのそで見出しが提示した情報には、ニュースに関する具体的な内容や説明が 10 例、ニュースの結果や影響が 7 例、ニュースの発生地が 4 例あり、それらの情報が常にそで見出しとして現れている。一方、ニュースの背景または情報源を提示しているそで見出しは数が少なく、わずか 3 例しかない。

一方、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの資料では、そで見出しを付けている見出しは 44 例あり、資料全体の 4 割以上(44/100=0.44)を占めている。割合だけを見ると、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しより高い。そして、そで見出しとして提示された主な情報はニュースに関する具体的な内容や説明、ニュースの結果や影響、ニュースの発生地、ニュースの背景といった四種類がある。そのほか、ニュースの情報源、ニュースに対する評価や予測などを提示する場合もあるが、数的には僅かである。翻訳された日本語ウェブニュース見出しにおけるそで見出しが提示した情報について、種類からみるとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと類似している。

人民網が翻訳した日本語ウェブニュース見出しでは、そで見出しとして最も多く提示された情報はニュースに関する具体的な内容や説明であり、13 例ある。その次はニュースの結果や影響であり、10 例ある。それらの情報が多数提示されていることはオリジナルの中国語ウェブニュース見出しに現れた副題と関わっている。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは主題に補足するために、ニュースに関する具体的な内容と説明や、ニュースの影響を副題として提示している。例えば、(32)と(33)のようである。

(32) 中原：中国开发首个全自由度太空机器人：模拟轨道加油 (2015/5/12)

日訳：中国が初の宇宙ロボを開発、軌道上での燃料注入を想定

(33) 中原：中韩两国签订自贸协定 化妆品有望变得更加便宜 (2015/6/2)

日訳：中国と韓国が自由貿易協定を締結 韓国の化粧品が安くなる可能性

(32)の中国語ウェブニュース見出しでは、“模拟轨道加油”は副題であり、中国が開発す

る宇宙ロボットについて、その機能を説明している。(33)の中国語ウェブニュース見出しでは、“化粧品有望变得更加便宜”は副題であり、中国と韓国が自由貿易協定を締結することで生じた影響を伝えている。こうした中国語ウェブニュース見出しを日本語に翻訳する際、副題の情報は直訳され、日本語ウェブニュース見出しでそで見出しとして表される傾向が見られる。

そして、翻訳された日本語ウェブニュース見出しではニュースの発生地をそで見出しとして提示しているものが9例ある。(34)と(35)の中国語ウェブニュース見出しにおいて、それぞれ「北京」と「済南市」というニュースの発生地を明示している。日本語に翻訳する際、それらがそで見出しとして単独な一段で表されている。

(34) 中原：北京新增商用新能源车福田占九成 (2015/5/7)

日訳：新エネルギー商用車の新規増加、福田汽車が9割 北京

(35) 中原：济南90后创客将“美丽济南”邮天下 (2015/7/8)

日訳：21歳大学生、「美しい济南」郵便事業所を開業 済南市

他方、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは中国人または中国語読者に向けられているため、中国国内のニュースを伝えるとき、「中国」を明示しない場合がある。ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では、「中国」を補充することで、そのニュースの発生地は中国であることを明示している。例えば、(36)のようである。

(36) 中原：女大学生4年穷游227个城市 平均6天游一城 (2015/5/7)

日訳：中国、女子大生が4年間で227都市を貧乏旅行

また、(37)と(38)のように、翻訳された日本語ウェブニュース見出しのそで見出しではニュースの背景を提示している。5例ある。提示されたニュースの背景は中国語ウェブニュース見出しから直訳したものもあれば、ウェブニュースの中日翻訳の過程で新たに補充した場合もある。

(37) 中原：被指用6翅8腿怪鸡 肯德基起诉10个微信账号 (2015/6/1)

日訳：「6翼8足の奇形鶏を使った」とのデマ流布 KFCが微信アカウントを提訴

(38) 中原：首都机场三座航站楼内原有吸烟室 6 月起全部关闭 (2015/5/27)

日訳：北京首都国際空港の喫煙室が 6 月より閉鎖 喫煙抑制条例の施行に伴い

(37) の中国語ウェブニュース見出しでは“被指用 6 翅 8 腿怪鸡”が引題であり、KFC が微信アカウントを提訴したことの背景と見なされる。日本語ウェブニュース見出しに翻訳する際には直訳され、そで見出しとして付けられている。(38) の中国語ウェブニュース見出しではニュースの背景は提示していないが、日本語ウェブニュース見出しに翻訳する際には「喫煙抑制条例の施行に伴い」というニュースの背景を新たに補充し、そで見出しとして付けられている。これらのように、翻訳された日本語ウェブニュース見出しにおいてニュースの背景をそで見出しとして提示することは、日本の読者がニュースの情報を理解しやすくするためと考えられる。

さらに、翻訳された日本語ウェブニュース見出しでは、(39) のようにニュースの情報源をそで見出しとして提示している場合もある。ただし、こうした例は 3 例しかない。

(39) 中原：月入不到四万五别说自己是中产阶级 (2015/7/11)

日訳：大陸部の中産階級は月収 4.5 万元以上 調査結果

翻訳された日本語ウェブニュース見出しではそで見出しが多く現れており、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しと比べ、情報量が多い。そして、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは見出しの原文、すなわち、中国語ウェブニュース見出しからの影響を受け、そで見出しではニュースに関する具体的な内容や説明、ニュースの結果や影響、ニュースの発生地、ニュースの背景といった情報を主に提示している。中国語ウェブニュース見出しではそれらの情報を引題または副題として提示しており、ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では引題または副題の情報が直訳され、日本語ウェブニュース見出しでそで見出しとして付けられている傾向がある。また、翻訳された日本語ウェブニュース見出しのそで見出しではニュースの発生地とニュースの背景が現れることが多く、それらの情報がウェブニュース見出しの中日翻訳で重視されていると言える。

人民網がウェブニュース見出しの中日翻訳を行う際には、直訳の場合が多いものの、情報の補充や省略によって見出し全体の情報が変化しているものも 6 割近くある。翻訳された日本語ウェブニュースの見出しの全体が、(38) と (39) のように情報を補充するほかに、

原文の中国語ウェブニュース見出しにおける引題と副題の情報について省略や書き換えなどの工夫がなされている場合がある。情報の省略については、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの簡潔性を維持することを目的としている。第三章の考察結果に従うと、ウェブニュース見出しの中日翻訳を行うときに、中国語ウェブニュース見出しには①長くなりすぎた表現、②主題に基づき一般知識から容易に判断できる情報、③否定的な表現、④詳しすぎる説明、⑤ニュース関係者の発言といった五種類の表現がある場合、翻訳された日本語ウェブニュース見出しで省略される可能性が高いことになる。そして、情報の書き換えについては、中国語ウェブニュース見出しに代表の例や具体的な説明が含まれる場合、翻訳された日本語ウェブニュース見出しではより総括的な表現に書き換えて表すことになる。情報を書き換えることは、中国語ウェブニュース見出しの情報を変化こそさせているが、見出しの情報を明確に伝えることに役立ち、読者のウェブニュース見出しに対する理解にとっても有利に働くと思われる。さらに、第三章で述べているように、情報の書き換えを通して、ニュースの主旨を強調し、ニュースの影響と評価を深める効果が認められる。

### 1.3 本節のまとめ

人民網が翻訳した日本語ウェブニュース見出しとオリジナルの日本語ウェブニュース見出しとの対照を通して、両者の形式面と情報面に特徴に類似点が多いことが明らかになった。

形式面について、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは段数の面では特別な翻訳例が現れているが、表現形式及び構文形式では全体的にオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの特徴と類似している。また、情報面について、翻訳された日本語ウェブニュース見出しは文末で情報を省略し、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しと同様な文末表現を用いている。これらの点から、翻訳者がオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの特徴を熟知しており、ウェブニュース見出しの日本語訳文の作成に工夫がなされていると言える。

また、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの形式面と情報面の特徴に従って、ウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳しているが、その過程で、原文の中国語ウェブニュース見出しの情報には省略が見られる。しかし、その一方で翻訳された日本語ウェブニュース見出しは長さに関係なく、翻訳者からは中国語ウェブニュース見出しが伝える情報をできるだけ翻訳された日本語ウェブニュース見出しに入れようとする姿勢がうか

がえる。そして、ニュースの背景や指示対象を明示するためにしばしば情報を補充している。

つまり、ウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳する過程では、翻訳者は日本語ウェブニュース見出しの簡潔性より、情報を明確に伝えることを重要視している。翻訳された日本語ウェブニュース見出しの情報をより明確にすることで、読者に見出しから翻訳されたウェブニュース本文の情報を容易に把握することができ、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと同様な戦略が反映されている。

## 2. ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳戦略

NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳では、ウェブニュース見出しを日本語から中国語に翻訳している。本節は、その日本語から翻訳された中国語ウェブニュース見出しを「翻訳された中国語ウェブニュース見出し」と呼ぶことにする。それを人民網のオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと対照していく。

### 2.1 形式面の対照

ここで注目するのは、文字数と段数を中心とする表現形式と、構文要素を中心とする構文形式の二つである。

#### 2.1.1 表現形式

まず、文字数については、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの文字数をそれぞれ整理して示すと、図 5-3(第二章の図 2-1 を再掲)と図 5-4(第四章の図 4-1 を再掲)のようになる。

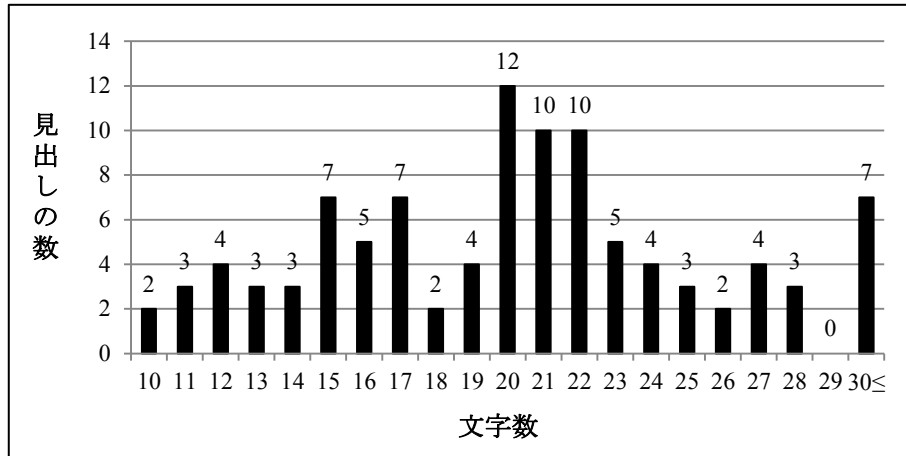


図 5-3 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの文字数

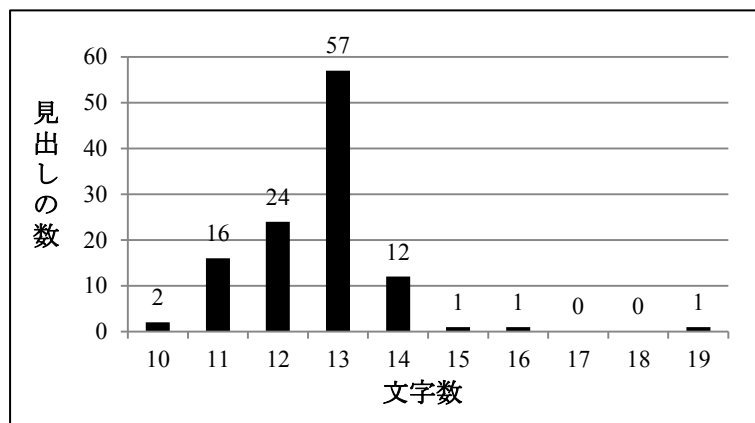


図 5-4 日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出しの文字数

図 5-3 と図 5-4 を見ると、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの文字数は 10 文字から 30 文字以上までと範囲が広いが、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは引題と副題を付けないため、文字数はかなり制限され、見出しは 11 文字から 14 文字に集中している。

次に、段数については、人民網のオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと NHK が翻訳した中国語ウェブニュース見出しは、両方とも一段見出しを用いていることが唯一の類似点である。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しには一段見出しのほかに、引題と副題を付けることで二段見出しや三段見出しがある。また、文字数が多い場合、見出しが二行で現れている。しかし、NHK の日本語ウェブニュース見出しは一段見出しから三段見出しまでであるが、翻訳された中国語ウェブニュース見出しはすべて一段の形で作られている。これらがどのようにして実現されているのかについては、次の (40) から (42) の下線

部に注目してみよう。

(40) 日原: スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 (2015/9/11)

中訳: 鈴木大地将出任体育厅长官

(41) 日原: 中国人の海外旅行先 日本が1位で全体の4割 (2015/9/9)

中訳: 日本居中国人旅游目的地首位

(42) 日原: 中国 習近平国家主席 アメリカ訪問をスタート (2015/9/23)

中訳: 习近平抵西雅图揭访美序幕

(40)では、日本語ウェブニュース見出しの文末で省略された述部を“将出任”と翻訳し、中国語訳文に補充しているが、その見出しは一段で表されている。(41)では、日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際、「全体の4割」が省略されている。中国人の海外旅行先について、「日本が1位」のほうがそれと「で」で繋げ補足的な要素と言える「全体の4割」よりは重要な地位にある。そのため、見出しの長さにも配慮し、「全体の4割」は省略されることになったと思われる。一方、(42)では、日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳するとき、「中国」が中国国内向けには不要となるため、省略されている。そして、「習近平国家主席」は主語として働くが、文字数を抑えるために、「国家主席」という職名も省略されている。ほかの情報を見出しの中国語訳文が別の一段を用い表現することは可能であるが、補足の情報として“抵西雅图”を補充している。(41)と(42)には、また、日本語ウェブニュース見出しでは格助詞が用いられるところを空白として示さなければならないのに対して、中国語ウェブニュース見出しでは格助詞を持たないため、むしろひとまとまりにして示さなければならない、という言語的差異も現れている。そして、日本語ウェブニュース見出しにおける情報は中国語ウェブニュース見出しが一段で表せない場合、そこにある補足的な情報を引題あるいは副題として付けずに省略している。他方、翻訳された中国語ウェブニュース見出しが一段で表すことができる場合、情報を補充するなら、わざわざ引題または副題を付けるのではなく、元々の主題の情報と融合させている。情報の省略や融合といった方法を通じて、翻訳された中国語ウェブニュース見出しに一段見出しの表現形式を保持させている。

表現形式の面では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは10文字から30文字以上までと文字数の範囲が広い。そして、一行や二行、また一段から三段までの表現形式を

取っている。これに対し、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは文字数が 11 文字から 14 文字に集中しており、短く簡潔に表されている。しかもすべて一段の形式を用いているため、表現形式に高い統一性が認められる。

### 2.1.2 構文形式

構文形式の面では、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは主題、引題、副題といった構文要素から構成されている。主題だけの単一見出しのほかに、主題に引題または副題を付ける複合見出しがある。これに対し、第四章の 1 節で明らかになったように、翻訳された中国語ウェブニュース見出しはすべて一段で表されている。つまり、翻訳された中国語ウェブニュース見出しはすべて単一見出しであり、引題または副題が付けられておらず、主題だけを持つ簡潔な構文形式となっている。(40)から(42)における翻訳された中国語ウェブニュース見出しのようである。再掲しておく。

(40) 中訳：鈴木大地将出任体育厅长官 (2015/9/11)

(41) 中訳：日本居中国人旅游目的地首位 (2015/9/9)

(42) 中訳：习近平抵西雅图揭访美序幕 (2015/9/23)

形式面について、翻訳された中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの中国語ウェブニュース見出しとの相違点を表 5-3 にまとめておく。

表 5-3 オリジナルの中国語見出しと翻訳された中国語見出しとの形式面における相違点

	オリジナルの中国語見出し	翻訳された中国語見出し
①文字数	10 文字から 28 文字、 30 文字以上もある	11 文字から 14 文字がほとんど
②段数	一段、二段、三段見出し	一段見出し
③構文形式	「主題」、「引題」と「副題」 単一見出しと複合見出し	「主題」 単一見出し

表 5-3 からわかるように、NHK が翻訳した中国語ウェブニュース見出しは形式面では、

オリジナルの中国語ウェブニュース見出しと一致していない。翻訳された中国語ウェブニュース見出しには形式面の簡潔性と統一性という顕著な個性が見られている。そうなった原因として、次の二点を指摘することができる。

一つ目は、NHK 側の見出しの作成規則が関わっていることである。NHK の翻訳担当者に問い合わせたところ、第四章の 1 節で述べたように、ウェブページの見目を常にきれいに整えるため、見出しの文字数はコントロールし、工夫していると言っている。

二つ目は、段数と文字数に配慮することで、翻訳者は翻訳された中国語ウェブニュース見出しを主題だけで作成し、それ以外の構文要素を付けないようにしているためである。翻訳の過程でオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの情報について再選択し、情報を省略したり、融合したりする編集を行っている

## 2.2 情報面の対照

本節は翻訳された中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの情報面について対照する。

翻訳された中国語ウェブニュース見出しの情報面は、ウェブニュース見出しの日中翻訳の過程において、主に文末情報の復元と、情報全体の編集という二つの面で影響されている。翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは文末情報の復元によって述語が現れること、そして、情報全体の編集によってニュースの発生地が提示されるという 2 点がオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴と類似している。

まず、文末情報の復元によって述語が現れることについてである。第二章の 1.1.2 節でオリジナルの中国語ウェブニュース見出しについて、単一见出しの場合、主述構文が主要な構文形式であることを指摘した。つまり、(43)のようにオリジナルの中国語ウェブニュース見出しには述語が常に現れている。

(43) 中原：北京将推手机 APP 快速处理交通事故 (2015/5/14)

(44) 日原：スポーツ庁初代長官に鈴木大地氏 (2015/9/11)

中訳：鈴木大地将出任体育厅长官

一方、第四章で明らかにしたように、NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳は、日本語ウェブニュース見出しの文末の情報が翻訳の過程で翻訳または復元されているもの

は資料全体の5割しかなく、そのほかは復元されていない。日中翻訳の過程において、日本語ウェブニュース見出しの文末で省略した情報を補充するのは、翻訳された中国語ウェブニュース見出しで情報の完全や文脈上で述語の働きが必要となる場合である。例えば、(44)では文末が人物名で止められ、その後ろの述語が省略されている。しかし、翻訳された中国語ウェブニュース見出しの文脈では述語が必要となるため、その省略した述語を“将出任”に翻訳して補充している。NHKに翻訳された中国語ウェブニュース見出しはすべて一段の単一見出しで表されている。そのため、ウェブニュース見出しの日中翻訳では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末を漢語サ変動詞語幹や名詞、「へ」「に」「を」などの助詞及び動詞で止める場合、その多くは(44)のように文末の述語が翻訳され、“将”や“就～V”構文と合わせて翻訳された中国語ウェブニュース見出しで表されている。これは中国語ウェブニュース見出しの表現形式に順応するための翻訳行為であると言える。

次に、見出しで情報全体が編集され、ニュースの発生地が提示されることについて論じる。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、中国国内のニュースを伝えるときには、「中国」を明示していない場合がある。他方、外国のニュースを伝えるときには、(45)のように常に国名でニュースの発生地を明示している。

(45) 中原：日本 2014 财年实际工资创最大降幅 (2015/5/20)

(46) 日原：4～6月のGDP マイナス1.2% 上方修正 (2015/9/8)

中訳：日本上调4至6月GDP统计值

一方、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しでは元々人物名、地名、国名または機関名が提示されている場合、中国語に翻訳する際、そのまま直訳される傾向がある。ただし、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは日本人または日本語読者向けなので、日本国内のニュースを伝えるとき、見出しには「日本」を明示しない場合がある。しかし、ニュースの受け手が中国人または中国語読者になることで、日本のニュースは外国のニュースになるため、ニュースの発生地を明示する必要がある。その必要性に応じて、ウェブニュース見出しの日中翻訳の過程では翻訳された中国語ウェブニュース見出しに新たにニュースの発生地を補充している。例えば、(46)では翻訳された中国語ウェブニュース見出しではニュースの発生地の「日本」を補充している。つまり、ニュースの発生地を明示

するという点では翻訳された中国語ウェブニュース見出しはオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと類似することが認められる。

しかし、ウェブニュース見出しの日中翻訳で行われた情報の書き換えや省略により、翻訳された中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの中国語ウェブニュース見出しとの間で次の二つが相違点として指摘できる。

一つ目は、予測や可能の意を表す方法が異なっていることである。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは(47)のように、予測や可能の意を表すために“可能”という表現を使っている。一方、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末が助詞「か」や、「見通し」「可能性」など予測や可能の意を表す名詞表現である場合、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは断定の言い方に書き換える傾向がある。例えば(48)の見出しがそうである。

(47) 中原：非飞机故障 可能人为导致 (2015/5/12)

(48) 日原：政府と沖縄県 協議継続も対立深まる見通し (2015/9/8)

中訳：沖縄基地搬迁问题分歧难消

二つ目は、ニュースに関する補足的情報の提示が異なっていることである。オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは情報面の一般的な特徴として、常に主幹的情報のほかには、補足的情報も現れる。そして、主幹的情報は主題として提示され、補足的情報は引題または副題の形で付けられている。引題として付けられた情報は主に「人物名及び機関名」「ニュースの背景」が現れ、副題として付けられた情報は主に「ニュース事件に関する具体的な内容や説明」「ニュース事件に対する評価や行動」「ニュース事件の影響」といった三種類が現れている。例えば、(49)のように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しでは、ニュース事件に関する内容や説明など具体的な情報が副題として付けられている。

(49) 中原：中国抗 MERS 药物研究获重要进展：可用于紧急防护 (2015/6/2)

(50) 日原：G7 外相会合開幕 テロ対策強化など協議へ (2015/4/15)

中訳：G7 外长会议在德国开幕

一方、ウェブニュース見出しの日中翻訳を行う際には、翻訳された中国語ウェブニュー

ス見出しの簡潔性を配慮し、引題または副題を付けないため、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける一段の情報すべてが省略されることがある。(50)のように、後ろの「テロ対策強化など協議へ」が「G7 外相会合」について具体的な情報を伝えてはいるが、ウェブニュース見出しの日中翻訳の過程で省略され、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは表されていない。実際、翻訳された中国語ウェブニュース見出しでは、形式面の制限を受け、引題または副題を付けないため、ニュース事件に関する具体的な内容や説明のほか、ニュースの背景、ニュース事件に関わる評価や行動、影響などの情報を提示した例も見いだせていない。この点はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと大きな相違と言える。

ウェブニュース見出しの日中翻訳では、翻訳された中国語ウェブニュース見出しを簡潔にするために情報の省略が見られるものの、情報面では補充と書き換えが行われている。ただし、その情報の補充や書き換えを行う前提としては、翻訳された中国語ウェブニュース見出しが一段の形式で表されることである。一段の形式で表すという制約の下で、翻訳された中国語ウェブニュース見出しはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける主幹的信息に準じて作られている。その主幹的信息は翻訳された中国語ウェブニュース見出しで主題として表されており、そのほかの情報は引題または副題の形で付けることはしていない。そのため、翻訳された中国語ウェブニュース見出しには引題または副題などの補足的情報が付けられておらず、全体的に情報を少なめに提供する傾向が認められる。

### 2.3 本節のまとめ

NHK が翻訳した中国語ウェブニュース見出しとオリジナルの中国語ウェブニュース見出しとの対照を通して、形式面と情報面における両者の特徴は類似していないことが明らかになった。

形式面について、文字数、段数、構文形式いずれの面にも大きな相違が認められる。翻訳された中国語ウェブニュース見出しには文字数と段数の統一性や構文上の簡潔性という顕著な個性が見られる。また、情報面について、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにはできる限り情報を補足し、より多くの情報を伝えることに対し、翻訳された中国語ウェブニュース見出しには引題や副題などの補足的情報を付けないため、全体的に情報を少なめに提供する傾向がある。この翻訳傾向は、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの情報面における特徴と異なるが、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しに反映さ

れた特徴とは一致しており、すなわち、翻訳されたウェブニュースの本文に対する読者の興味を引き出すための戦略であると考えられる。

つまり、ウェブニュース見出しを日本語から中国語に翻訳する過程では、翻訳者はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴に配慮しておらず、何よりも NHK 側の独自の作成規則を優先して簡潔に翻訳するという戦略を用いていると言えるであろう。

### 3. ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳における情報の編集

ウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳の両過程において、情報面では次の工夫が共通して認められる。

- ①ニュースの発生地や背景を明示するために情報の補充を行う。
- ②翻訳されたウェブニュース見出しの簡潔性のために、原文のウェブニュース見出しの一部を省略する。
- ③曖昧な表現や不確かな表現から明確な言い方へ書き換える。
- ④具体的な表現から総括的な表現へ書き換える。

そして、翻訳の際に情報を変化させる原因を、次の四つにまとめることができる。

一つ目は、翻訳されたウェブニュース見出しを簡潔に表すためである。翻訳者は翻訳されたウェブニュース見出しが核心的な情報を簡潔で伝えることを常に心がけている。原文のウェブニュース見出しをそのまま翻訳すると、日中両言語の違いによって、その訳文が長くなる場合は省略されることが多い。

二つ目は、翻訳されたウェブニュース見出しの表現形式をオリジナルのウェブニュース見出しの特徴に順応させるためである。特に日本語のウェブニュース見出しには述語動詞がなくても、助詞の作用または文脈によって意味が通じるが、中国語のウェブニュース見出しには一般に述語動詞が必要である。その違いはウェブニュース見出しの日中翻訳過程で述語を補充することを通して解決している。

三つ目は、翻訳されたウェブニュース見出しの読者を配慮しているためである。日中両言語の相違または立場など言語外の問題で、見出しの表現が違ってくる場合がある。翻訳されたウェブニュース見出しを読者により良く理解されるために、翻訳されるほうの言語文化に相応しい表現や緩和的な表現などへの書き換えが多用されている。

四つ目は、翻訳者自身またはメディア側の意図を果たすためである。ウェブニュース見出しの翻訳を行う際には、翻訳者が強調したい情報がある場合、またはメディア側の立場を明示したい場合がある。その際、ウェブニュースの本文における情報に基づき、省略や書き換えの方法を通じて、見出しの情報を編集している。

#### 4. まとめ

人民網が行ったウェブニュース見出しの中日翻訳と NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳においては、異なる翻訳戦略が反映されている。

ウェブニュース見出しの中日翻訳過程では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの形式面及び情報面における特徴を配慮しており、そのオリジナルの特徴に従って翻訳された日本語ウェブニュース見出しを作成している。そして、ウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳する際には、読者が見出しから翻訳されたウェブニュース本文の情報を容易に把握することができるように、情報を明確に伝えることを優先する翻訳戦略が用いられている。

これに対し、ウェブニュース見出しの日中翻訳過程では、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは表現形式、構文形式及び情報の編集いずれの面もオリジナルの中国語見出しと類似しておらず、顕著な個性が見られる。そして、ウェブニュース見出しを日本語から中国語に翻訳する際、翻訳されたウェブニュースに対する読者の興味を引き出すために、メディア側の独自の作成規則を優先し、見出しを少ない情報量で簡潔に表すという翻訳戦略が用いられている。

## 第六章 結 論

本研究では、人民網が行ったウェブニュース見出しの中日翻訳と、NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳を中心に、社会言語学の視点から、両者の翻訳過程におけるウェブニュース見出しの翻訳メカニズムと翻訳戦略について研究を行った。

### 1. ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳メカニズムと翻訳戦略

人民網に掲載されたオリジナルの中国語ウェブニュース見出しについて、第二章の1節ではその形式面と情報面に現れた特徴を考察した。表 6-1 のようにまとめることができる。

表 6-1 オリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける形式と情報

	特 徴	まとめ
形式面	①文字数は 10 文字から 30 文字以上と範囲が広い。 ②表現形式として通常一行で表されているが、文字数が 30 文字以上になる場合には二行で表される。 ③構文要素として主題や、引題と副題がある。主題だけ持つ単一見出しのほかに、主題の前で引題を付け、または後ろで副題を付けることで、複合見出しになる場合も少なくない。	オリジナルの中国語ウェブニュース見出しは、読者がウェブニュース見出しからウェブニュース本文の情報を容易に推測できるように、常に補足的情報を加えることで、ニュースの情報をより具体的に伝えている。
情報面	④見出しで常に主幹的情報のほかに、補足的情報も提示される。	

表 6-1 から分かるように、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しについては、補足的情報の存在が大きな特徴として捉えられる。

人民網はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しを日本語に翻訳しているが、第三章ではそのオリジナルの中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報を中心に、単一見出しと複合見出しの中日翻訳における翻訳メカニズムそれぞれについて考察を行った。そ

の結果は表 6-2 のようにまとめることができる。

表 6-2 人民網が行ったウェブニュース見出しの中日翻訳

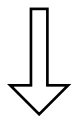
見出しの種類	翻訳メカニズム	まとめ
単一见出し	①ニュース事件に関する説明、背景などを補充する。	オリジナルの中国語ウェブニュース見出し：
「引題＋主題」 複合見出し	②ニュースの情報源と背景を示す引題を直訳する。 ③評価的または具体的な表現である引題を訳文の文末に移動して翻訳する。 ④長すぎる引題や否定表現の引題を省略し、曖昧な表現を明確な言い方に書き換える。	補足的情報を常に加えることで、情報面を具体化させている。  
「主題＋副題」 複合見出し	⑤演説テーマ、結果、代表例、評価などの副題を直訳する。 ⑥ニュースの主旨を強調するために副題の情報を書き換える。 ⑦具体的な説明を述べる副題は主題の情報と組み合わせて主見出しとして現れる。 ⑧主題から推測できる情報、発言を引用した副題を省略する。	中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出し： 補足的情報を直訳することで見出しの情報の完全性と豊富性を維持させるとともに、省略または書き換えを通じ、より簡潔かつ総括的な言葉で表されている。
「引題＋主題＋副題」複合見出し	⑨引題と副題のほとんどは単独に扱う状況と一致している。視点や立場の変化によって誤解を招きやすい引題を省略する。	

表 6-2 で示したように、人民網が行ったウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では、中国語ウェブニュース見出しにおける補足的情報について、日本語訳文が長くないことを前提とし、直訳しているほか、省略または書き換えを通じ、より簡潔かつ総括的な言葉で日本語ウェブニュース見出しに翻訳するという翻訳メカニズムが用いられている。

一方、ウェブニュース見出しの中日翻訳では、補足的情報の翻訳メカニズムにどのよう

な翻訳戦略が反映されているのかについて、第五章の1節で翻訳された日本語ウェブニュース見出しをオリジナルの日本語ウェブニュース見出しと対照させることを通じて明らかにした。その結果は表 6-3 のように示すことができる。

表 6-3 ウェブニュース見出しの中日翻訳における翻訳戦略

	類似点と相違点	まとめ
形式面	類似点： 一段、二段及び三段見出しを使用する。主見出しとそで見出しという二つの構文要素がある。主見出しが一段で表されるとは限らない。そで見出しが存在しない場合もある。	中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しは、段数の面では特別な翻訳例が現れているが、表現形式及び構文形式では全体的にオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの特徴と類似している。
	相違点： 翻訳された日本語ウェブニュース見出しには四段になっているものや二行で表されているものがある。	
情報面	類似点： ①文末には漢語サ変動詞語幹、名詞、動詞及び助詞が現れている。 ②情報の全体面でニュースの発生地や背景、ニュースに関する具体的な内容と説明がそで見出しとして提示されている。	中国語から日本語に翻訳されたウェブニュース見出しは、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しとほぼ同様な文末表現を用いて、文末の情報を省略している。中国語ウェブニュース見出しの補足的情報を直訳し、日本語ウェブニュース見出しでもそで見出しとして提示されている。
	相違点： ①文末では翻訳された日本語ウェブニュース見出しはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しより漢語サ変動詞語幹を多用しているほか、記号なども使用している。 ②翻訳された日本語ウェブニュース見出しにそで見出しが現れることはオリジナルの日本語ウェブニュース見出しより多い。	

表 6-3 で示したように、人民網に翻訳された日本語ウェブニュース見出しは形式面と情報面と両方ともオリジナルの日本語ウェブニュース見出しに類似している。つまり、ウェブニュース見出しの中日翻訳の過程では、人民網はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの形式面と情報面の特徴を配慮しながら、ウェブニュース見出しを中国語から日本語に翻訳している。その上で、情報を省略することが認められるものの、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの長さに関わらず、翻訳者からはできるだけオリジナルの中国語ウェブニュース見出しが伝えた情報を翻訳された日本語ウェブニュース見出しに入れようとする姿勢を窺うことができる。つまり、翻訳者は翻訳された日本語ウェブニュース見出しの簡潔性より、情報を明確に伝えることを重要視している。ウェブニュース見出しの中日翻訳では、翻訳された日本語ウェブニュース見出しの情報をより明確にすることで、読者に見出しから翻訳されたウェブニュース本文の情報を容易に把握できるようにするという戦略が取られている。

## 2. ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳メカニズムと翻訳戦略

NHK に掲載されたオリジナルの日本語ウェブニュース見出しについて、第二章の 2 節ではその形式面と情報面に現れた特徴を考察した。表 6-4 のようにまとめることができる。表 6-4 から分かるように、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しが簡潔に表されるのには、文末の情報を省略することにその大きな要因がある。

表 6-4 オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける形式と情報

	特 徴	まとめ
形式面	①文字数が 11 文字から 24 文字までの幅となる。 ②表現形式として一段の表現形式を用いるより、二段または三段に分けて表示することが頻繁に行われる。 ③構文要素としては、「主見出し」と「そで見出し」の二つが現れているが、それらは表現形式の段と必ずしも一対一の対応関係にあるわけではない。	オリジナルの日本語ウェブニュース見出しは、読者のウェブニュースの本文に対する興味を引き出すために、情報量を少なめにし、見出しを簡潔に表している。
情報面	④表現形式を問わず、話題のような主幹的情報を中心に伝え、それ以外の情報を加えない傾向がある。 ⑤見出しの文末では述部などが多数省略されており、見出し全体の表現ひいては情報を簡潔化する傾向がある。 ⑥見出しの文末では、形式動詞「する」の部分を省略することや、動詞「ル」形で表現することで、元々のテンス・アスペクトなどの文法形式を排除する傾向がある。	

NHK はオリジナルの日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳しているが、第四章でオリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末の情報を中心に、漢語サ変動詞語幹止め、名詞止め、助詞止め、動詞止めといった文末表現を持つ見出しについて、その中日翻訳における翻訳メカニズムをそれぞれ考察した。その結果を表 6-5 のようにまとめることができる。

表 6-5 で示したように、NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳の過程では、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しにおける文末の情報について、文末に現れた漢語サ変動詞語幹や名詞、助詞、動詞などの意味を直訳するよりは、書き換え、省略、または書き直しが多用されている。それによって、情報を簡潔に中国語ウェブニュース見出しへ翻訳するという翻訳メカニズムが用いられ、文末の情報は 5 割程度しか翻訳された中国語ウェブニュース見出しには表されていない。その原因として、一つには、段数及び文字数など形式面の制約を強く受け、そこに編集が加えられていることが考えられる。もう一つは、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末表現そのものの翻訳に加え、見出しの全体の翻訳が関わっていることが考えられる。

表 6-5 NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳

見出しの種類	翻訳メカニズム	まとめ
「漢語サ変動詞語幹止め」見出し	①漢語サ変動詞語幹は意味が類似する 1 文字か 2 文字の動詞を用いて翻訳される。	オリジナルの日本語ウェブニュース見出し： 文末表現によって述部が常に省略されている。
	②“将”、“就～V”構文が多用される。	
	③「漢語名詞＋漢語サ変動詞語幹」の場合は翻訳される可能性が高い。	
「名詞止め」見出し	④人物名の後に付く述語を補充し、地名を文頭に持っていく。	↓
	⑤「見通し」や「可能性」など予測や可能の意を表す名詞表現が断定の言い方に変える。	
「助詞止め」見出し	⑥「を」の後ろに付く動詞は中国語訳で文脈に適切な動詞が補充される。	日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出し： 文末の情報が翻訳または復元をされているものは考察資料全体の 5 割程度しかない。情報の書き換え、一部の省略、または見出しの書き直しにより、述部が復元されていない。
	⑦「へ」「に」の場合、ウェブニュースの本文の表現に基づいて、助詞の意味を判断し、中国語に訳出している。	
	⑧「か」「も」の場合、助詞の意味は中国語に訳出されていない。	
「動詞止め」見出し	⑨動詞連用形の場合、訳出度が低い。	
	⑩動詞終止形の場合、基本的に 1 文字か 2 文字の中国語の動詞表現で訳出される。	
	⑪日本語の動詞表現に対応した意味で中国語訳には様々な訳語を用いる。	
	⑫日本語の動詞の意味が中国語見出しで訳出されていないものもある。	

一方、ウェブニュース見出しの日中翻訳では、文末情報の翻訳メカニズムにどのような翻訳戦略が反映されているのかについて、第五章の 2 節で翻訳された中国語ウェブニュー

ス見出しをオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと対照させることを通じて明らかにした。その結果は表 6-6 のように示すことができる。

表 6-6 ウェブニュース見出しの日中翻訳における翻訳戦略

	類似点と相違点	まとめ
形式面	類似点：一段見出し、即ち「主題」だけの単一見出しを用いる。	日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出しは、文字数、段数、構文形式いずれの面においてもオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴と大きな相違があり、形式面には簡潔性と統一性という顕著な個性が現れている。
	相違点： <オリジナルの中国語見出し> 10 文字から 30 文字以上もある 一段、二段、三段見出しの形 単一見出しと複合見出し 「主題」「引題」「副題」 <翻訳された中国語見出し> 11 文字から 14 文字ほとんど すべて一段見出しの形 単一見出し 「主題」だけ	
情報面	類似点：主幹的情報を中心として伝える。	日本語から中国語に翻訳されたウェブニュース見出しは、引題や副題を付けず、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴と異なっており、情報量が少なめに抑えられている。
	相違点： <オリジナルの中国語見出し> できる限り補足的情報を提示し、より多くの情報を伝える。 <翻訳された中国語見出し> 引題や副題などの補足的情報を付けず、全体的に情報を少なめに提供する。	

表 6-6 で示したように、NHK に翻訳された中国語ウェブニュース見出しには形式面でも情報面でもオリジナルの中国語ウェブニュース見出しと異なる特徴が現れている。つまり、

ウェブニュース見出しの日中翻訳の過程では、NHK の翻訳者はオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴に配慮しておらず、NHK 独自の規則に準じてウェブニュース見出しを日本語から中国語に翻訳している。NHK 独自の規則というのは、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは形式面で統一的に整えられ、情報面で引題や副題が付けられることはないというものである。つまり、ウェブニュース見出しの日中翻訳では、翻訳者は何よりも NHK 独自の規則を優先して、翻訳された中国語ウェブニュース見出しを簡潔に表し、その情報量を少なめにしている。読者は翻訳された中国語ウェブニュース見出しからウェブニュースの話題は理解できるが、ウェブニュースの具体的な情報を獲得しようとするれば、ウェブニュースの本文を読むことが必要となる。そのため、翻訳された中国語ウェブニュース見出しで少ない情報を提供するということは、読者のウェブニュースの本文への興味を引き出すという目的を果たすための翻訳戦略であると言える。

### 3. 本研究の主張と再検討

本研究はウェブニュース見出しの中日翻訳と日中翻訳について、次の三点をとくに主張しておきたい。

①オリジナルのウェブニュース見出しの情報について、中日翻訳と日中翻訳とではそれぞれが異なる翻訳メカニズムを用いている。ウェブニュース見出しの中日翻訳では情報を明確に伝えるために、オリジナルの中国語ウェブニュース見出しの補足的情報が、翻訳された日本語ウェブニュース見出しにおいてもできるだけ表されている。それに対し、ウェブニュース見出しの日中翻訳では情報量を少なめにするために、オリジナルの日本語ウェブニュース見出しの文末情報のうち、それが翻訳された中国語ウェブニュース見出しにおいて表されるのは 5 割ほどしかない。

②ウェブニュース見出しの翻訳について、中日翻訳と日中翻訳とでは正反対の翻訳戦略が取られている。ウェブニュース見出しの中日翻訳では、詳しい情報を持つウェブニュース見出しを通じ、読者がウェブニュース本文の情報を容易に把握することができるという戦略が取られている。それに対し、ウェブニュース見出しの日中翻訳では、情報量の少ないウェブニュース見出しを通して、読者のウェブニュースの本文への興味を引き出すという戦略が取られている。

③翻訳されたウェブニュース見出しの情報面は、中日翻訳と日中翻訳とも原文のウェブニュース見出しに影響されたところが多い。人民網が翻訳した日本語ウェブニュース見出しは形式面と情報面でオリジナルの日本語ウェブニュース見出しの特徴に類似しているところがあるが、情報を明確に伝えるという点では、常に情報を具体化している原文の中国語ウェブニュース見出しの影響を受けていると言える。一方、NHK が翻訳した中国語ウェブニュース見出しは形式面も情報面もオリジナルの中国語ウェブニュース見出しの特徴と大きな相違が見られるとともに、見出しの情報量を控えて簡潔に表すという点では、原文の日本語ウェブニュース見出しに反映された特徴と類似している。

また、本研究でウェブニュース見出しの日中翻訳及び中日翻訳を再検討したところ、オリジナルのウェブニュース見出しに対して、単に翻訳の作業がなされているだけでなく、その過程でしばしば編集の行為が加えていることも明らかになった。ウェブニュース見出しの情報面について、省略や補充、書き換えという編集がなされることも日中翻訳と中日翻訳に共通して認められる。

ウェブニュース見出しの翻訳過程で情報面の編集が行われる原因として、類型の問題、言語外の問題、新情報と旧情報の問題、ニュースメディア側の規則といった四つの問題が考えられる。

まず、類型の問題である。例えば、日本語ウェブニュース見出しでは助詞や動詞が省略されがちであるが、中国語ウェブニュース見出しの構文には動詞が欠かせない。日本語ウェブニュース見出しを中国語に翻訳する際、動詞などを補って表現すると、翻訳された中国語ウェブニュース見出しが長くなるので、日本語ウェブニュース見出しの一部は削除されることになる。次に、言語外の問題である。政治に関わるウェブニュースでは読者の容認度を配慮し、緩和的な表現へと変えることが示唆される。また、情報の問題であるが、ウェブニュースは連続的に更新しているが、そのすべてが中国語あるいは日本語に翻訳されているわけではない。そのため、同じ話題に関わる情報をオリジナルのウェブニュース見出しでは一度掲載した場合、その後は旧情報と見なし省略している。しかし、翻訳されたウェブニュース見出しではニュースの背景を提示するため、新情報として新たに補う必要がある。さらに、NHK が行ったウェブニュース見出しの日中翻訳では、翻訳されたウェブニュースに対する読者の興味を引き出すために、メディア側の独自な作成規則を優先させている。その作成規則によって、翻訳された中国語ウェブニュース見出しは表現形式面で統一され、少ない情報量で簡潔に表されている。

ウェブニュース見出しの中日翻訳及び日中翻訳では、日中両言語の類型、新情報と旧情報の扱い方、政治など言語外の要因、またはニュースメディア側の規則と方針から大きな影響を受けているため、翻訳に伴って情報の編集も必要である。その編集は翻訳を基礎とし、その上加えられた修飾的な行為であり、情報が選択され伝えられることもあるように、あくまでニュースメディア側の何らかの意図が反映されたものである。

とはいえ、編集を加えて翻訳された日本語及び中国語ウェブニュース見出しでは、情報を一段で表示するにせよ、いくつかの段に分けて表示するにせよ、ウェブニュースの話題など主幹的情報を中心に簡潔かつ明確的に伝えることを共通特徴として指摘できる。

#### 4. 今後の課題

本研究では、ウェブニュースの中日翻訳及び日中翻訳について対照し、考察してきたが、資料は人民網と NHK という中日両国それぞれ一つのニュースメディアから選び取ったものなので、分析と考察には限りがある。今後は、ほかのニュースメディアが行ったウェブニュースの翻訳を視野に入れ、ウェブニュース見出しに関する翻訳について考察をさらに深めていきたい。また、本研究では日中両言語のウェブニュース見出しを対象に、その中日翻訳及び日中翻訳における翻訳メカニズムと翻訳戦略を検討してきた。しかし、ここで明らかになった見出しの翻訳メカニズムと翻訳戦略は、新聞紙の見出しや雑誌の見出し、映画の見出しなど、ウェブニュース以外の文章を対象とする中日翻訳及び日中翻訳では同様に捉えることができるのであろうか。今後、あらゆるジャンルの見出しに着目し、日中両言語の翻訳研究を展開したい。

さらに、ウェブニュース見出しだけでなく、ウェブニュースの本文に関する翻訳においても情報面の編集が見られる。例えば、日本語のウェブニュース本文を中国語に翻訳する際には、ウェブニュースを統括する冒頭の一段落が削除されるため、翻訳された中国語ニュース本文は統括機能の冒頭を持たず、オリジナルのウェブニュース本文の特徴と異なっている。こうした編集はメディア側独自の翻訳規則によるものである。また、ウェブニュース本文の中日翻訳と日中翻訳は両者とも、関係者からの個人的な見解、またはメディア側の見解に関わる情報を削除し、翻訳されたウェブニュースの本文では表されていない。このような編集は客観的な事実を中心に伝える方針に従って行われるものである。今後、

ウェブニュースの翻訳に関する研究をウェブニュース見出しの部分に限らず、ウェブニュースの本文へと進め、その中日翻訳と日中翻訳がどのような翻訳メカニズムを用い、そこにどのような翻訳戦略が反映されているのかを研究課題としたい。

## 参考文献

- 青山和輝(2016)「見出しの文法：テンス・アスペクト表現の類型」『東京大学言語学論集』37(1), 1-16, 東京大学大学院人文社会系研究科・文学部言語学研究室.
- 尹盛熙(2015)「新聞見出しにおける日韓の省略と縮約—形式的違いを中心に—」『日本學報』(104), 33-50, 韓国日本學會.
- 稲井聡、芋野美紗子、土屋誠司等(2012)「Web ニュース記事データを用いた見出し文の意味的具体化」『研究報告知能システム(ICS)』2012-ICS-166(1), 1-6.
- 岡村正章(1995)「『典型的な動詞連用形名詞』に関する一考察」『上智大学国文学論集』(28), 73-89, 上智大学.
- 金子喜三(1976)『新聞学研究』 芦書房.
- 北村よう(1995)「中国語話者の作文における文接続の問題点」『東海大学紀要』(15), 1-11, 留学生教育センター.
- 久野暲(1978)『談話の文法』 大修館書店.
- 黒崎佐仁子(2007)「話題提示に見られる無助詞文の条件—ニュース見出しを中心として」『早稲田日本語教育学』(1), 67-80, 早稲田大学大学院日本語教育研究科.
- 小林英樹(2004)『現代日本語の漢語動名詞の研究』 ひつじ書房.
- 杉村博文(1994)『中国語文法教室』 大修館書店.
- 杉村泰(2004)「格助詞『へ』に見る近未来都市(都市と文化)」『言語文化研究叢書』(3), 49-64, 名古屋大学大学院国際言語文化研究科.
- 竹中佐英子(2006)「日本のニュースの中国語訳について」『日中言語対照研究論集』(8), 122-135, 日中対照言語学会.
- 田中哲哉(1998)「新聞の見出しの文法的特徴と機能」『龍谷大学国際センター研究年報』(7), 67-78, 龍谷大学.
- 坪井睦子(2017)「メディア翻訳の社会言語学—ニュース・ディスコースにおける翻訳とイデオロギー」井上逸兵編『朝倉日英対象言語学シリーズ[発展編] 1 社会言語学』, 43-60, 朝倉書店.
- 寺川みち子(1991)「新聞見出しに見る装定と述定」田島毓堂、丹羽一彌編(1992)『日本語論究 3:現代日本語の研究』, 109-128, 和泉書院.
- 西尾寅弥(1961)「動詞連用形の名詞化に関する一考察」『国語学』(43), 60-81, 国語学会.

- 野口崇子(2002)『『見出し』の“文法”―解説への手引きと諸問題』『講座日本語教育』(38), 94-124, 早稲田大学日本語研究教育センター.
- 野田春美(2006)「新聞の見出し末における格助詞・とりたて助詞の特徴」上田功・野田尚史(2006)『言外と言内の交流分野 小泉保博士傘寿記念論文集』, 433-443, 大学書林.
- 浜田純一、桂敬一、田島泰彦(2009)『新聞学』 日本評論社.
- 彭広陸(2013)「新聞記事における主語のあり方と視点との関わり: 中日両語の比較を中心として」『対照言語学研究』(23), 45-65, 2013.
- 水内純清(2002)「統語論にみる新聞見出しの形態研究」『東アジア日本語教育・日本文化研究』(5), 129-133, 東アジア日本語教育・日本文化研究学会.
- 森山卓郎(2009)「新聞見出しの文法・序論」『日中言語研究と日本語教育』(2), 13-20, 好文出版.
- 湯浅千映子(2014a)「ネットのニュース記事における見出しの機能: Yahoo トピックスを用いて」『早稲田日本語研究』(23), 13-23, 早稲田大学日本語学会.
- 湯浅千映子(2014b)「Yahoo きつず「気になるニュース」の見出しの機能 一般の新聞の見出しとの比較から」『埼玉大学日本語教育センター紀要』(8), 13-23, 埼玉大学日本語教育センター.
- 湯浅千映子(2016)「NHK『NEWS WEB EASY』のヘッドラインの機能: NHK『NEWS WEB』との比較と日本語授業への活用」『埼玉大学日本語教育センター紀要』(10), 17-28, 埼玉大学日本語教育センター.
- 湯浅千映子(2017)「NHK『NEWSWEB』に見る臨時一語のパラフレーズと日本語授業の実践 NHK『NEWS WEB EASY』との比較の中で」『埼玉大学日本語教育センター紀要』(11), 51-61, 埼玉大学日本語教育センター.
- 楊凱榮(2011)「日中連体修飾節の相違に関する考察」《汉日语言对比讨论丛》(2), 1-32, 汉日对比语言学会.
- 李正政(2016a)「ウェブニュース見出しの翻訳における補足的情報の扱い―中国語から日本語への翻訳プロセスを中心に―」『北研学刊』(12), 124-148, 広島大学北京研究センター.
- 李正政(2016b)「网络新闻标题的汉日翻译研究―以“人民网”为例―」『语言文化学刊』(3), 94-104, 比較語言文化学会.
- 李正政(2017)「ウェブニュース見出しの文末表現における日中翻訳―NHK を対象として

- 一」『通訳翻訳研究』(16), 21-42, 日本通訳翻訳学会.
- 渡邊京子(2005)「女性雑誌の見出し表現における一考察—かぎ括弧と引用表現をめぐって」  
『武蔵野大学大学院紀要』(5), 113-122, 武蔵野大学大学院紀要編集委員会.
- 康庆(2005)《论网络新闻的标题》 山東大学修士學位論文.
- 劉丹青(2010)“汉语是一种动词型语言—试说动词型语言和名词型语言的类型差异”《世界汉语教学》(24), 3-17, 世界汉语教学学会.
- 彭戴娜(2006)《新闻标题语法特点研究》 湘潭大学修士學位論文.
- 邱沛篁(1998)《新闻传播百科全书》 四川人民出版社.
- 孫晨钟(2007)《网络新闻标题与平面新闻标题差异性研究》 四川大学修士學位論文.
- 章颖文(2012)《“人民网”中的日语翻译研究—功能翻译理论视角下的探析》 寧波大学  
修士學位論文.

## 用例出典

1. 人民網の中日対訳ウェブニュース見出し(2018年1月30日現在)

「人民網」：<http://www.people.com.cn>

「人民網日本語版」：<http://j.people.com.cn>

2. NHKの日中対訳ウェブニュース見出し(2018年1月30日現在)

「NHK NEWS WEB」：<http://www3.nhk.or.jp/news/index.html>

「NHK WORLD-Chinese」：<http://www3.nhk.or.jp/nhkworld/zh>

3. 人民網の中国語ウェブニュースは次のニュースメディアから転載したことがある。

安徽商報：<http://epaper.anhuinews.com/html/ahsb.shtml>

北京日報：<http://bjrb.bjd.com.cn>

北京晚報：<http://bjwb.bjd.com.cn>

北京商報：<http://www.bbtnews.com.cn>

重慶商報：<http://e.chinacqsb.com>

重慶日報：<http://www.cqrb.cn>

参考消息網：<http://www.cankaoxiaoxi.com>

華商網-華商報：<http://www.hsw.cn>

環球時報-環球網：<http://www.huanqiu.com>

廣州日報：<http://gzdaily.dayoo.com>

海關總署網站：<http://www.customs.gov.cn/publish/portal0>

經濟參考報：<http://jjckb.xinhuanet.com>

京華時報：<http://epaper.jinghua.cn>

人民網-旅遊頻道：<http://travel.people.com.cn>

人民日報（北京）：<http://bj.people.com.cn>

人民日報海外版：<http://paper.people.com.cn/rmrbhwb>

日經中文網：<http://cn.nikkei.com>

文汇报：<http://whb.news365.com.cn>

新华网：<http://www.xinhuanet.com>

新京报：<http://www.bjnews.com.cn>

中国航天报：<http://www.csn.spacechina.com>

中国经济周刊：<http://paper.people.com.cn/zgjzk>

中国科学报：<http://news.sciencenet.cn>

中国网：<http://www.china.com.cn>

中国新闻网：<http://www.chinanews.com>

## 謝 辞

本論文の執筆に当たり、多くの方々から貴重なご指導とご協力を賜りました。心より感謝しております。

主指導教員の佐藤暢治先生には本論文の構想段階から仕上げに至るまで終始、温かくご指導をいただきました。博士後期課程の三年間、毎週時間をさいて論文の個別相談をしていただきました。本論文の修正段階では、本論文の細部にわたりご指導をくださるとともに、励ましてくださいました。2018 年のお正月まで、佐藤先生が本論文の日本語チェックに時間を費やしてくださったことに深い感銘を覚えました。佐藤先生の熱心なご指導のおかげで、博士論文を書き上げることができました。この三年間、佐藤先生に学会発表や論文投稿などあらゆる面でいつもご関心とご支援をいただき、大変お世話になりました。深く感謝申し上げます。

また、副査である関西学院大学の于康先生、並びに、本学の高永茂先生、深見兼孝先生、堀田泰司先生にも貴重なご助言をいただきました。于康先生は、本論文の枠組みや方法などについてご助言をくださいました。高永茂先生は、社会言語学の視点から用例分析についてご指導をくださいました。深見兼孝先生は、概念説明や日本語表現などについてご助言をくださいました。堀田泰司先生は、研究成果が日本語教育にどう活用できるのかについてご助言をくださるとともに、研究に対する姿勢や妥協せず「精進」に頑張ることの大切さを教えてくださいました。深甚なる感謝を致します。

本研究の第四章の考察では、NHK 日本放送協会の番組「NHK WORLD-Chinese」へ問い合わせをしましたが、ご担当の方には資料を提供していただくとともに、快く協力していただきました。ここに感謝の意を表します。

研究生生活においては、幸いにも多数の友達との出会いに恵まれ、その友達と博士後期課程を共に過ごしたことは、たくさんの美しい思い出になりました。特に同研究室の王貞貞さん、唐彬さん、庄瑜さんには研究遂行にあたり、日頃より有益なご討論とご助言をいただきました。深く謝意を表します。

広島大学での留学生活においては、独立行政法人日本学生支援機構、日本藤井国際奨学財団、広島大学からご支援をいただきました。そのおかげで、私は経済的な不安を解消し、学習と研究に集中することができました。心より感謝しております。

最後に、博士後期課程に進学することを支えてくださり、今までいつもそばで温かく見守り続けてくれている両親に深く感謝いたします。これから少しずつ時間をかけて恩返しをしたいと思います。

2018 年 3 月 李正政